EKL64344N1 2007.11

TOTO

施工指導書

ユニットバスルーム

和洋風タイプ（基本編）

製品の機能が十分に発揮されるように、この施工指導書の内容にそって正しく組立ててください。
組立て後は、お客様に使用方法を十分にご説明ください。

「基本編」INDEX

基本事項

■工事前の打合せ確認事項

(A)見積り及び契約条件の確認

●見積書は、標準では下記条件に基づいて見積りしております。

(a)見積りに含まれない工事

(1) 標準墨出し工事。（ただし、ユニット据付用墨出しはUB工事）
(2) 雑排水トラップ及び汚水管用のスラブスリーブ入れ工事（位置出しの工事も含む）及びその補修工事。但し、埋戻しはユニット工事。
(3) 給水・給湯・冷水配管及びバランス釜フードなど吸排気管用のコンクリート壁、又はブロック壁の穴開け、埋戻し及びその補修工事。
(4) ユニット基礎工事。
(5) 天井ジョイントボックス以降の電気配線及びその結線工事。
(6) 給水・給湯・冷水配管のユニット外枝管工事及びその接続工事。
(7) 雑配管トラップ、排便接続管継手以降の枝管工事及びその接続工事。
(8) 天井換気口以降のダクト工事及びその接続工事。
(9) 残材の場外搬出工事。（ただし、場内で指定場所までの小運搬はUB工事）
(10) ユニット外装工事。
(11) ユニットにコンセントを取付ける場合は、コンセント回路に設置されるべき漏電遮断器などの器具及びその取付け及び配線・結線工事。
(12) ハツリ工事。
(13) ユニット引渡し検査後に清掃作業。（完成時におけるユニット内清掃工事は1回のみ行います）
(14) ガス配管工事。

(b)無償にて支給願う資材など

(1) 据付けに要するモルタル、又は砂・セメント（モルタル量約0.05m^3／Set）
(2) 現場作業用動力・光熱・水・その他

(c)無償にて貸与願う設備など

(1) ユニット部品搬入用リフトなどの運搬設備及び運転者。
(2) 現場倉庫
(3) 電話機（ただし、電話料金実費はお支払いします）

(d)その他

(1) 本見積りにはパーツモデル及びモデル製作は含んでおりません。
(2) 本見積りには労災保険を含んでおりません。
(3) ユニット部品搬入のための開口部及び小運搬の通路の確保をお願いします。
(4) 取付け完了後の養生及び保全の責については、弊社にその責を負いかねますのでご注意ください。
(5) 通水・漏電検査などは責任者の立合いをお願いします。

(B)現場打合せ

(a)東陶ユニットバス標準設計条件をカタログやUB商品知識などにて十分に理解してください。

(b)取合い及び納まりについて、建築及び関係業者（設備・電気など）と詳細に打合せを行ってください。打合せ事項及び注意事項に関してはユニットバスルームTEXT（UBの商品知識）を参照してください。又、後でトラブルのないよう各関係者に確認し、サインをもらっておいてください。

(c)建築の工程に基づき、UB作業工程を立ててください。（適正な人員・工期及び資材などを考慮し十分に検討すること）
建築の工程では、次のことに注意してください。

(1) UB着工日
(2) UB躯体工程（特に1フロア当たりの日程）
(3) UB器具取付工程
(4) 検査日
(5) 竣工日

(C)荷受け及び現場搬入

(a)現場搬入日の決定

(1) UB資材納期を確認する。

(2) 現場搬入の日時は建築担当者（揚重係）と打合せてください。その工程に基づき工場へ連絡してください。特に揚重機使用の場合、使用許可を取り、前日再確認することが必要です。

(3) 搬入日がコンクリート打ちの日と重なりますと搬入が出来ないことがありますので、注意してください。

(4) 専車の場合時間指定が出来ますが、混載の場合出来ませんので注意してください。

(5) 車種制限及び付近の交通規制について詳細を工場へ事前連絡ください。

(6) 搬入日変更は2週間前迄に連絡ください。

(b)荷受及び部材確認

(1) 部材は入荷時、大物（床・天井など）及び梱包数などを出荷確認票と照合、確認した上で出荷確認票にサインし運送業者に渡してください。

(2) 開梱後現品照合を行い、欠品、誤送品がある場合、各支社・営業所担当課へ荷受日後7日以内に連絡してください。期限を過ぎる場合は責任を負いかねますのでご注意ください。

(3) 破損などの運送中の事故については、運転手に確認し、運送会社より事故証明を取り各支社・営業所担当課（又はTEG）へ連絡してください。

(4) 荷受日に揚重出来ない場合は建築担当者と打合せ、破損・盗難などのないような場所にストックしてください。

(c)現場搬入

(1) 揚重機の使用時間に合わせ、時間内に揚重する揚重機の操作は定められた人によって行ってください。

(2) 高所作業で危険がともなうので、安全には十分注意してください。

(3) 各フロアー毎のストックヤードはあらかじめ打合せておき、所定の場所においてください。

(4) 破損・雨水湿気などに注意して十分に養生してください。

(5) 付属機器・ねじ類は箱番、倉庫に一旦入れ、必要の都度出して作業するようにしてください。
特に金具・銅管類は、盗難のおそれがあるので、施錠のできる場所に入れておいてください。

(6) 運送会社とは軒下渡しとなっております。縦運搬、横運搬は含まれておりません。

(d)残材処理

● 部材を処分する場合は、許可を受けている処理業者へ依頼するか、破枠の上許可された処理場で処理してください。

■作業上の注意事項

(A)安全について

(a)日常の健康管理に注意し、定期的に健康診断などを受けてください。

(b)作業場は整理整頓し、安全に気を配ってください。

(c)現場内で危険な所がある場合は安全担当者に申し出て、速やかに処理してください。

(d)電動工具・キャップタイヤなどは定期的に点検を行い、漏電に注意してください。

(e)安全な作業のできる服装をしてください。

(1) ヘルメットの着用。

(2) 安全靴の着用。

(3) 手袋・手甲の着用。

(4) 安全ベルトの着用。

(5) 裸作業の禁止。

(f)資格の必要な作業には有資格者が従事してください。

(B)治工具について

(a)適正な工具の使用

(1) ドライバーの先端はねじ頭に合わせて正規の寸法のものを使用してください。

(2) めっきされた金属の取付けは工具の使い方を注意し、めっき面を傷つけないようにしてください。

(b)専用工具

● 専用ゲージ及び専用工具の使用を指定している部材では、それを必ず使用してください。

(C)製品の養生について

(a)壁・天井パネル・床・バスタブなどの養生紙は仕上時期まで外さないよう注意してください。

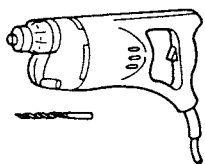
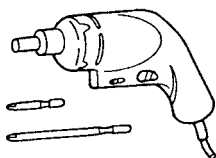
(b)ドア・ドア枠など、UB外面に仕上面が出る所は特に注意して養生をしてください。

(c)工事中、雨漏りのするところはユニット全体をビニールシートなどで養生してください。

(D)本組立指導書は標準タイプを対象に記載したものです。現場作業との相違には十分注意してください。

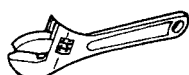
工　具

ユニット組立工具及び特殊工具

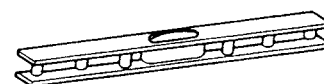
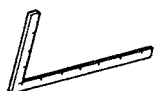
【ユニット組立必要工具】

ドリル刃 φ2.8 ・φ3.2・φ3.5・φ4.8・φ5.6
φ5.8 ・φ6.0・φ10
電動ドリル

ビット
スクリュードライバー

コーキングガン

吸盤

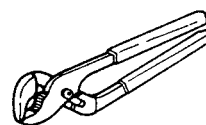
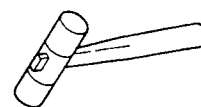
イギリススパナ

モンキースパナ

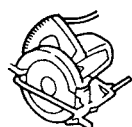
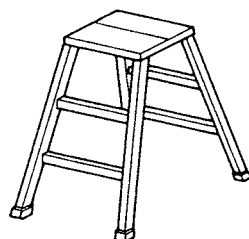
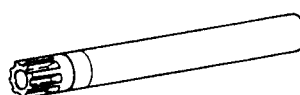
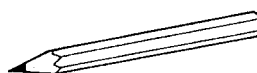
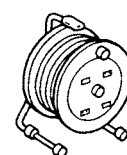
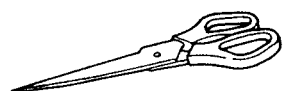
カッター

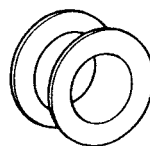
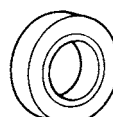
φ32ホールソー

水平器

曲尺

⊕⊖ドライバー

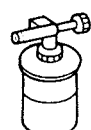
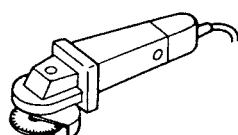
スケール

下げふり

ウォーターポンプ
プライヤー

プラスチックハンマー

ジグソー
又は

丸のこ

脚立

マジック

鉛筆

コードリール

ハサミ

皮すき

シールテープ

養生用(マスキング)
テープ

ハンドランプ

墨つぼ

ガストーチ

グラインダー

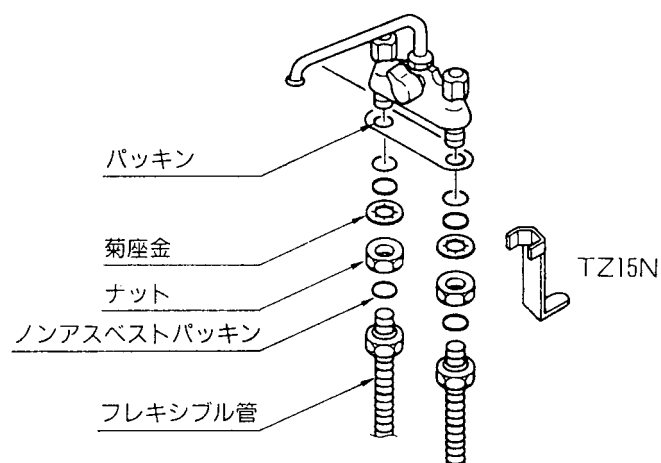
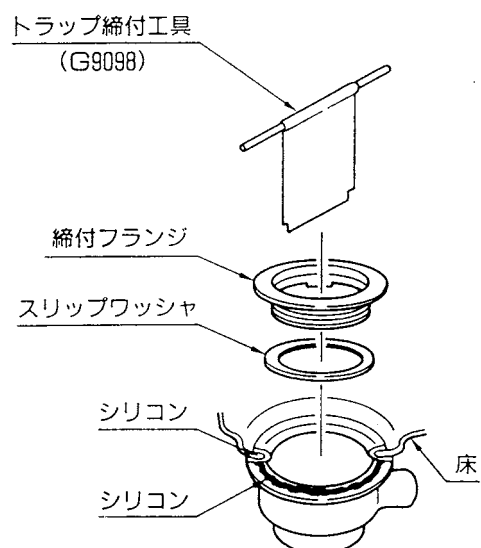
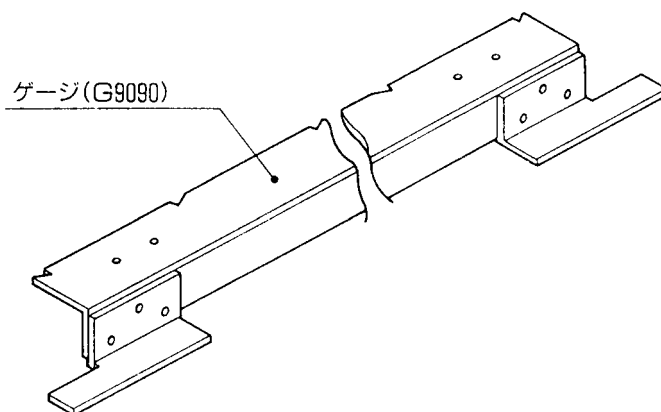
着色エスロン

ヘルメチック

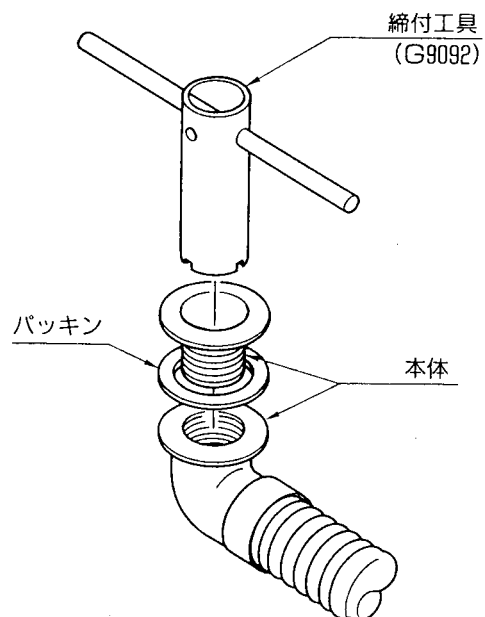
ポリバケツ

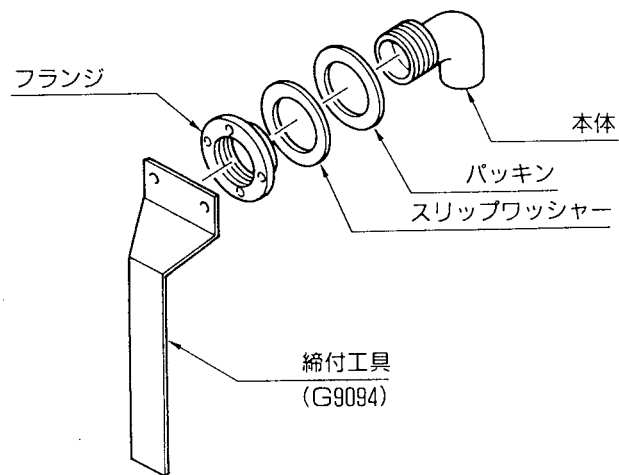
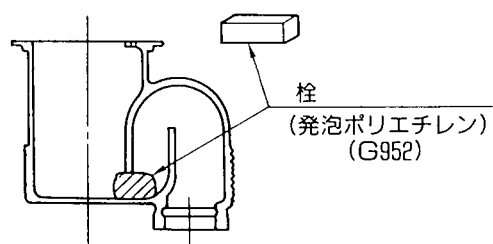
ユニット組立特殊工具①

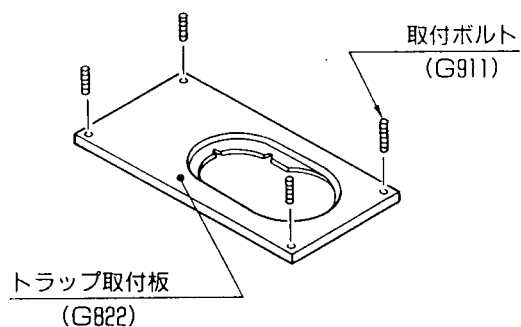
ユニットバス組立工具以外に、下記特殊工具を使用すると便利です。

立水栓締付工具　　TZ15N

ABSトラップ締付工具　　G9098

床位置合わせゲージ　　G9090

ユニット組立特殊工具②

バス排水金具締付工具 G9092

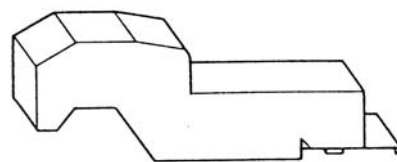
トラップ（床上ころがし）水張栓 G953

トラップ（スラブ貫通）水張栓 G952

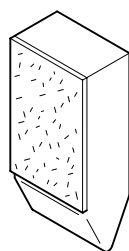
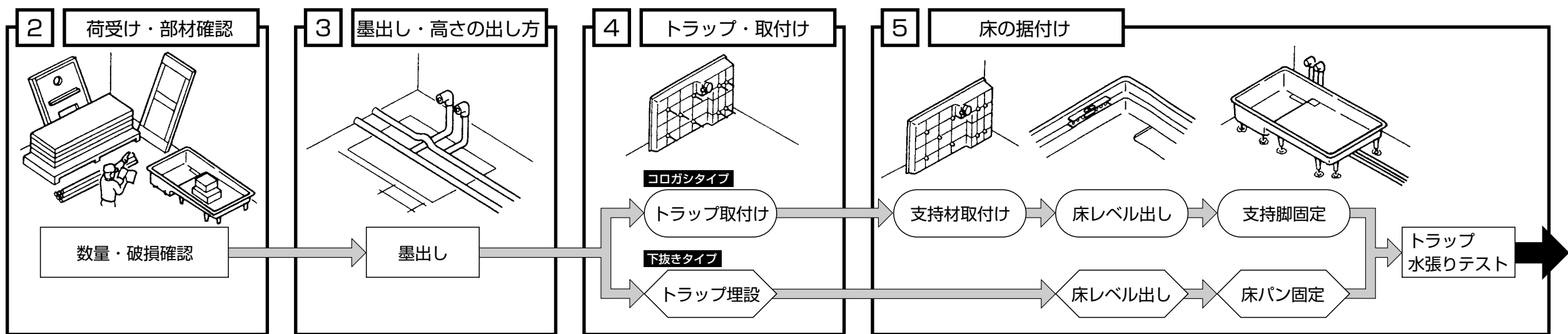
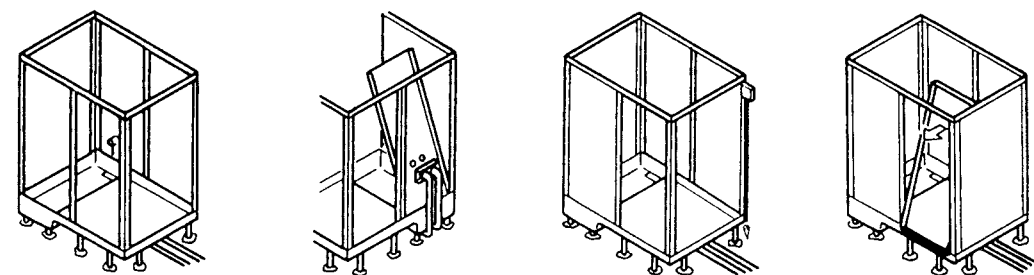
フランジ付水栓エルボ締付工具 G9094

フランジ付水栓エルボ締付工具 G999

トラップ取付板用ボルト G911

トラップ取付板 G822

ユニット組立特殊工具③

便座締付工具　TCZ1

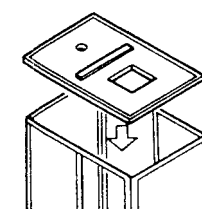
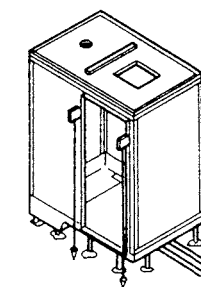
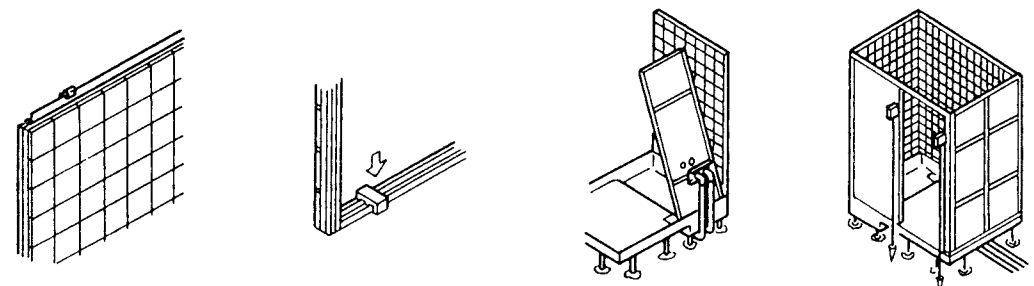
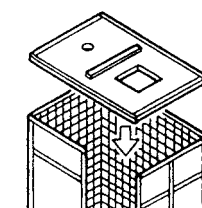
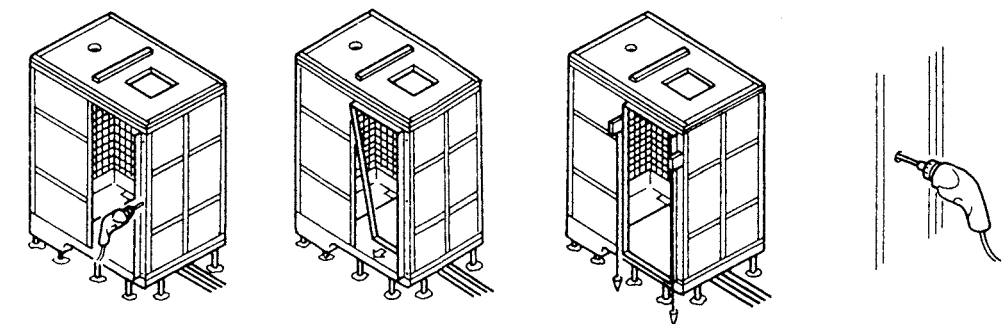
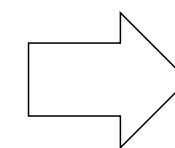
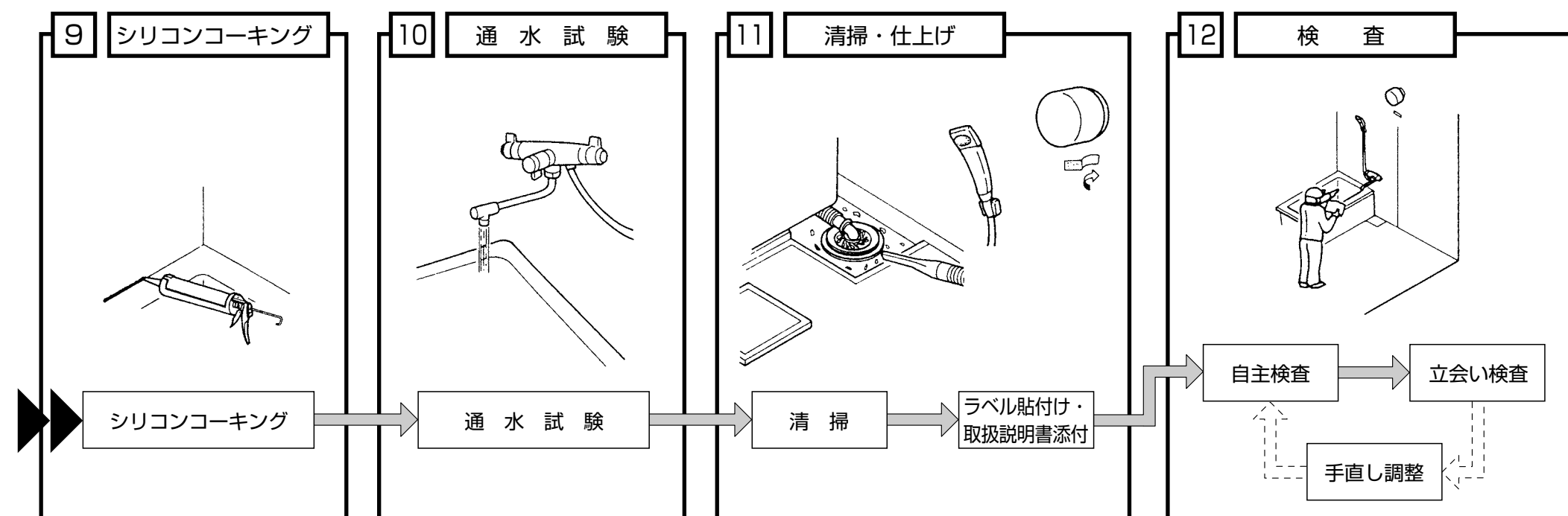
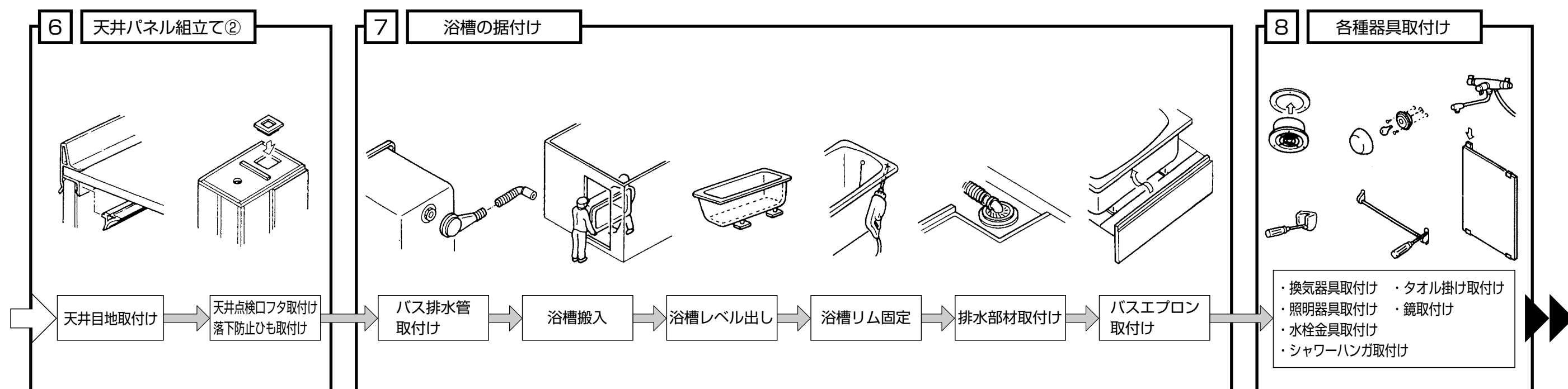
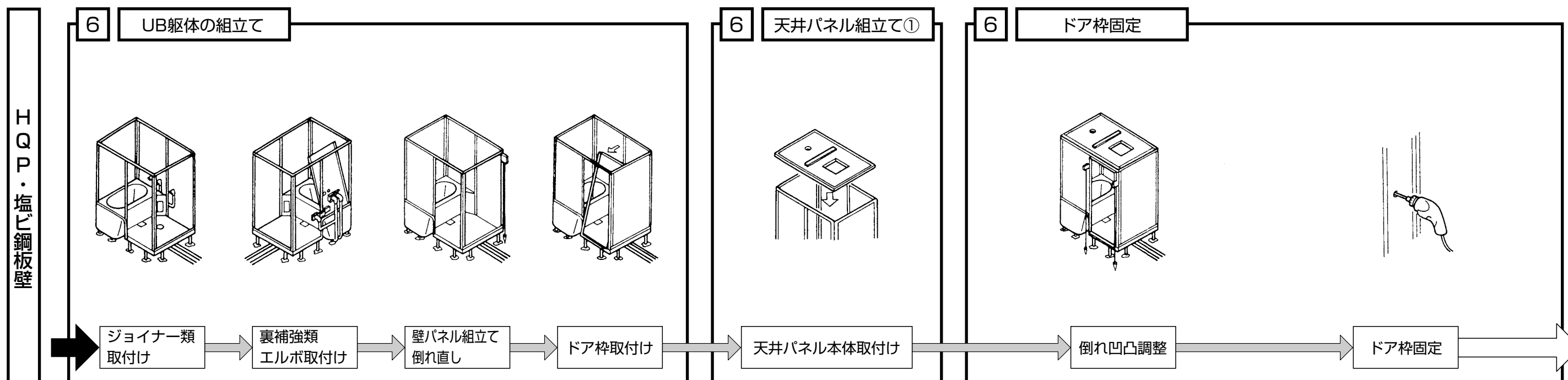
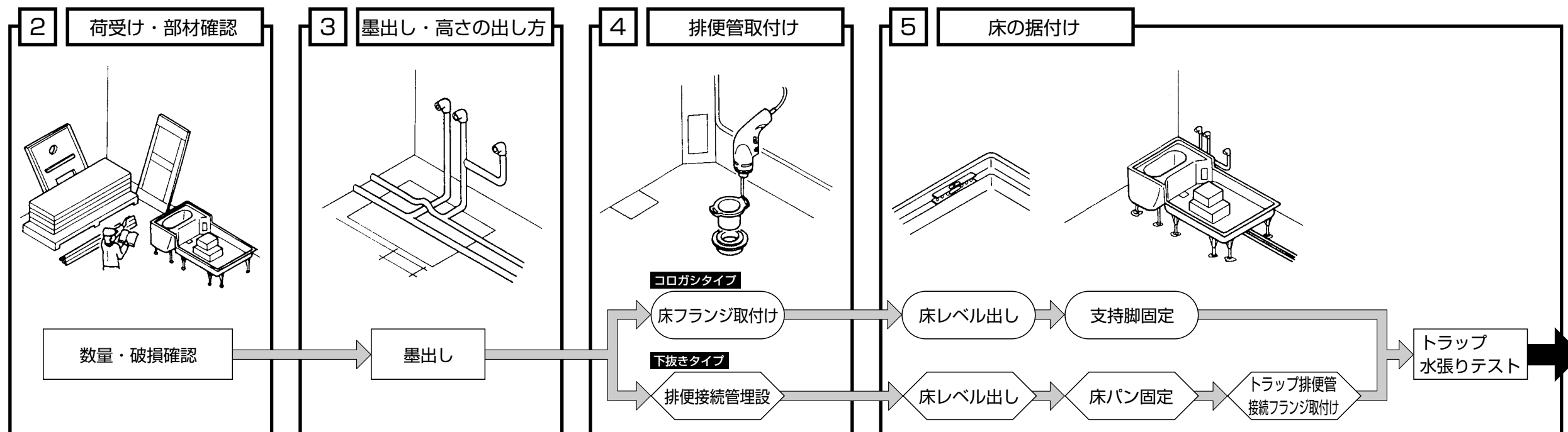
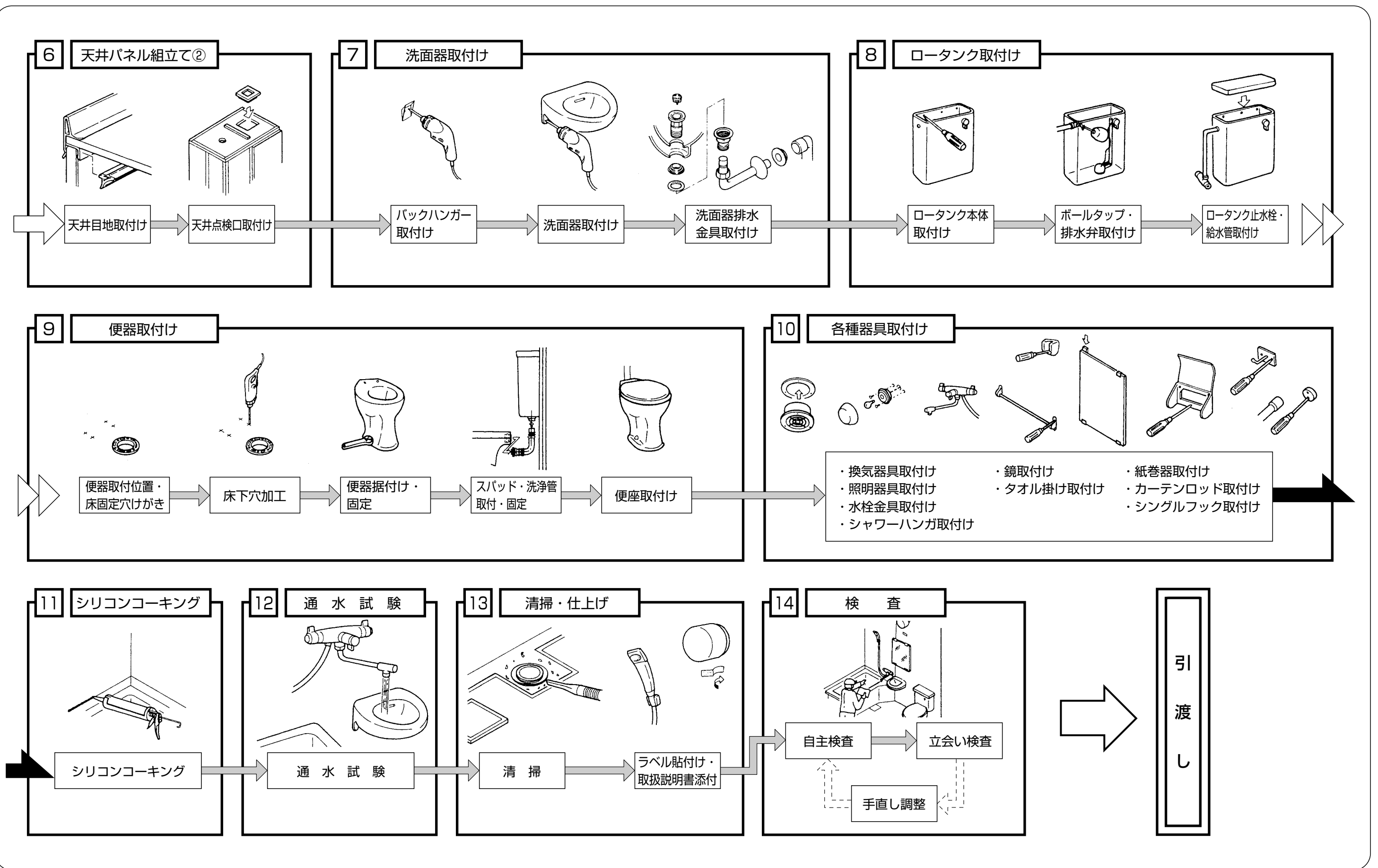
便座締付工具
TCZ1

モール式C-天井用施工治具　EKL953

モール式C-天井用施工治具
EKL953

壁施工治具　EKL00006N1

壁施工治具
EKL00006N1

1　ユニット組立手順（基本）〈和風タイプの場合の例〉

6
天井パネル組立て②
天井目地取付け
天井点検口フタ取付け
落下防止ひも取付け
7
浴槽の据付け
バス排水管
取付け
浴槽搬入
浴槽レベル出し
浴槽リム固定
排水部材取付け
バスエプロン
取付け
8
各種器具取付け
・換気器具取付け
・タオル掛け取付け
・照明器具取付け
・鏡取付け
・水栓金具取付け
・シャワーハンガ取付け
9
シリコンコーキング
シリコンコーキング
10
通　水　試　験
通　水　試　験
11
清掃・仕上げ
清　掃
ラベル貼付け・
取扱説明書添付
12
検　　査
自主検査
立会い検査
手直し調整
引
渡
し

1 ユニット組立手順（基本）〈洋風ハーフ・カウンターなしタイプの場合の例〉

6
天井パネル組立て②
天井目地取付け
天井点検口取付け
7
洗面器取付け
バックハンガー取付け
洗面器取付け
洗面器排水金具取付け
8
ロータンク取付け
ロータンク本体取付け
ボールタップ・排水弁取付け
ロータンク止水栓・給水管取付け
9
便器取付け
便器取付位置・床固定穴けがき
床下穴加工
便器据付け・固定
スパッド・洗浄管取付・固定
便座取付け
10
各種器具取付け
・換気器具取付け
・照明器具取付け
・水栓金具取付け
・シャワーハンガ取付け
・鏡取付け
・タオル掛け取付け
・紙巻器取付け
・カーテンロッド取付け
・シングルフック取付け
11
シリコンコーキング
シリコンコーキング
12
通 水 試 験
通 水 試 験
13
清掃・仕上げ
清 掃
ラベル貼付け・取扱説明書添付
14
検 査
自主検査
立会い検査
手直し調整
引渡し

2 荷受け・部材確認

荷受け前の確認

（1）搬入経路の確認

（2）揚重機の確認

（3）開口寸法の確認

（4）UB設置部の片付け掃除確認　　（GC）

（5）基準墨出し完了確認　　（GC）

（6）先行工事完了確認　　（GC、設備）

荷受け・部材確認

トラックからの荷おろし中にUB送り状兼部材確認票で破損、欠品がないか確認する。

UB送り状兼部材受領書Ⓒ　佐倉工場　93/11/17　3

UB送り状兼部材確認票Ⓑ　佐倉工場　93/11/17　3

285
チバケン サクラシ オーサク 2-5-1
チバTOTO

コージョート-4F NRクミタテジョ
ムラキトノアテ

T 28346 BA99　11/19
X203 052-
043- 498- 3239　アパートムケ UB　20310 其他

EKL632 1 EKL633 1
EKL634 1 EKL635 1
93/11/19 11/19
引取

貨物品名	単位	送り数 標準	送り数 特殊	チェック 担当	チェック 乗務員
天井パネル	枚				
配管	本				
収納パネル	箱				
ドア・ドア枠	枚				
ニッチパネル	梱包				
成形天井	枚				
マーブライトカウンター	箱				
照明	箱				

貨物品名	単位	送り数 標準	送り数 特殊	チェック 担当	チェック 乗務員
換気扇	箱				
排水管(エンビ管)	本				
補強材	梱包				
引違い窓	枚				
洗場付浴槽	台				
ホーローバス	台				
ポリバス	箱				

パレット授受	送り数	確認印
出荷パレット		
預けパレット		
返却パレット		
検収印		TOTO

東陶機器株式会社

部材破損確認のお願い

部材名	チェック項目	出荷時の破損の有無	お客様荷受破損の有無	異状内容記入
ドア&ドア枠	枠部分の変形	有　無	有　無	
	面材の損傷	有　無		
天井	回し縁の破損	有　無	有　無	
	表面の凸凹	有　無		
	補強材の剥がれ	有　無		
壁	梱包荷姿のズレ	有　無	有　無	
	梱包荷姿の変形	有　無		
陶器	本体のワレ・傷	有　無	有　無	
マーブライトカウンター	本体のワレ・カケ	有　無	有　無	
床	立体部分のカケ	有　無	有　無	
	本体のクラック	有　無		
検収印		TOTO　東陶 太郎		

ご協力ありがとうございました

お願い：太線部は、乗務員殿にて確認チェック又は記入願います

確認が取れたら、捺印欄にサインしC票を運転手に渡す。

部材確認

1 部材確認

搬入後、UB部材明細票で数量の確認をする。その際欠品、数量違い、商品違い、破損がないか確認する。

UB部材明細票

東陶機器株式会社

発送元 千葉東陶株式会社

93/11/16 1E

052－

BA99 28346 93/11/19 アパートムケ UB 引取

NO	品名		品番	数量	備考
1	KRV/W/C/S セコーヨーリヨーシヨ	MI	EKL632	1	P1
2	ブローベースセコーヨーリヨーシヨ	MI	EKL633	1	
3	オーディオ セコーヨーリヨーシヨ	MI	EKL634	1	
4	オプションハイカンセコーヨーリヨーシヨ	MI	EKL635	1	

〒 285 チバケン サクラシ オーサク 2-5-1 コージョート-4F WRクミタテジョ

チバTOTO ムラキトノアテ

043-498-3239

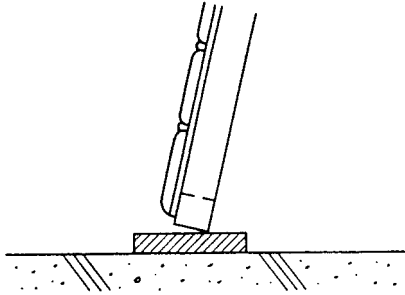
2 異常発生時について

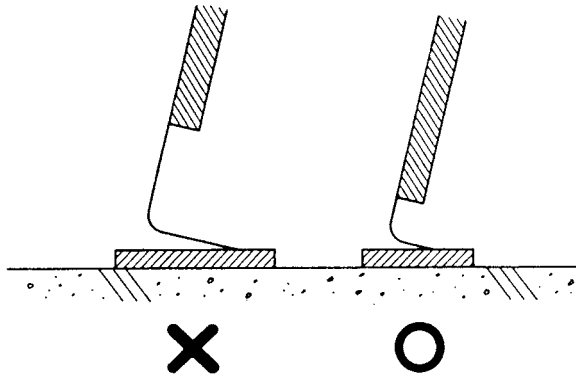
欠品、破損などの異常が発生した場合、下記6点をご確認の上、各支社・営業所担当課へ速やかにご連絡ください。

（1）工事No.
（2）品番
（3）数量
（4）理由
（5）希望納期
（6）送り先

部材保管方法

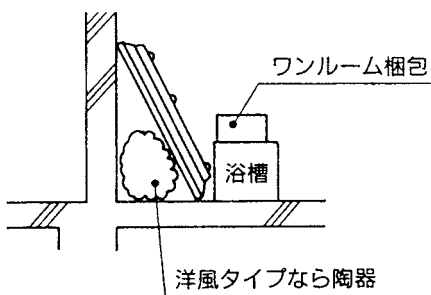
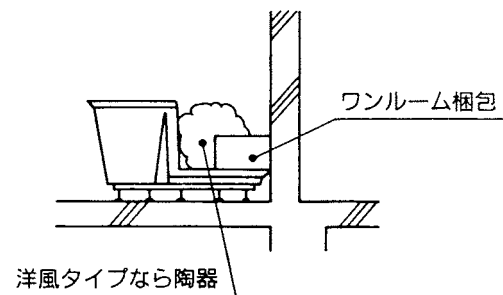
1 壁

（1）タイルパネル

タイルパネルはタイルのカケ防止の為、立て掛けの際は、タイル面を表にしてパネル下に養生し、保管する。

（2）塩ビ鋼板複合パネル・ハイクオリティーパネル（HQパネル）

塩ビ鋼板・HQパネルは下端変形防止の為、パネルの折り曲げ幅の狭い方を下にし、化粧面を表にしてパネル下に養生し、保管する。

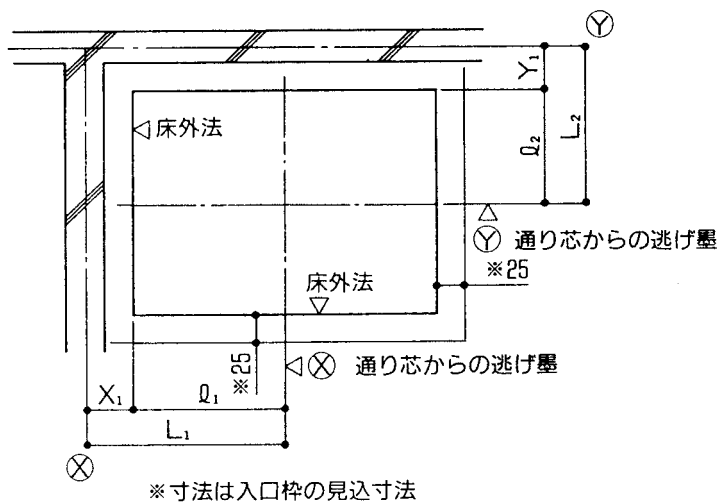
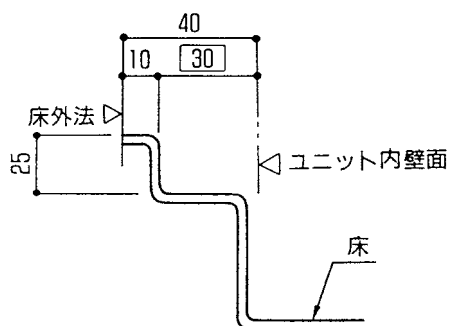
壁を重ねて保管及び立て掛ける場合、壁の種類にかかわらず、仕上面を合わせて保管する。

2 小物及び割れ物

（1）フルパネルタイプ

（2）ハーフパネルタイプ

割れ物（陶器・洗面器・カウンター）については、置場に注意してください。

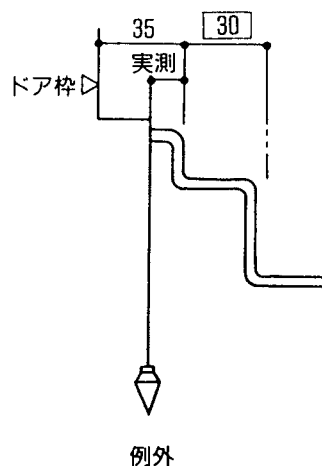
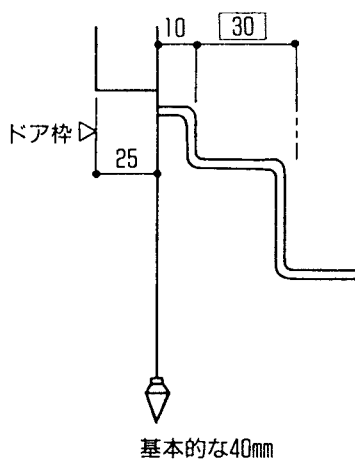
3 墨出し・高さの出し方

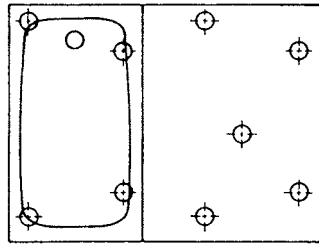
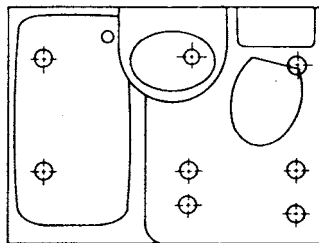
墨出し①

1 床外寸法墨出し

記号	説　明
Ⓧ	X方向通り芯
Ⓨ	Y方向通り芯
L_1	Ⓧ通り芯からの逃げ墨
L_2	Ⓨ通り芯からの逃げ墨
X_1	Ⓧ通り芯からのユニット外法までの寸法
Y_1	通り芯からのユニット外法までの寸法

床外法は基本的にユニット内壁面+80mm（片側40mm）です。
例外として40mm以外のものもありますので確認ください。ただし30は全タイプ共通

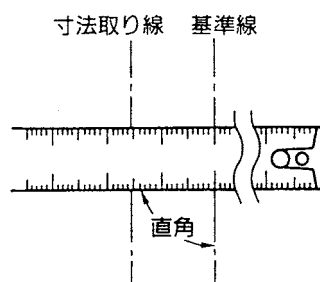
墨出し精度　　±1mm以内

基本的な40㎜

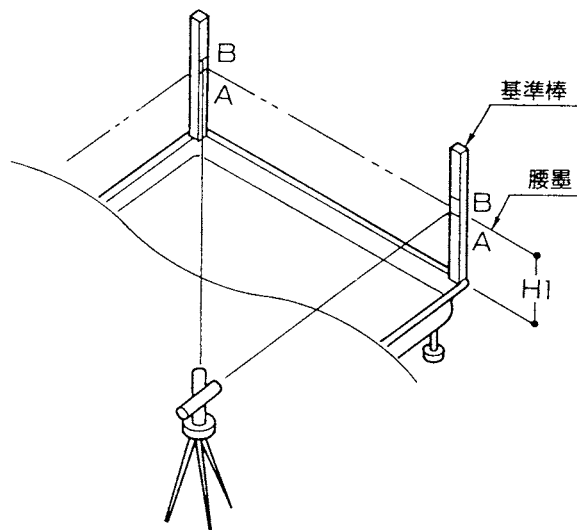
例外

墨出し②

2 床支持位置の墨出し

Rタイプ

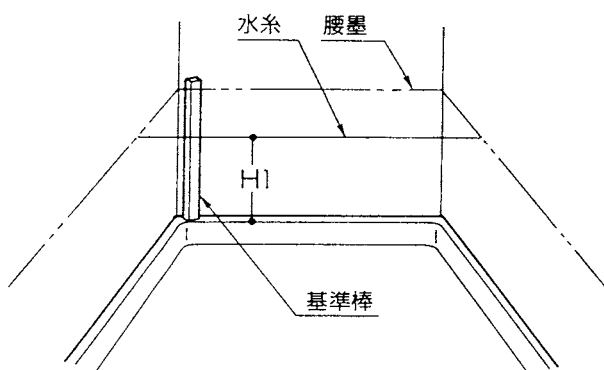
床支持位置の寸法は施工図面集を参照のこと。

Rタイプ

スケールの使用は、基準線に対し垂直に合わせ、スケール先端からの寸法取りは避けること。

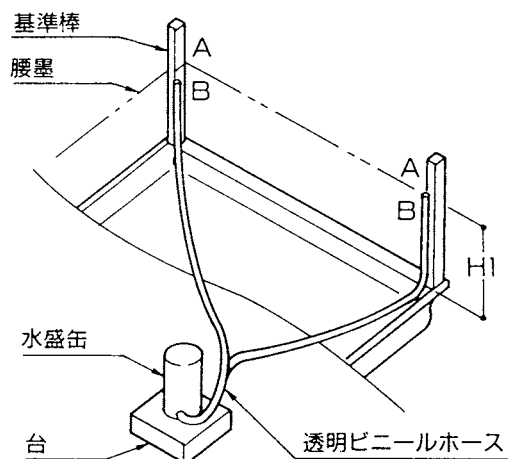
高さの出し方

1 レベルの利用

①レベルを水平に据える。
②基準棒にH1の寸法で印Aをつけ、その印と壁の腰墨を合わせる。
③レベルをのぞき、レベルの中心線B点を指示して印をつけさせる。
④基準棒をレベル出し面にのせて垂直に立てる。
⑤B点がレベルの中心線と合うように調整する。

H1寸法（Aの印）
腰墨からレベル出し面までの寸法

2 水糸の利用

①対面する壁の腰墨間にコンクリート釘などを利用して水糸を張り、この水糸の位置から基準棒（あらかじめH1寸法のA点を印しておく）を使用して高さを出す。

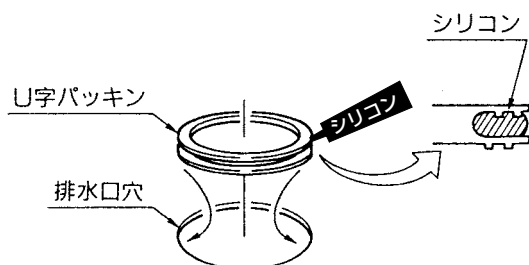
H1寸法（Aの印）
腰墨からレベル出し面までの寸法

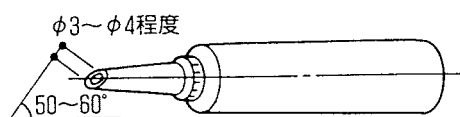
3 水盛缶の利用

①水盛缶に水を入れて台の上にのせる。
②あらかじめH1の寸法で基準棒に印Aをつけてホースを基準棒に固定しておく。
③基準棒を壁に沿って垂直に立て、Aの印と腰墨を一致させ、その時の水位線の印Bをつける。
④基準線をレベル出し面の上に垂直に立てて、水位線と印Bを一致させるよう、レベル出し面の高さを調整する。

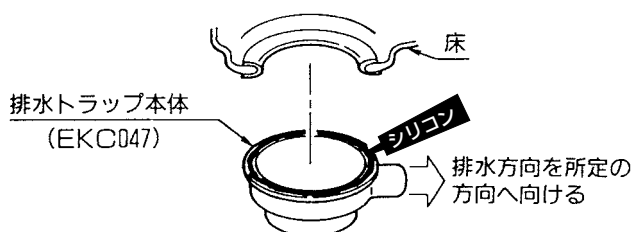
H1寸法（Aの印）
腰墨からレベル出し面までの寸法

4　トラップ・排便接続管取付け

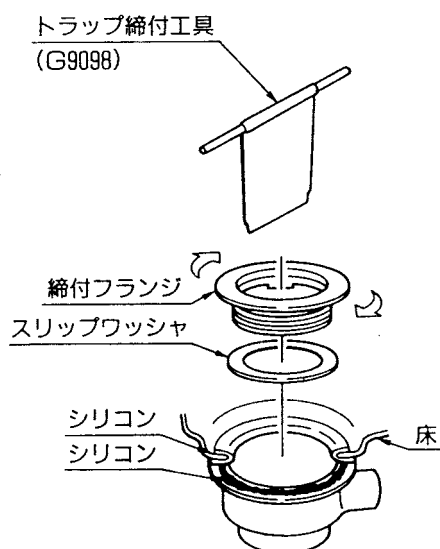
トラップ（コロガシ用）取付け①

1　U字パッキン取付け

U字パッキンにシリコンを図のように塗布し、取付ける。

シリコン打ち忘れの無いこと。

シリコンのノズル先端はシリコン塗布量が最適になるよう図の様にカットする。

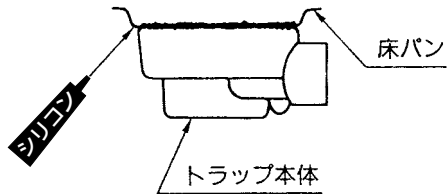
2　トラップ本体取付け

排水トラップ本体上面の2本の溝の中央にシリコンを塗布し排水方向を所定の方向へ向けセットする。

シリコン打ち忘れの無いこと。

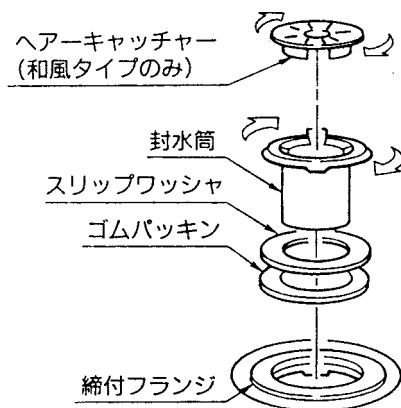
3　フランジ締付

図のように締付フランジで締付固定する。

フランジ締付けの際は必ず専用工具を使用して確実に締込む。

トラップ（コロガシ用）取付け②

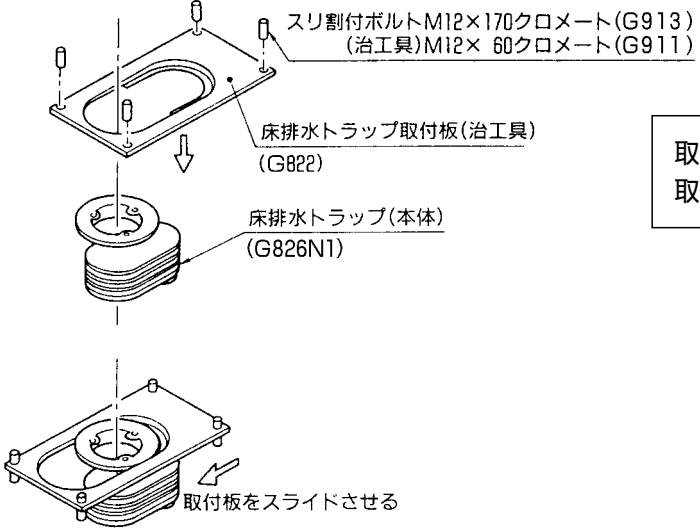
4 トラップ床接続部周囲コーキング

トラップと床との接合部にシリコンを塗布し指で押える。

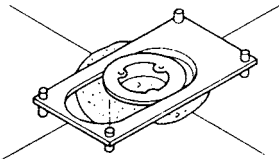
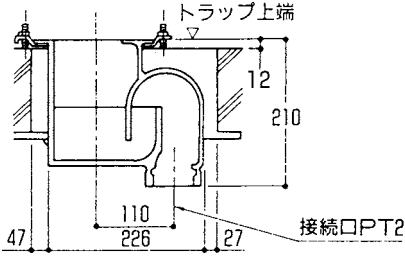
シリコン打ち忘れの無いこと。

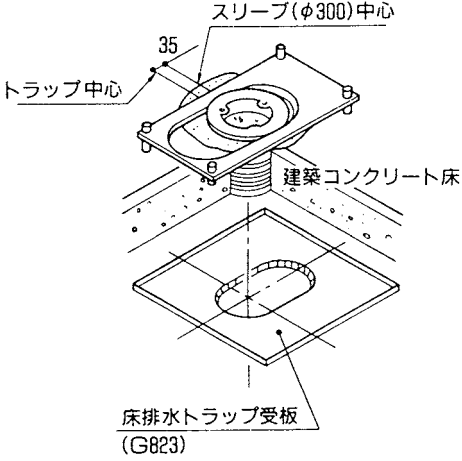
5 ヘアキャッチャー、封水筒セット

図のように封水筒を取付け、ヘアキャッチャーをセットする。

シリコンシールは指定箇所に確実に実施する。

トラップ（スラブ貫通用）埋設①

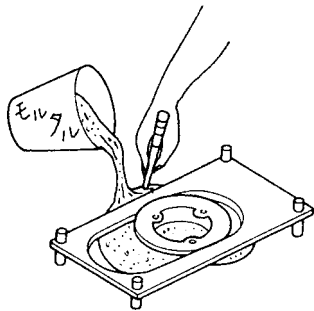
1 治工具セット

取付板にすり割り付ボルトを取付け、図のように取付板をセットする。

2 位置、高さだし

取付板のケガキと墨を合わせ所定の高さにすり割り付ボルトで調整する。

高さ	±1mm
平面位置	±2mm
水平	水平のこと

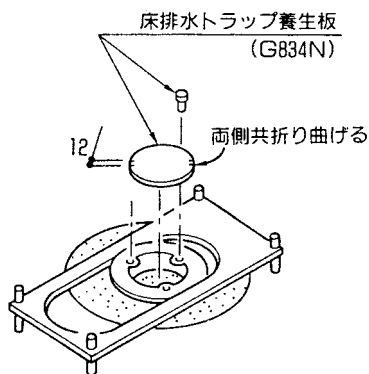
3 受板取付け

スラブ下のトラップ本体に受板をはめ込み、つめをくい込ませる。

位置がずれない様に注意する。

トラップ（スラブ貫通用）埋設②

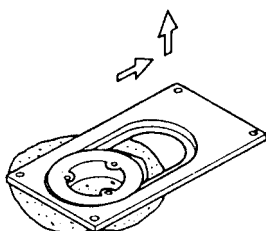
4 モルタル流し込み

モルタルを流し込み十分にモルタルが回るように埋め戻しする。

一日養生のこと。

5 養生板取付け

養生板をトラップ本体の上端に取付ける。

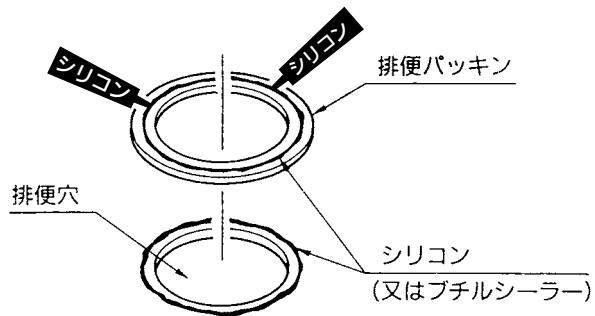
スリット巾12mm（小さい方）の部分を下に折り曲げ挿入しセットねじにて仮止めする。

床パン据付時には養生板をはずし再利用すること。

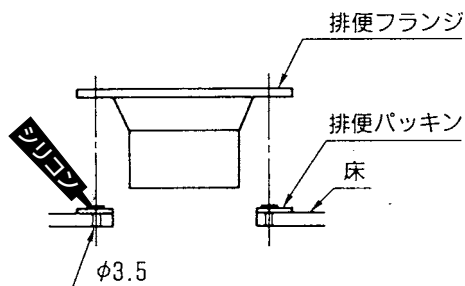
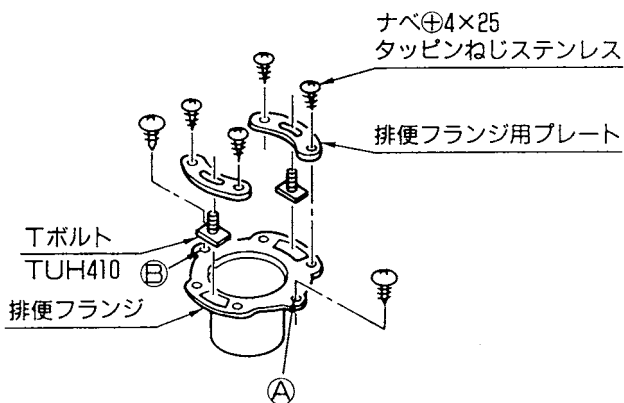
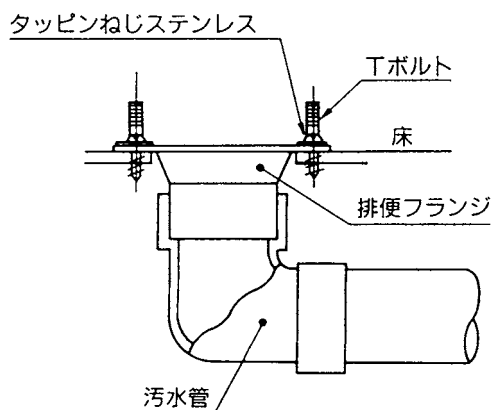
3 取付板取外し

モルタル硬化後すり割り付ボルト、取付板をはずし再使用する。受板はセットしたまま。

・埋設作業は下階のUB据付け前に行う。
・埋設後は必ず養生板を取付ける。

排便フランジ（コロガシ用）取付け

1 排便パッキン取付け

図のようにシリコンを塗布し排便パッキンを取付ける。

シリコン打ち忘れの無いこと。

2 排便フランジ取付け

排便フランジを排便穴の芯にはめタッピンねじの下穴（φ3.5）をあけ下穴にシリコンを充てんし、まず Ⓐ 、Ⓑ の2ケ所をねじで固定する。

Tボルトを所定の位置に合わせ、プレートを介してタッピンねじで固定する。

排便フランジと汚水管に塩ビ接着材を塗布し、接続する。（基本的に別途工事）

排便接続管（スラブ貫通用）埋設

1	穴埋め用シート施工

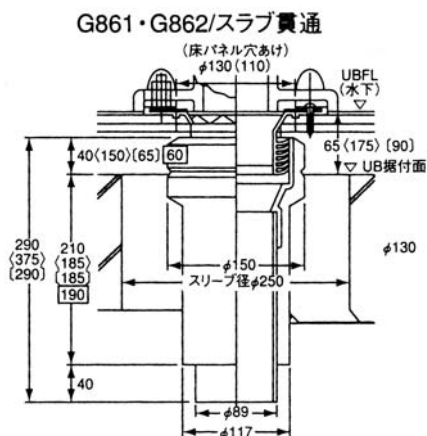
注　意

- 誤ってシートを破いたりすき間が生じた時は、アルミテープなどで補修すること。
- 貼り直しは粘着力が低下するので避けること。
- 大量のモルタルを流すときは、重みで落下する場合があるので2度に分けて入れること。

2	位置、高さだし

G861・G862/スラブ貫通

(床パネル穴あけ)
φ130(110)
UBFL
(水下)
40〈150〉〔65〕[60]
65〈175〉〔90〕
UB据付面
290
〈375〉
〔290〕
210
〈185〉
〔185〕
[190]
φ130
φ150
スリーブ径φ250
40
φ89
φ117

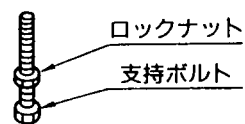
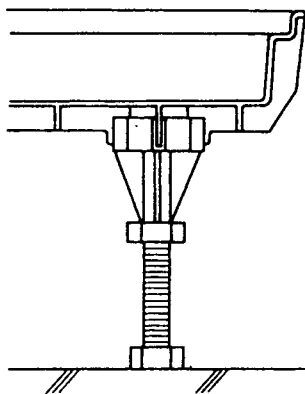
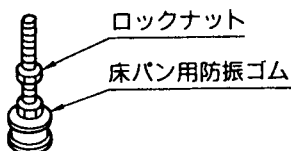
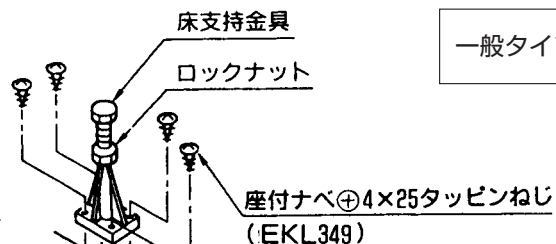
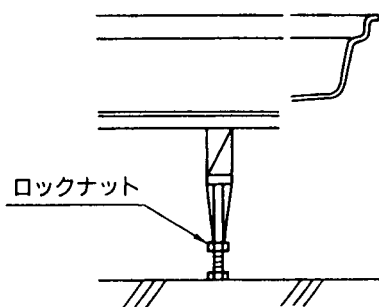
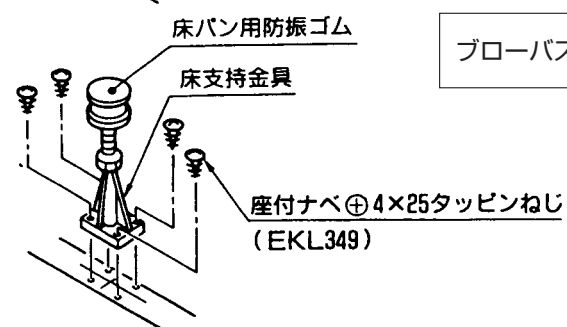
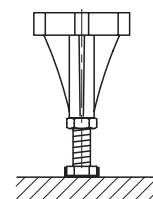
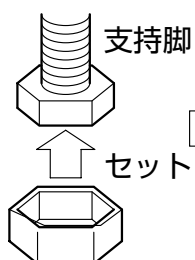
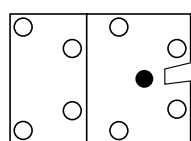
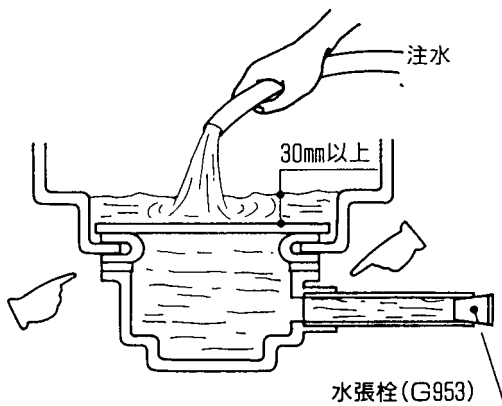
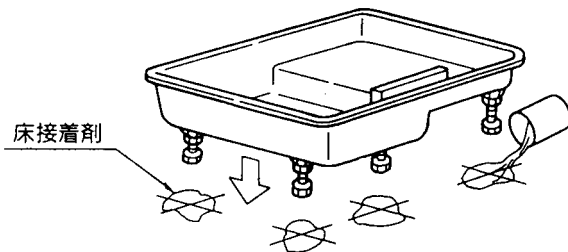
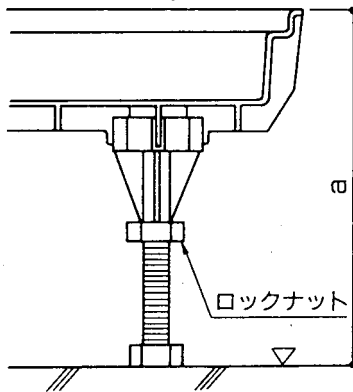
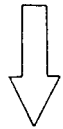
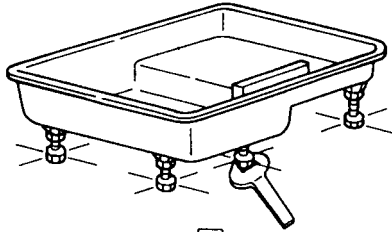
注　意

注：G862は汚水管の長さが ℓ＝375です。
(　) はEQV/G、ERV/G1620Dタイプ
〈　〉寸法はEHW/C、ELW/Cタイプの場合
〔　〕はESCタイプの場合
[　] はERV/G/W/C1418･1218･1216の場合

高さ	±1mm
平面位置	±2mm
水平	水平のこと

5 床の据付け

スラブ上コロガシタイプ支持脚取付け

● 床据付け高さは施工図面集及び現場図面を参照のこと。

1	床パンタイプ

スラブ上コロガシタイプ床据付け

位置墨に合わせ床を仮置きし、高さと水平をボルトで調整し、ロックナットを締付ける。

平面位置・据付高さ　±2mm

注）洗い場中央のボルト頭にゴムキャップを取付けること（2ケ所）
※接着剤は不要。

据付高a寸法は施工図面集及び現場図面を参照のこと。

床を一旦作業に支障のない場所へ移動する。

床接着剤を所定の位置にたらし、床を置いて位置を調節する。

壁組立て後に床接着剤をかける場合は床支持材が浮いていないか確認すること。

床支持脚の固定は、P.29参照。

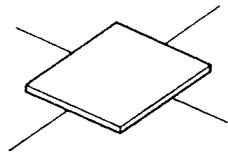
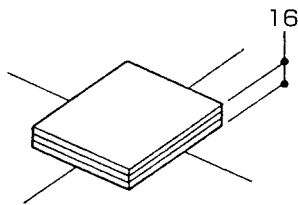
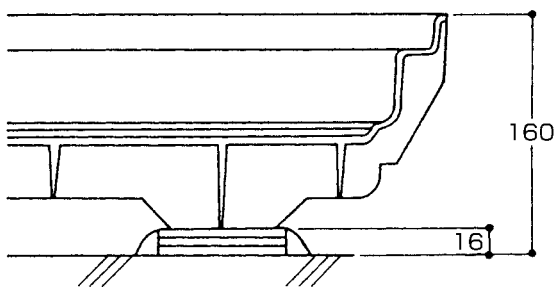
床鳴りの無いこと。

床接着剤が硬化するまで養生し、トラップの水張りテストを行う。

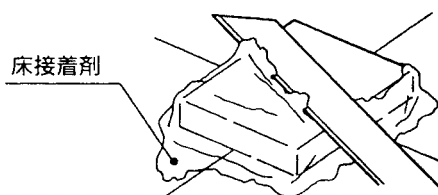
トラップ水張りは、締付フランジ天端より30mm以上水を留めた状態で30分間放置する。

漏水の無いこと。

確認後、必ず水処理を行うこと。

スラブ貫通タイプ床据付け①

位置墨に合わせライナーを置き、水平を出す。

ライナーの高さを調節する。

床を仮置きし、水平と高さを出す。

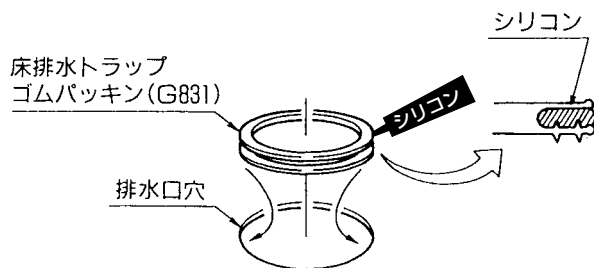
トラップや排便接続管と床の穴位置、高さが合っているか確認する。

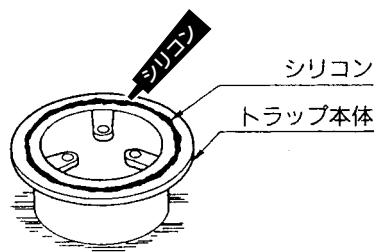
平面位置・据付高さ　±2mm

床を一旦作業に支障のない場所へ移動する。

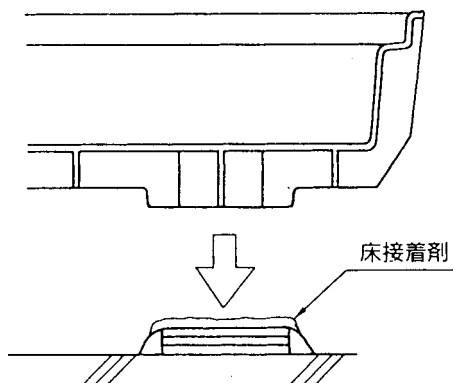
床接着剤をたらし、ライナーをスラブに固定した後上面を切取りライナー面を露出させる。

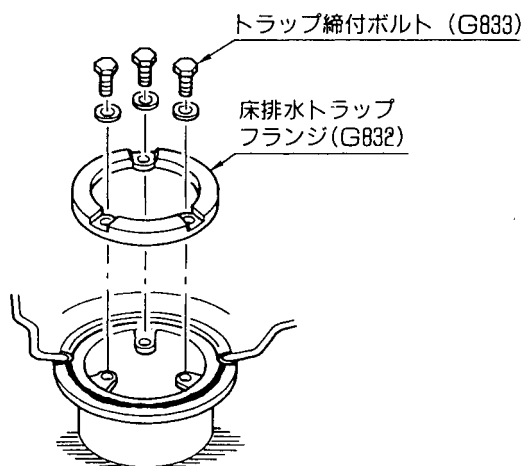
ライナーの種類

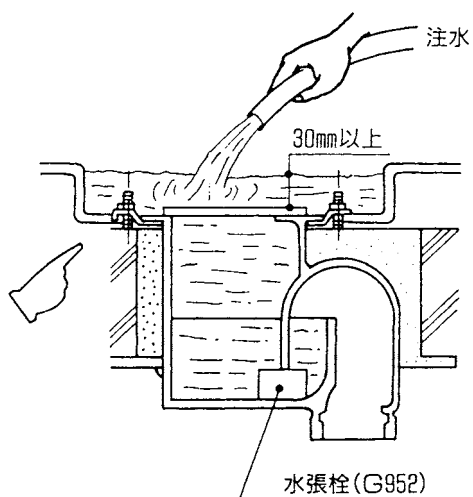
塩ビライナー
50角　3mm（EC961）
　　　5mm（EC962）

鉄ライナー
50角　1mm（EC965）

スラブ貫通タイプ床据付け②

床排水トラップゴムパッキン溝にシリコンを充てんし、床に取付ける。

床排水トラップ養生板を外し、トラップ本体上面にシリコンを塗布する。

シリコン打ち忘れの無いこと。

床接着剤をライナー上面にたらし、床を置いて位置を調整する。

床鳴りの無いこと。

床接着剤が硬化するまで養生し、床排水トラップフランジを締付固定する。

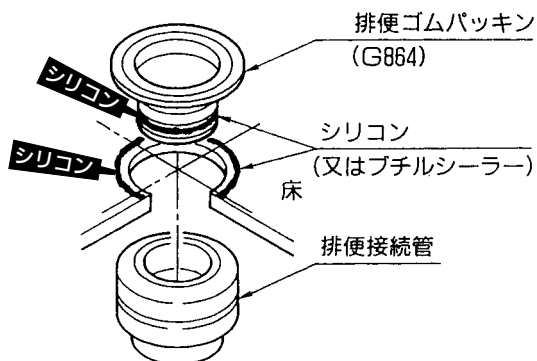
スラブ貫通タイプ床据付け③

トラップの水張りテストを行う。

トラップ水張りは、締付フランジ天端より30mm以上水を留めた状態で30分間放置する。

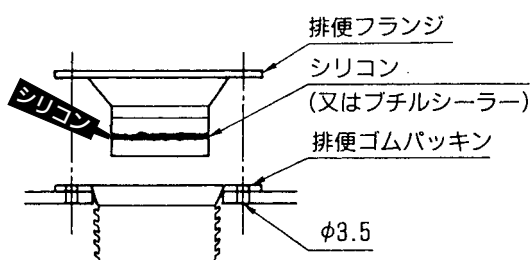
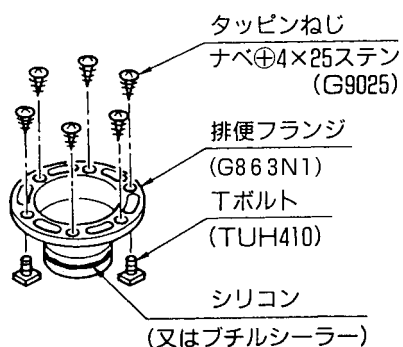
漏水のないこと

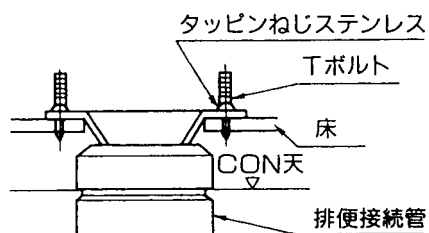
確認後、必ず水処理を行うこと。

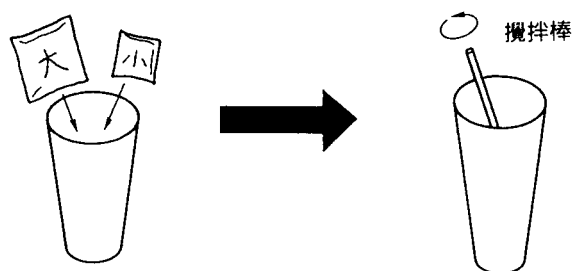
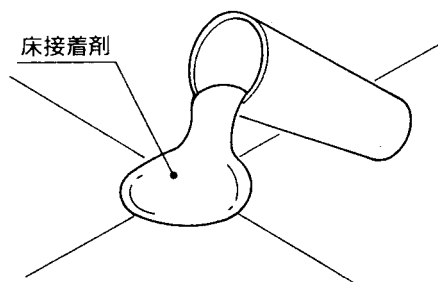
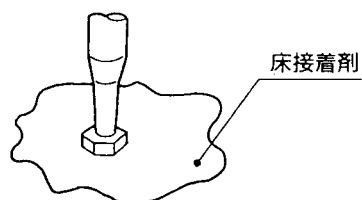
排便フランジ（スラブ貫通タイプ）取付け

1 ゴムパッキン取付け

図のようにシリコンを塗布し排便ゴムパッキンを取付ける。

シリコン打ち忘れの無いこと。

2 排便フランジ取付け

排便フランジを排便接続管にはめ、タッピンねじの下穴（φ3.5）をあける。

下穴にシリコンを充てんし、図のようにタッピンねじで排便フランジを固定する。

Tボルトを忘れずに取付けること。

床支持材の固定方法①

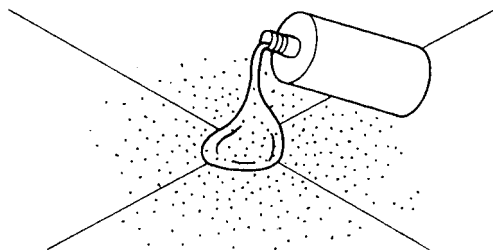
【床接着剤　使用時の手順】

スラブ面の凹凸をできるだけなくし、砂ぼこり、たまり水などを除去する。紙コップに接着剤の大袋と小袋の前虜言う全量を入れて、色が均一になるまで（30秒程度）攪拌する。

脚を接着する位置に接着剤をたらし、床パンを置いて位置を調整する。

接着剤が硬化するまで、養生を行う。硬化する時間は施工時の温度により異なるので表を参考に十分注意する。

表．硬化時間

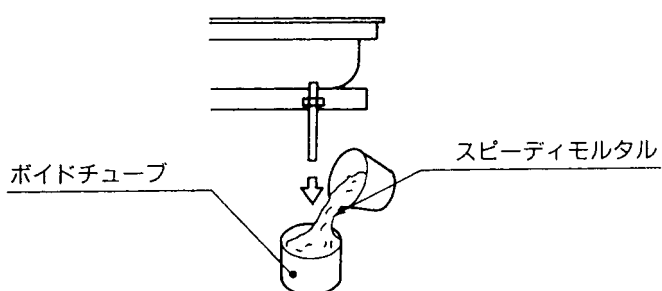
<table>
<tr><th>施工温度</th><th>硬化時間</th><th>備　考</th></tr>
<tr><td>30℃</td><td>30分</td><td rowspan="3">硬化を待って組立開始</td></tr>
<tr><td>25℃</td><td>1時間</td></tr>
<tr><td>20℃</td><td>1時間30分</td></tr>
<tr><td>15℃</td><td>2時間</td><td rowspan="2">注意要（注1）</td></tr>
<tr><td>10℃</td><td>3時間</td></tr>
<tr><td>5℃</td><td>5時間</td><td rowspan="5">硬化前に組立完了または翌日組立開始</td></tr>
<tr><td>0℃</td><td>7時間</td></tr>
<tr><td>-5℃</td><td>10時間</td></tr>
<tr><td>-10℃</td><td>14時間</td></tr>
<tr><td>-15℃</td><td>20時間</td></tr>
</table>

注1
5～15℃で硬化前に組立て作業を開始した場合、作業の仕方によっては、組立完了前に硬化するおそれがあるので、硬化前に位置の再調整が行なえるように注意する。

床支持材の固定方法②

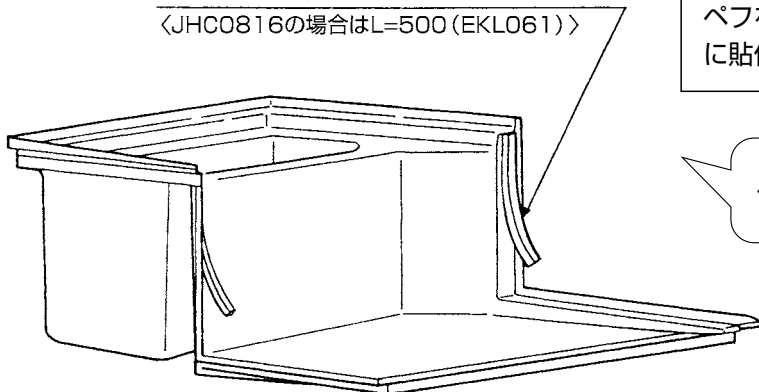
【スピーディモルタル使用時の手順】

スピーディモルタルで接着を行うスラブ面の砂ぼこり・水たまりなどを除去し、スラブ上コロガシタイプはポリマー＃1000、スラブ貫通タイプはプライマーEをたらす。

スピーディモルタルに水を加え撹拌する。

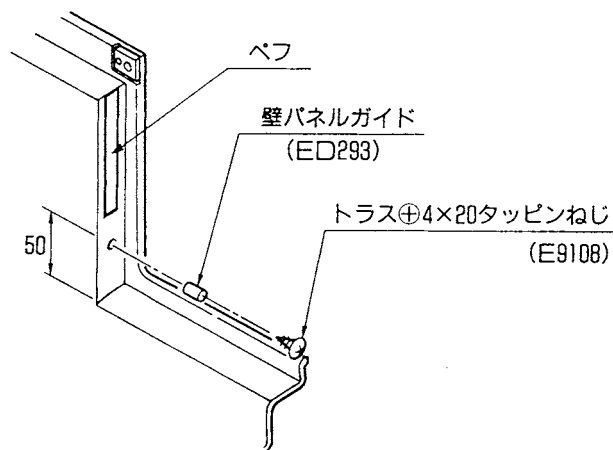
スピーディモルタルには、骨材が入っているので、水のみ加えること。水はカップで軽量すること。スピーディモルタル4kgにつき、水0.8ℓ・5kgにつき水1ℓを加える。市販の2ℓ用ポリカップ（目盛付）を使用すれば、注入にも使えて便利。

スピーディモルタルをボイドチューブに流し込む。

スピーディモルタルに水を加えてから夏期10分、冬期20分程度で床据付を完了すること。
養生期間は夏1時間、春・秋2時間、冬3時間を目安として、触指により硬化の確認をする。（爪をたてて跡が残らねば硬化している。）

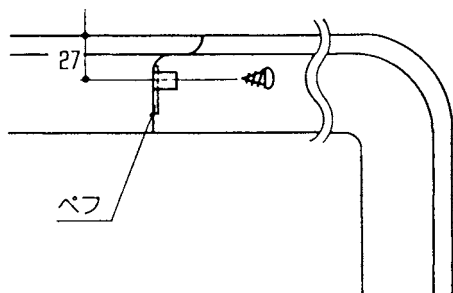
洗い場付浴槽タイプのペフ貼付け・パネルガイド取付け

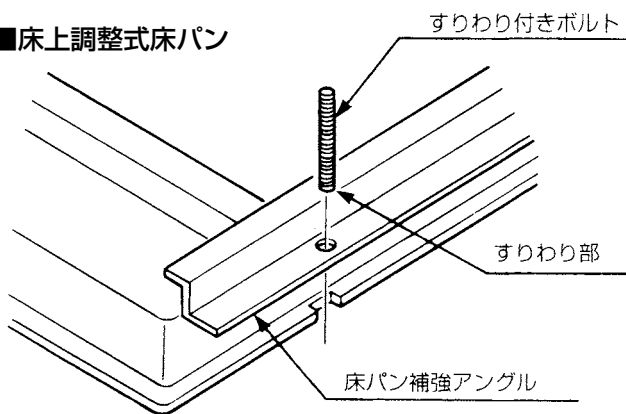
1 ペフ貼付け

ペフを壁載せ面の床立上がり部上端から図のように貼付ける。

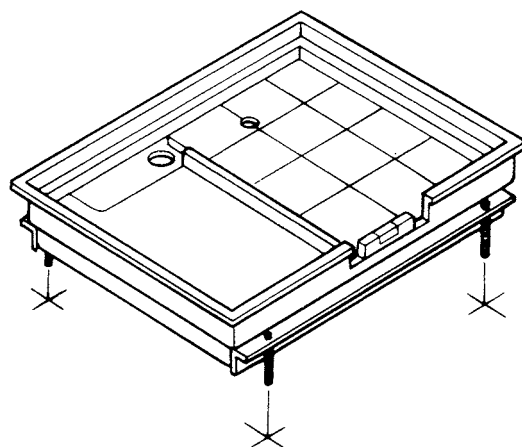
ペフは壁載せ面の中央に貼付けること。

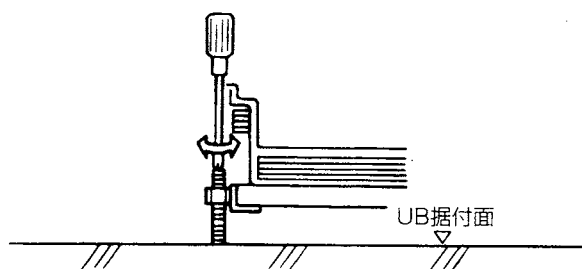
2 パネルガイド取付け

下穴に合わせて床立上がり部にパネルガイドを図のように取付ける。

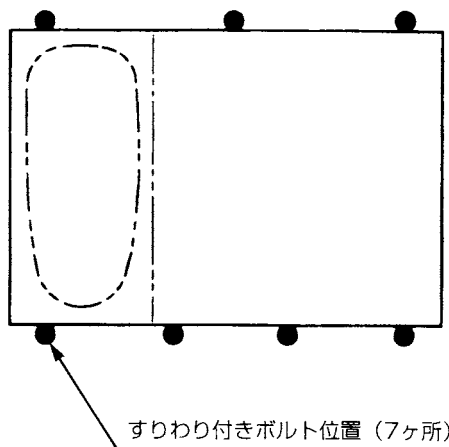
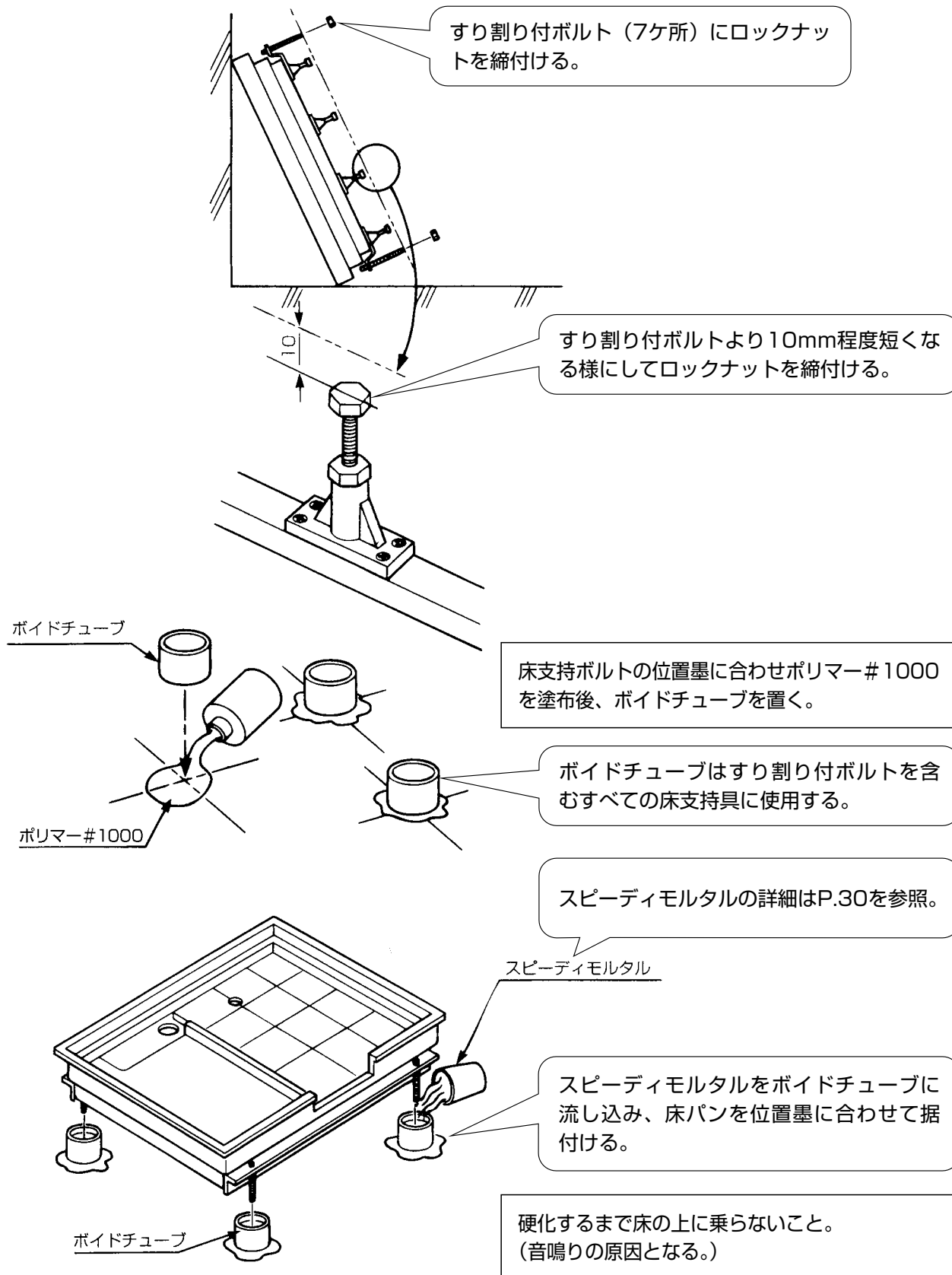
両側（図と反対側にも）に取付けること。

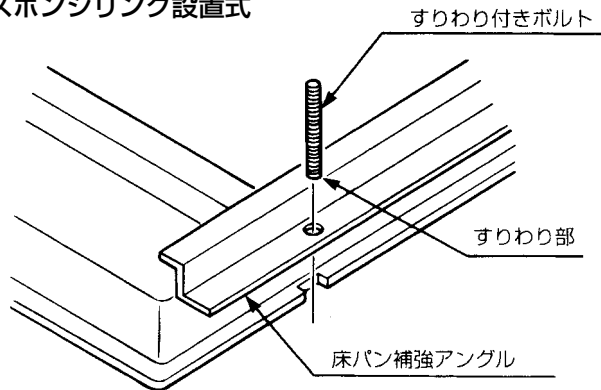
収納パネル及びタイル壁の建込みの立上がり部には取付けないこと。

スラブ上コロガシタイプ床据付け（EQタイプ）①

■床上調整式床パン

7ケ所全てに取付け。

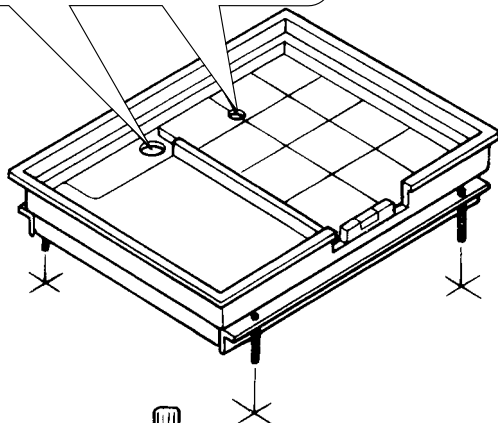
取付け方向に注意。
（反対側にすり割り部）

位置墨に合わせて床パンを仮置き。

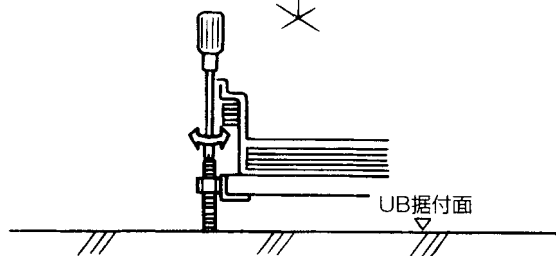
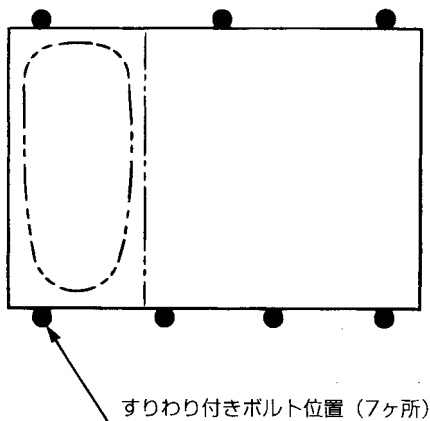
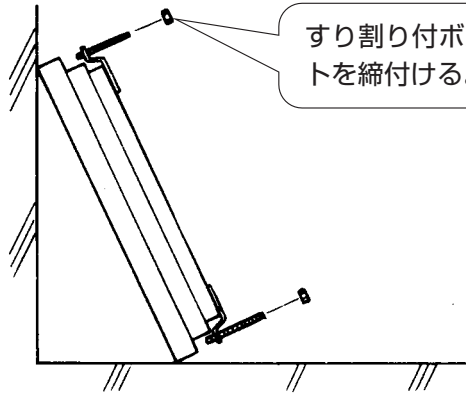
スラブ面の凹凸はできるだけなくし、砂ぼこり、水たまりなどを除去する。

すり割り付ボルトを回して高さと水平を出す。
※据付高さ寸法は「施工図面集」を参照。

スラブ上コロガシタイプ床据付け（EQタイプ）②
すり割り付ボルト（7ケ所）にロックナットを締付ける。
10
すり割り付ボルトより10mm程度短くなる様にしてロックナットを締付ける。
ボイドチューブ
床支持ボルトの位置墨に合わせポリマー＃1000を塗布後、ボイドチューブを置く。
ボイドチューブはすり割り付ボルトを含むすべての床支持具に使用する。
ポリマー＃1000
スピーディモルタルの詳細はP.30を参照。
スピーディモルタル
スピーディモルタルをボイドチューブに流し込み、床パンを位置墨に合わせて据付ける。
ボイドチューブ
硬化するまで床の上に乗らないこと。
（音鳴りの原因となる。）

スラブ貫通タイプ床据付け（EQタイプ）①

■スポンジリング設置式

7ケ所全てに取付け。

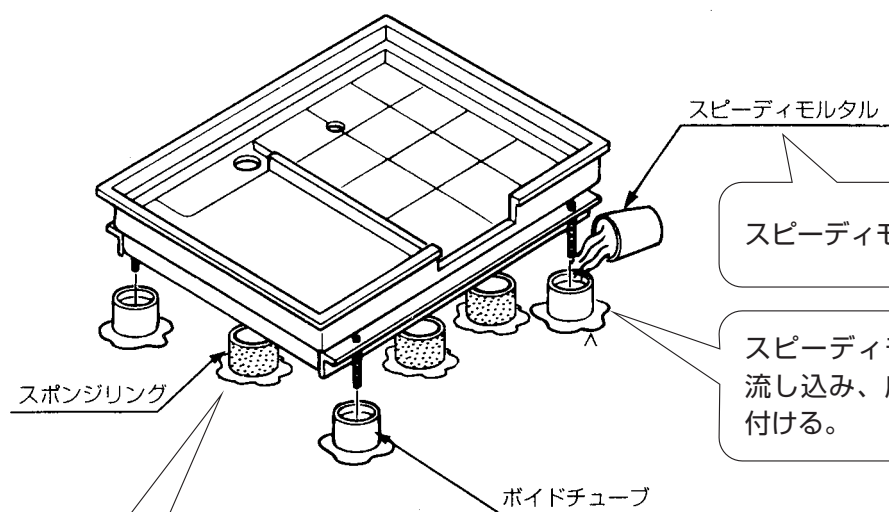
取付け方向に注意。
（床表側にすり割り部）

埋込んであるトラップ、排便接続位置に合わせること。

位置墨に合わせて床パンを仮置き。

スラブ面の凹凸はできるだけなくし、砂ぼこり、水たまりなどを除去する。

すり割り付ボルトを回して高さと水平を出す。
※据付高さ寸法は「施工図面集」を参照。

スラブ貫通タイプ床据付け（EQタイプ）②

スポンジリング

プライマーE

床支持ボルトの位置墨に合わせプライマーEを塗布後、スポンジリング・ボイドチューブを置く。

ボイドチューブはすり割り付ボルトのみ使用する。

スピーディモルタル

スピーディモルタルの詳細はP.30を参照。

スピーディモルタルをボイドチューブに流し込み、床パンを位置墨に合わせて据付ける。

スポンジリング

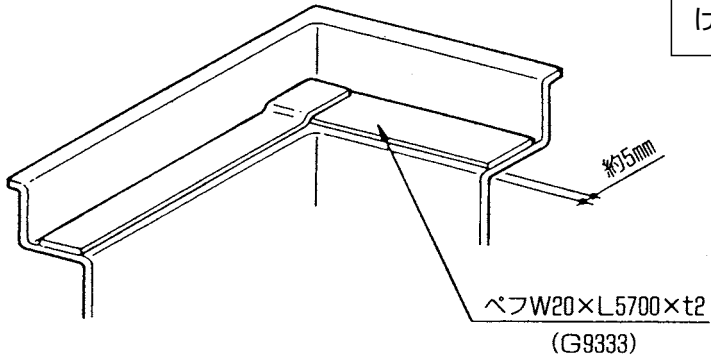
ボイドチューブ

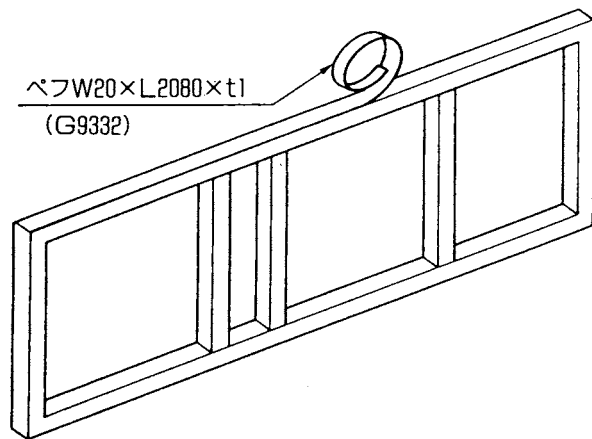
スポンジリングのみスピーディーモルタルの上にプライマーEを5cc程度滴下する。

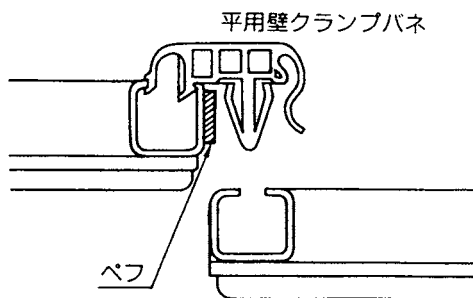
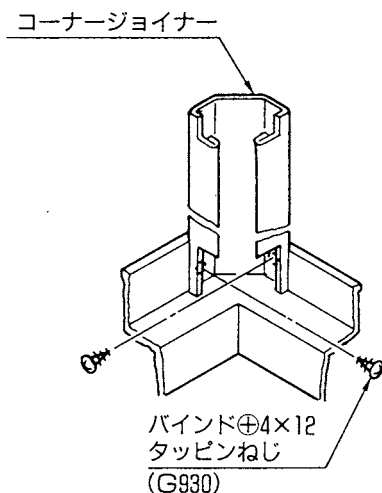
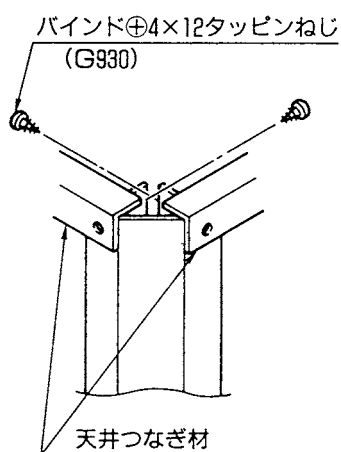
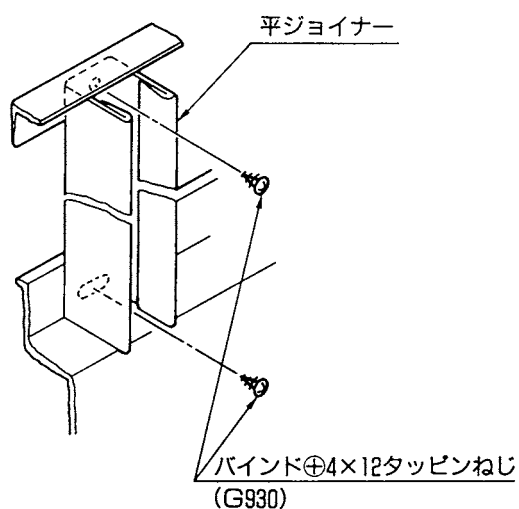
- スポンジリング一杯に流し込むこと。
- 硬化するまで床の上に乗らないこと。

（共に音鳴りの原因となる。）

BL品のみ下記内容の施工が発生します。

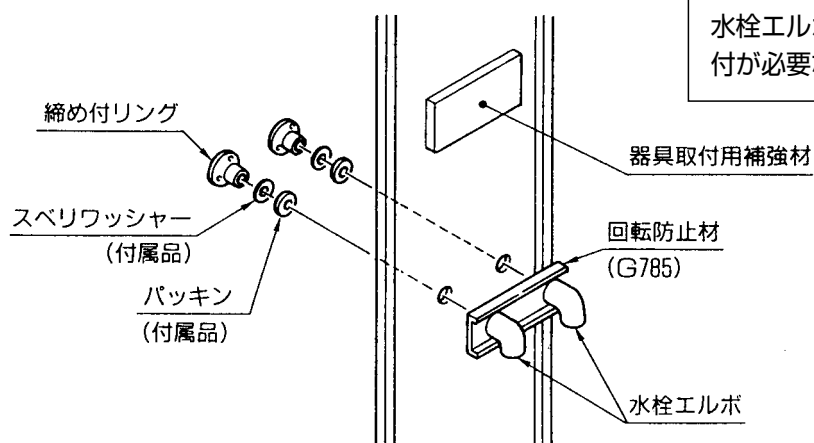
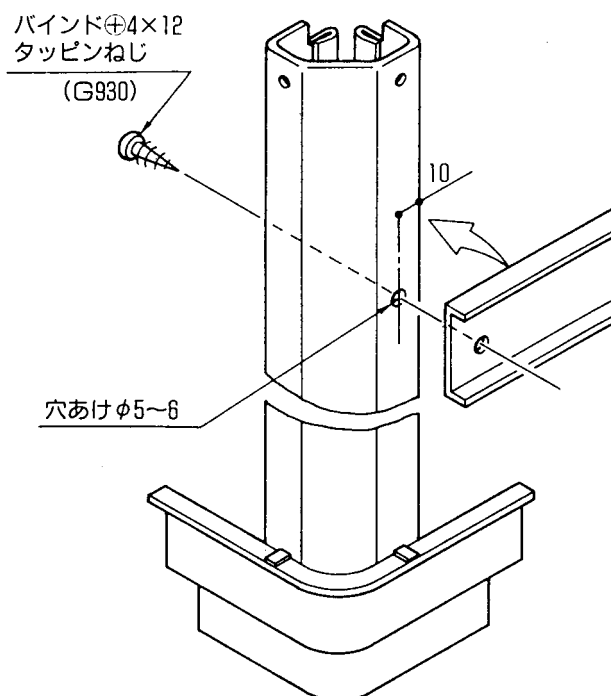
床へのペフ張付け

壁のせ面から5mm奥の位置にペフを全面張付ける。

タイル壁パネルへのペフ張付け

平クランプバネを取付け、壁パネルフレームにペフを張付ける。

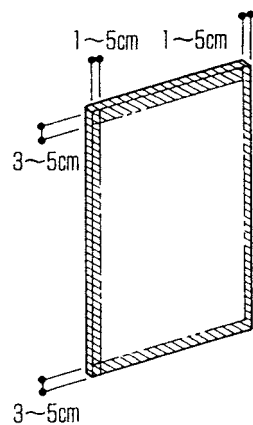
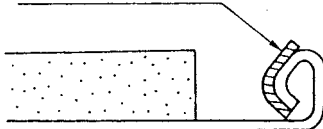
6　UB躯体の組立て

HQパネル、塩ビ鋼板壁・ジョイナー類、天井つなぎ材取付け

コーナージョイナーをタッピンねじで床パン四隅に固定する。

天井つなぎ材をタッピンねじでコーナージョイナーに固定する。

平ジョイナーを壁割り付けに合わせてタッピンねじで天井つなぎ材および床パンに固定する。

平ジョイナーが倒れないように天井つなぎ材側から固定する。

ジョイナーは正規位置にあること。

HQパネル、塩ビ鋼板壁・壁パネル組立前作業①

水栓エルボ・器具取付用補強材などあらかじめ取付が必要なものを取付ける。

ジョイナーに取付ける補強材などがある場合、あらかじめジョイナーに下穴をあけ取付ける。

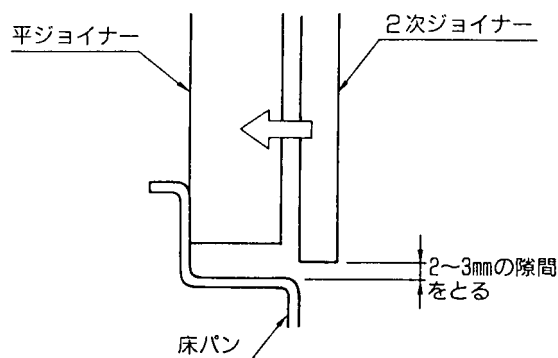
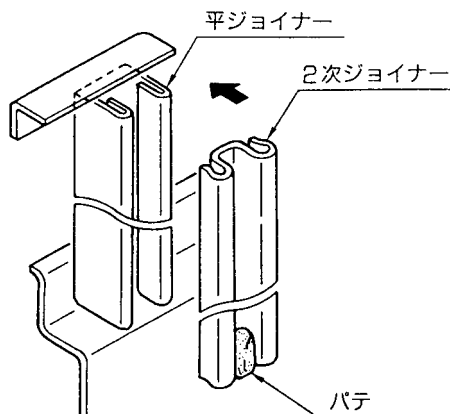
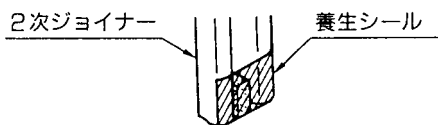
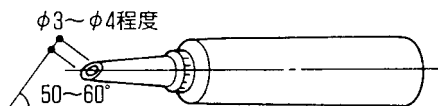
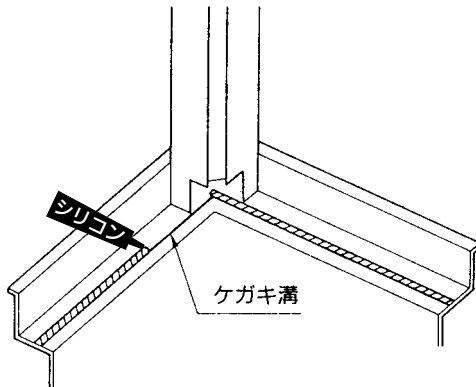
HQパネル、塩ビ鋼板壁・壁パネル組立前作業②

■けがき
養生フィルムをけがく前に各器具のけがき位置を「施工図面集」で確認し、けがき及び穴加工を実施すると良い。

図の斜線部の養生フィルムをはがす。

残りの養生フィルムは、傷防止のため引渡し前の清掃まではがさないこと。

養生フィルムが残っていると壁パネルを組立てにくくなる。

HQパネル、塩ビ鋼板壁・壁パネル組立前作業③

■1次シリコン

壁パネル組立て前に、床パン壁のせ面全周にシリコンをケガキ溝に沿って塗布する。

シリコンは連続して途切れのないこと。

はみ出たシリコンは拭きとること。

シリコン打ち忘れの無いこと。

シリコンのノズル先端は、シリコン塗布量が最適になるよう図の様にカットする。

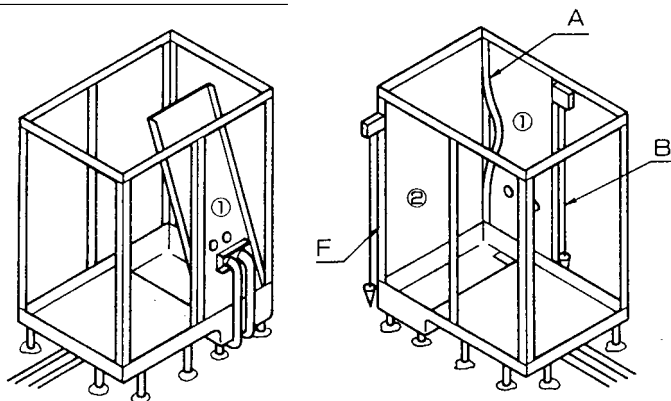
2次ジョイナーを平ジョイナーに取付ける前にパテの部分に貼付けてある養生シールを剥ぐ。

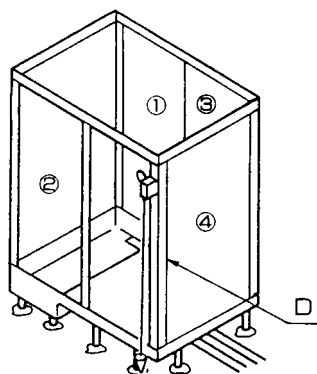
パテが入っている方を下にし2次ジョイナーを平ジョイナーに取付ける。

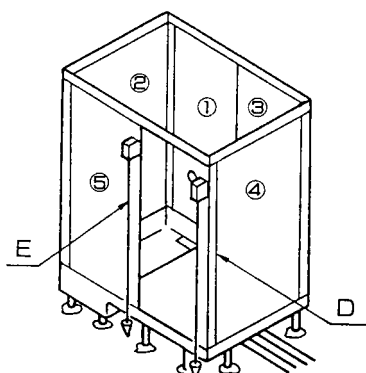
2次ジョイナーの下端が床パンと2〜3mmのすき間が空くように取付ける。

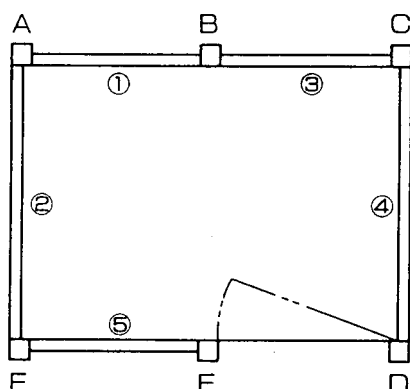
壁建込みの際パテがつぶれて小口を確実にシールする為

HQパネル、塩ビ鋼板壁・壁パネル組立①

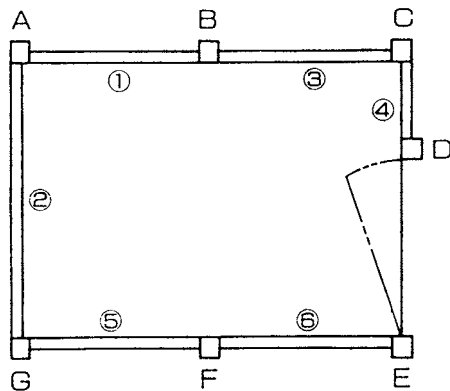
長辺ドア（R）1218以下

まず、①②のパネルを建込み、コーナー目地を上下端（15～20cm）仮打ちし、B部平ジョイナー及びF部コーナージョイナーの倒れを下げ振りにて調整（1mm以内）する。調整後、A部のコーナー目地を下から完全に打込む。

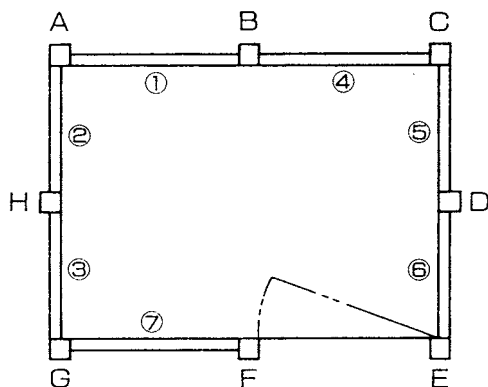
以降コーナー目地は、上下端のみ仮ちする。ドア枠倒れ調整後に完全に打込む。

③④のパネルを建込みD部コーナージョイナーの倒れを調整する。

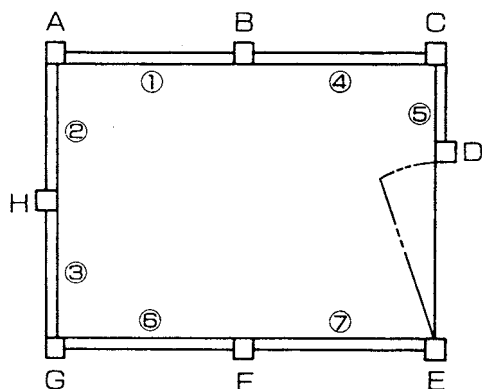
平ジョイント部は後ろから入れるパネルを斜めにしてまず下端をかん合させる。

⑤のパネルを建込みE部平ジョイナーの倒れを調整し、ジョイナーD・Eの倒れを最終確認する。

壁パネル組立をやり直す時は、再度床パン壁のせ面および2次ジョイナー下端にシリコンを塗布すること。

■壁パネル建込み要領　P.44
■治具（当て木）使用要領　P.44
■コーナージョイント部施工要領　P.45
■平ジョイント部施工要領　P.46
■ジョイナーの倒れ確認要領　P.46

HQパネル、塩ビ鋼板壁・壁パネル組立②

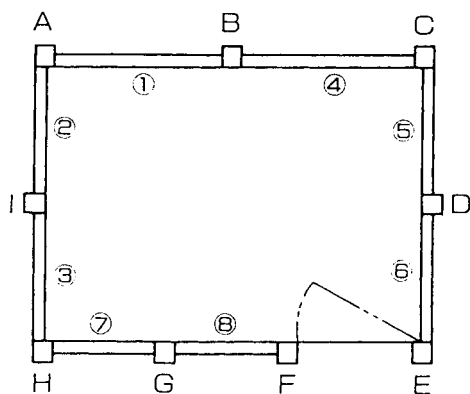
短辺ドア（R）1218以下

①②のパネルを建込み、ジョイナーB・Gの倒れを調整する。
③④のパネルを建込み、ジョイナーDの倒れを調整する。
⑤のパネルを建込み、ジョイナーFの倒れを調整する。
⑥のパネルを建込み、ジョイナーEの倒れを調整し、ジョイナーD・Eの倒れを最終確認する。

長辺ドア（R）1317･1416･1418

①②のパネルを建込み、ジョイナーB・Hの倒れを調整する。
③のパネルを建込む。
④⑤のパネルを建込み、ジョイナーDの倒れを調整する。
⑥⑦のパネルを建込み、ジョイナーE・Fの倒れを調整する。

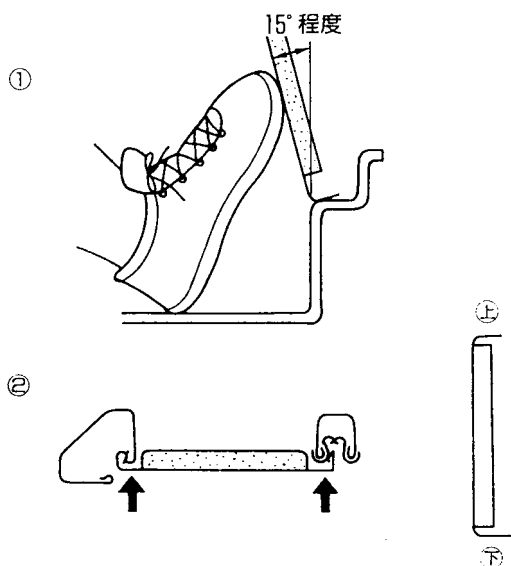
短辺ドア（R）1317･1416･1418･1620（EQタイプ除く）

①②のパネルを建込み、ジョイナーB・Hの倒れを調整する。
③のパネルを建込む。
④⑤のパネルを建込み、ジョイナーDの倒れを調整する。
⑥のパネルを建込み、ジョイナーFの倒れを調整する。
⑦のパネルを建込み、ジョイナーEの倒れを調整し、ジョイナーD・Eの倒れを最終確認する。

EQタイプは施工指導書（洋風タイプ）を参照のこと。

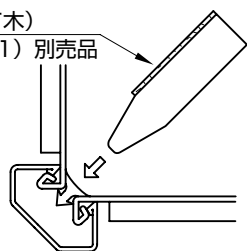
HQパネル、塩ビ鋼板壁・壁パネル組立て③

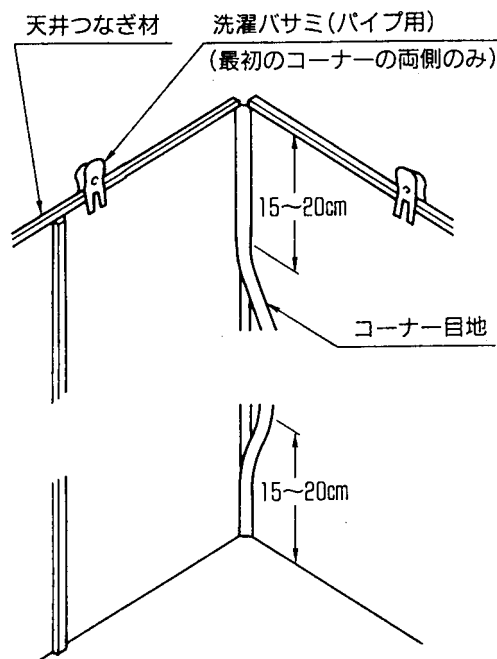
長辺ドア（R）1620（EQタイプ除く）

①②のパネルを建込み、ジョイナーB・Iの倒れを調整する。
③のパネルを建込む。
④⑤のパネルを建込み、ジョイナーDの倒れを調整する。
⑥のパネルを建込み、ジョイナーEの倒れを調整する。
⑦のパネルを建込み、ジョイナーGの倒れを調整する。
⑧のパネルを建込み、ジョイナーFの倒れを調整し、ジョイナーE・Fの倒れを最終確認する。

HQパネル、塩ビ鋼板壁・壁パネル組立て④

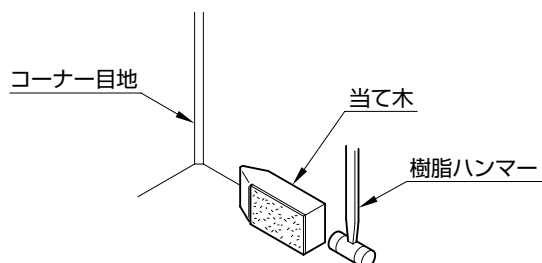
■壁パネル建込み要領

①パネルを手前に倒して、床に載せパネル下部を足先で押え下側から入れる。
②パネルをゆっくり建起こして、パネル両端をジョイナーにはめ合わせる。

パネルが入りにくい場合は下側から手のひらで軽くたたく。

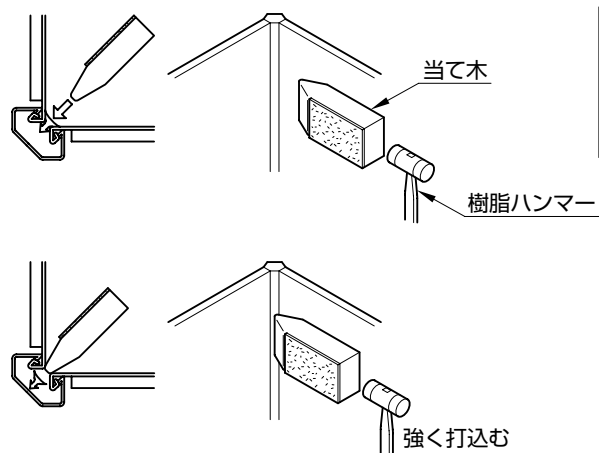
■治具（当て木）使用要領

HQパネル、塩ビ鋼板壁・壁パネル組立て⑤

■コーナージョイント部施工要領

2枚のパネル、コーナー目地の上下端を合わせ当て木をして、コーナー目地を打込み仮止めする。仮止めは上下端15～20mm。

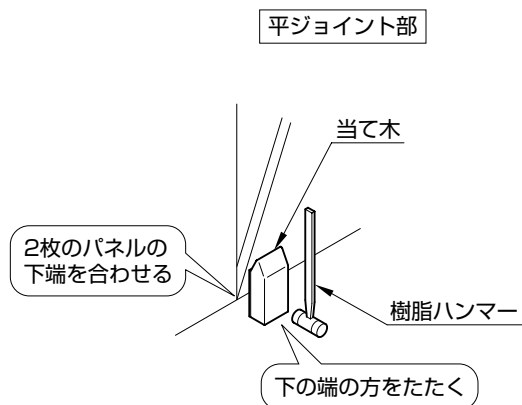
最初のコーナーを組立てる際は洗濯バサミ（パイプ用）を使うとパネルが倒れる心配がない。

壁パネル下端とコーナー目地下端を合わせること。

コーナー目地を完全に打込む時は下から打込む。上から打込むとたるんだ分が入らないことがある。

目地の浮きがないこと

■コーナー目地の外し方

治具（当て木）を使ってコーナー目地を強く打込んで、コーナージョイナー内に入れ込み、コーナー目地をジョイナー上から取出す。

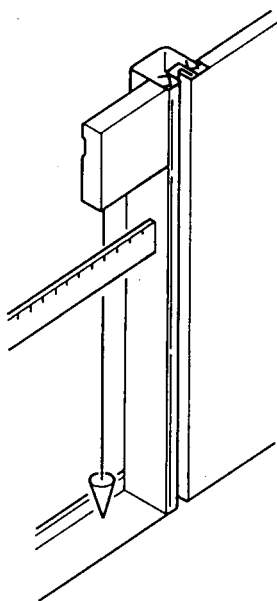
HQパネル、塩ビ鋼板壁・壁パネル組立て⑥

■平ジョイント部施工要領

平ジョイント部

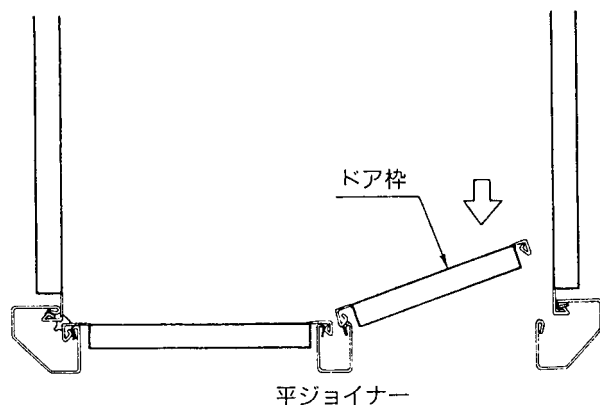
後から入れるパネルを斜めにしてまず下端をかん合させる。平ジョイント部は下から上へ当て木を使用して打込む。

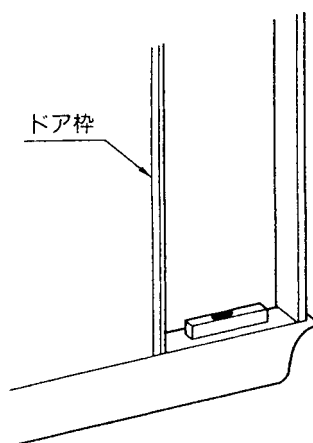
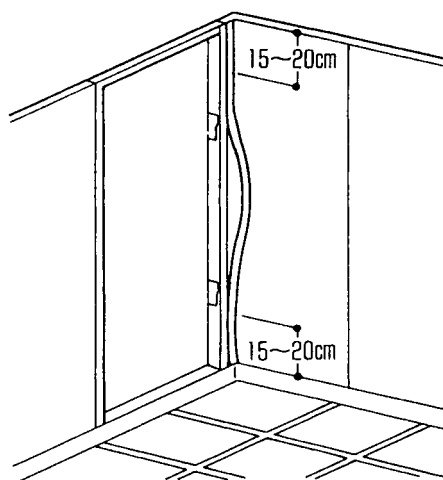
平ジョイナーの位置がどちらかに寄っていてパネルのかん合が堅い場合は平ジョイナーを樹脂ハンマーで叩いて位置を調整する。

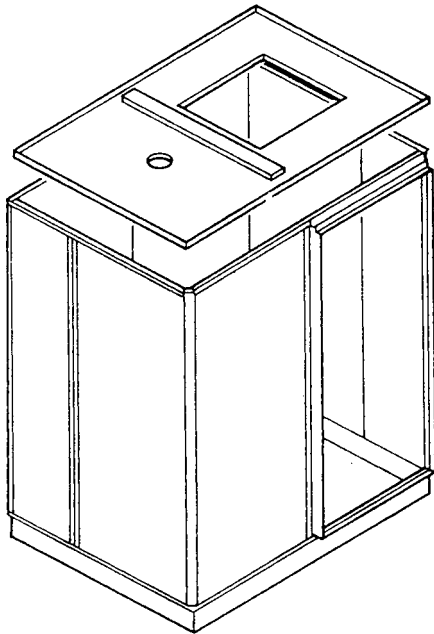
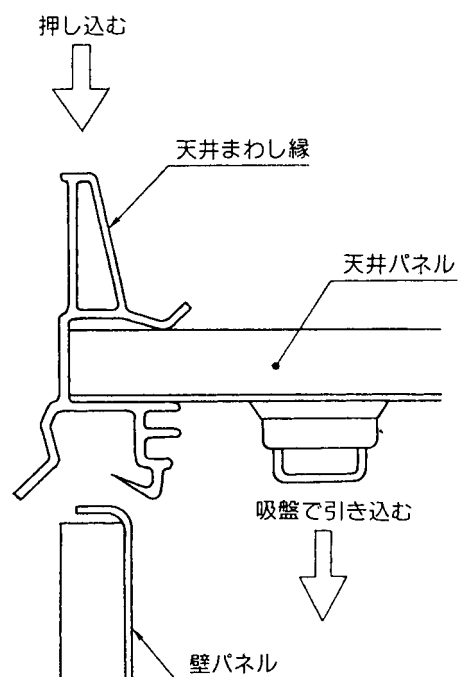
壁パネル取付の際2次ジョイナーのパテがハミ出たら拭き取ること。

■ジョイナーの倒れ確認要領

ジョイナーの倒れを下げ振りなどで調整する。

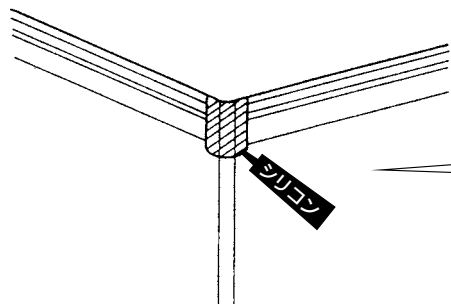
倒れは1mm以内

HQパネル、塩ビ鋼板壁・ドア枠取付け

ドア枠は平ジョイナー側から当て木を使用し建込む。

建込み要領は　■平ジョイント部施工要領（P.45、P.46）参照

ある程度ドア枠をかん合させドア下枠のレベルを調整する。
レベル調整後ドア枠を完全に建込む。

コーナー目地を下端から当て木をして仮打ちをする。仮打ちは上下端。（15～20cm）

天井パネル取付け（一枚天井）

天井パネルと壁パネル上端にはめ込む。
①壁と天井の位置を大体合わせる。
②どこか1つのコーナーをはめ込む。
③残りのコーナーをはめ込む。
④コーナーから中央に向かってはめ込む。

天井をはめ込むには
㋑天井まわし縁の上から押し込む。
㋺吸盤を使って引き込む。
天井は最後まで十分にはめ込む。

天井は確実に落とし込むこと。

天井パネル　シリコン固定（一枚天井）

四隅の天井パネルと壁パネルのすき間に十分充てんする。

四隅のシリコンは天井目地取付直前に行うこと。

天井目地・点検口取付け

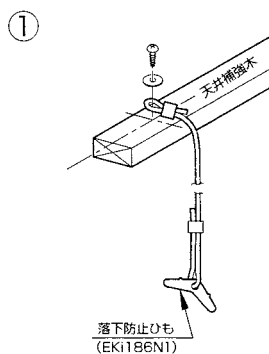
専用治具を使用し天井目地を廻し縁にはめ込む。

目地のめくれ、浮きの無いこと。

天井目地四隅にシリコンを充てんし、指で余分なシリコンを取り去る。

天井点検口ふたセット後の状態

• 天井点検口ふた取付の際、落下防止ひも(EKi186N1)を下記要領にて取付けてください。

①

ひものループを付属のワッシャ、ねじにて天井裏の補強木に止める。

(ねじ止め位置は、天井点検口の角から、もよりの天井補強木中心線上に止めてください。)

②

天井点検口ふた裏面(品番捺印面)

金具(平部)

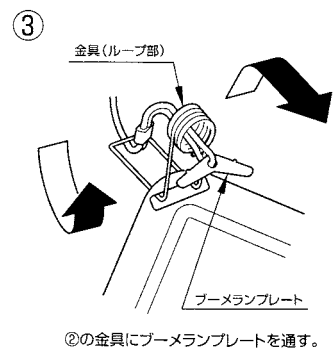
天井点検口ふた
(EKi184**1)

裏

裏

金具の平部をフタの角のスリットに差込む。
(パッキンは押し破る。)

③

金具(ループ部)

ブーメランプレート

②の金具にブーメランプレートを通す。

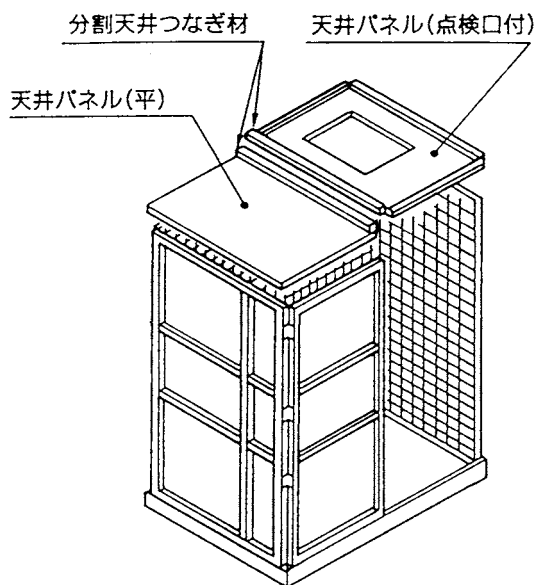
ブーメランプレートを「金具の平部」➡「金具のループ部」の順に通すこと。

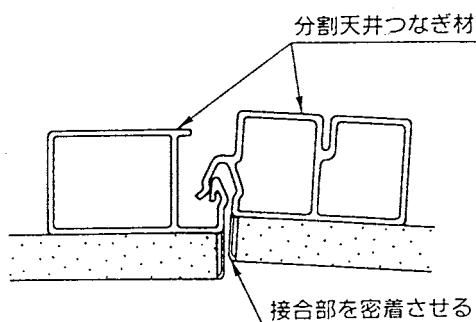
取付方法を誤ると、落下防止ができないおそれがあります。

※ 取付後、しっかり取付けられているかご確認ください。

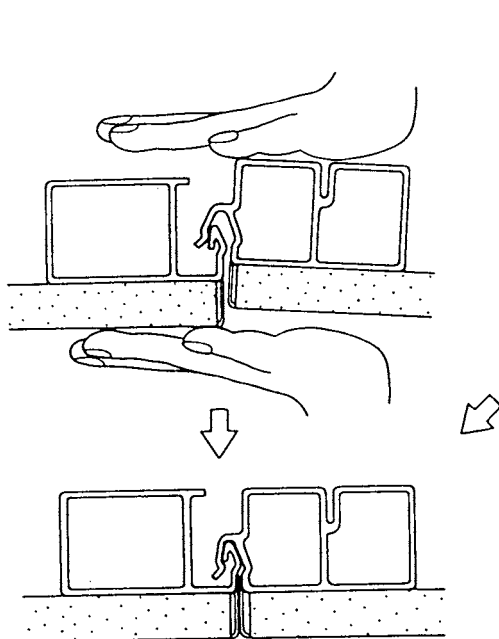
天井パネル取付け（分割天井）

天井パネル取付け（分割天井）①

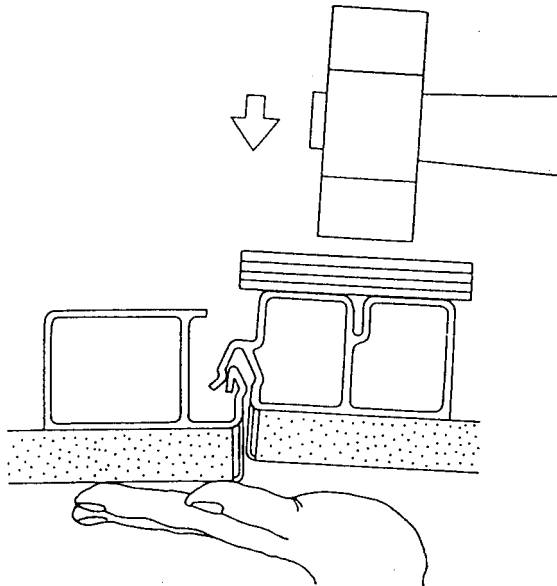
■HQP、塩ビ鋼板、タイル壁同一要領

一枚天井と同要領で、天井パネル（平）を壁パネル上端にはめ込む。

天井パネル（点検口側）を壁上端にはめ込む。

天井パネル（点検口側）を取付けの際、天井パネル接合部を密着させること。

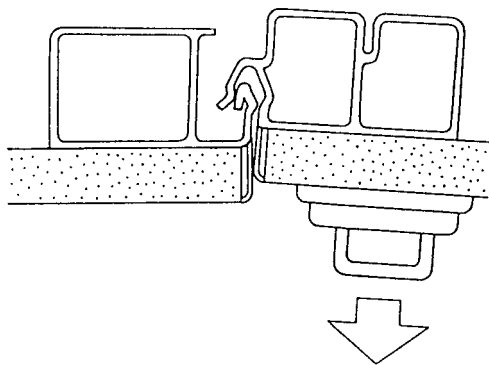
隅部をはめ込んだ後に分割天井つなぎ材部をはめ込む。

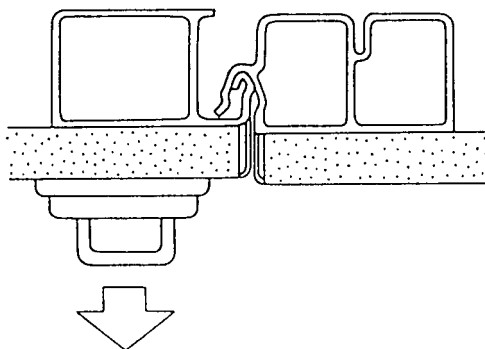
分割天井つなぎ材を図のように下側を手で支えながら、上から手で押込むか又は叩き込み、完全にかん合させる。

分割天井つなぎ材は、橋から順にかん合させる。

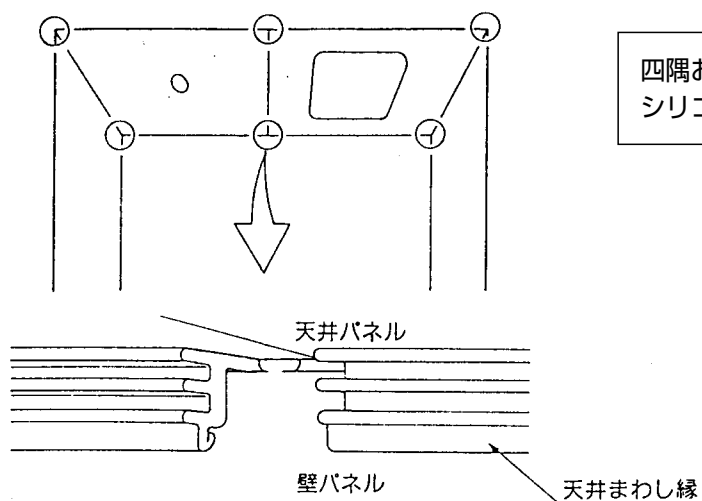
天井パネル接合部は、面一であること。

天井パネル取付け（分割天井）②

手で叩き込んでもかん合しない場合は、図のように木片などを間にはさみ、プラスチックハンマーで叩き込み、完全にかん合させる。

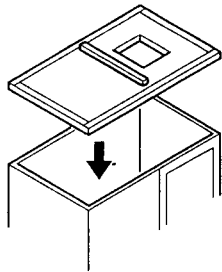
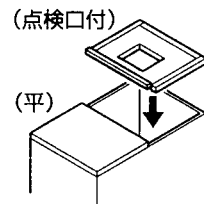
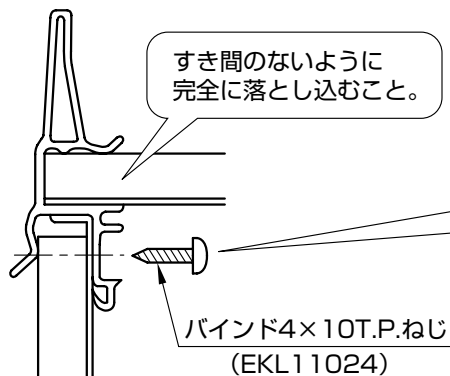
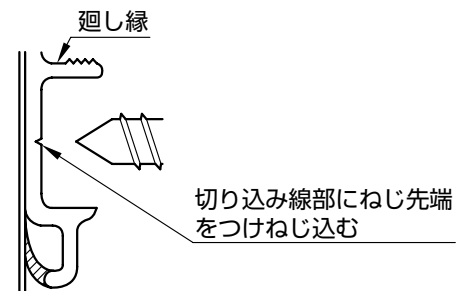
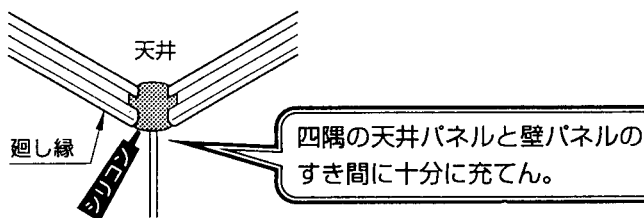
分割天井つなぎ材をプラスチックハンマーなどで叩き込む場合は、頭径φ30以上のプラスチックハンマーを使用すること。
強く叩くと、割れるおそれがあるので注意すること。

■分割天井接合部、面段差の調整（面段差0.5mm以上の場合）

天井取付後、点検口側が図のように上がっている場合は、もう一度上から押込むか、下から吸盤で引っ張り、天井面を合わせる。

平側が上がっている場合は、平側を下から吸盤で引っ張るか、下から点検口側を手で叩いて天井面を合わせる。

プラスチックハンマーなどで直接天井面を叩かないこと。

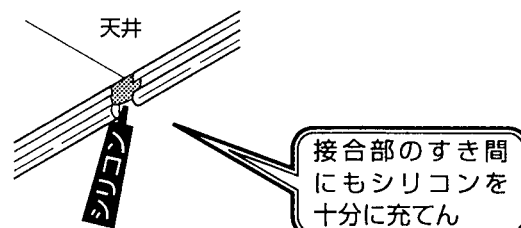
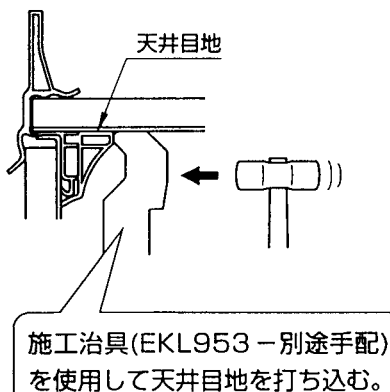
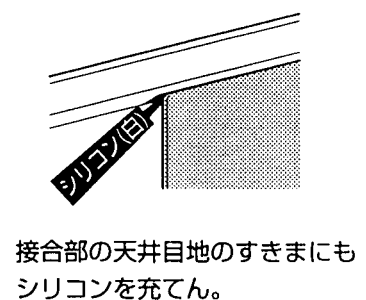
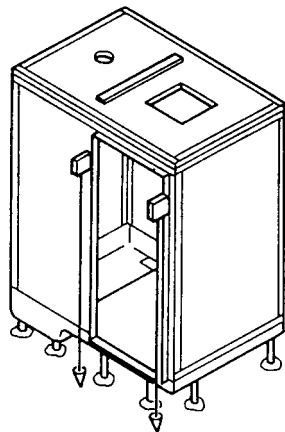
天井パネル　シリコン固定（分割天井）

四隅および天井付合わせ部の天井と壁のすき間に
シリコンを十分に充てんする。

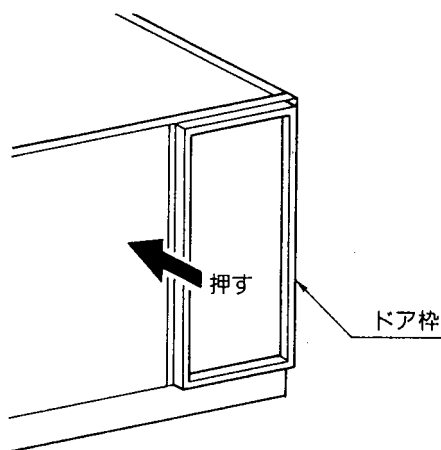
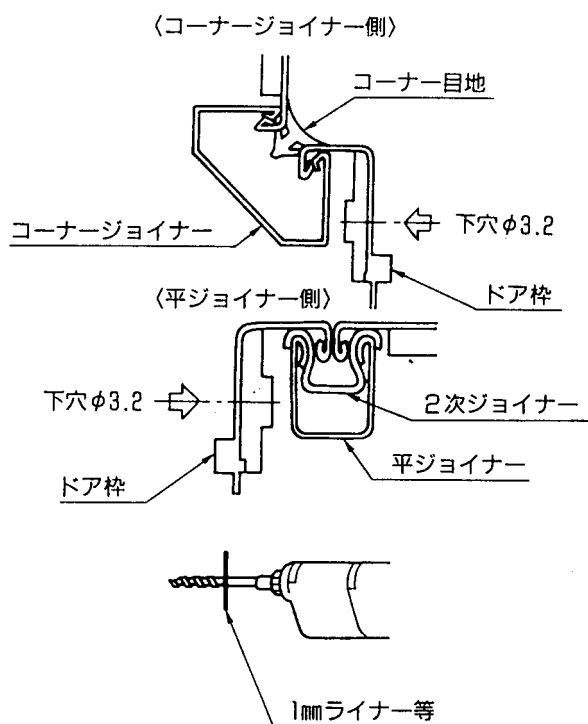
天井パネルのはめ込み（天井額縁が長いタイプ）

1 天井パネル設置

【分割天井の場合】

はめこみは平側から行い、接合部に段差のないように完全にかん合させる。

壁パネル1枚あたり、2ヶ所固定する。
（壁パネルの端から100mm内側に打つ）

2 シリコン充てん

【分割天井の場合】

3 天井目地打込

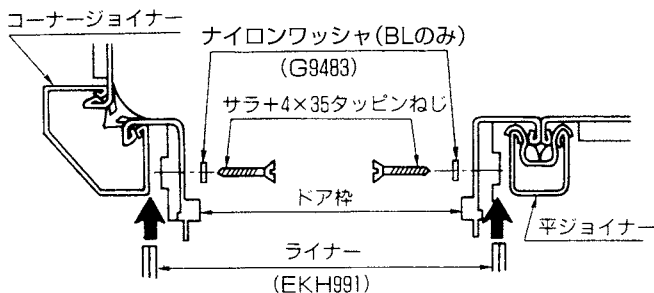
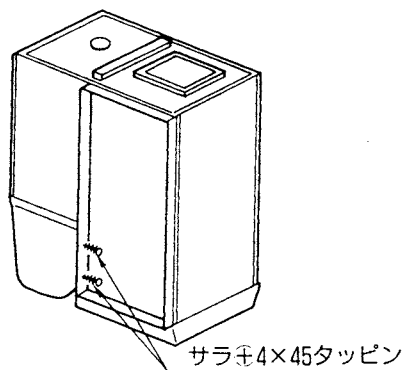
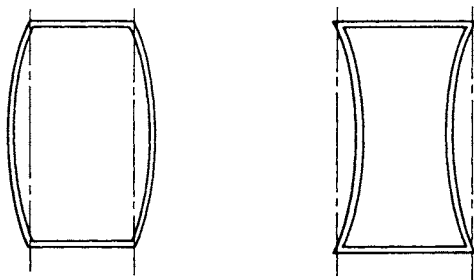
【収納パネルの場合】

接合部の天井目地のすきまにもシリコンを充てん。

HQパネル、塩ビ鋼板壁・ドア枠固定①

下げ振りなどでドア枠の倒れを確認し調整する。（前後、左右2mm以内）

なかなか倒れが直らない時は天井を外した後に平側の壁パネル中央を後ろから押して一旦ジョイナーから外し、再度調整する。

倒れ調整完了後仮打ちしているコーナー目地を下から完全に打込む。

ドア枠、ねじ取付穴に合わせてジョイナー（コーナー・平）に下穴（φ3.2）をあける。

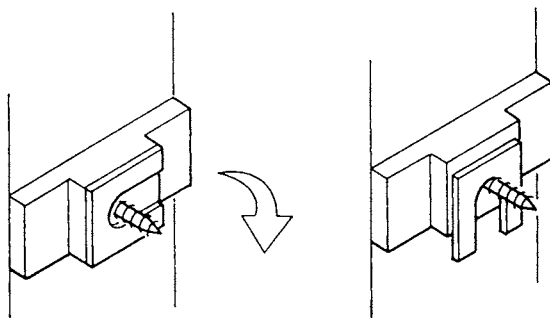
平面位置高さ	±2mm以内
倒れ・前後左右	±2mm以内
ひねり	2mm以内

下穴をあける場合ドリルに1mmライナーを取付けるとドア枠キズ防止になる。

HQパネル、塩ビ鋼板壁・ドア枠固定②

皿タッピンねじを下穴に合わせて仮止めし、ドア枠とジョイナー（コーナー・平）の間にライナーを差込んでドア縦枠が真直ぐになるように調整しながら本締めをする。

ハーフ床の場合、平ジョイナーのない、床立上がり部（1または2ケ所）は皿　4×45タッピンねじで固定する。

凸の場合、ドア枠とジョイナーの間にライナーを増加する。

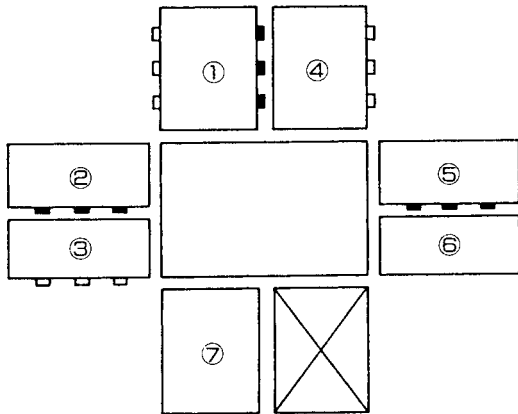
凹の場合、ドア枠とジョイナーの間のライナーを減らす。

ドア枠が凹凸の場合ライナーの増減により調整する。

ドア下枠の水平を再確認する。

ライナーは開口部を横向きにして差込み、回転させて開口部を下向きにすると手を離しても落ちない。

ドアを吊り込んでドアとドア枠が当たるおそれがないか各辺のすき間が均一か、ドアロックが確実にかかるか確認する。

タイル・壁クランプバネ取付け①

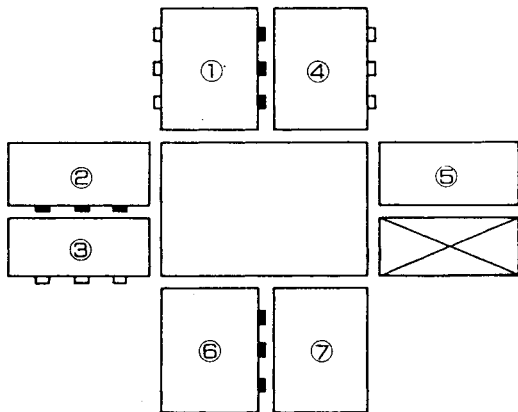
長辺ドア（R）1216以下、1317、1416

パネル組立順序は①～⑦の順で行う。

壁クランプバネは左図のように取付ける。

□コーナークランプバネ
■平クランプバネ

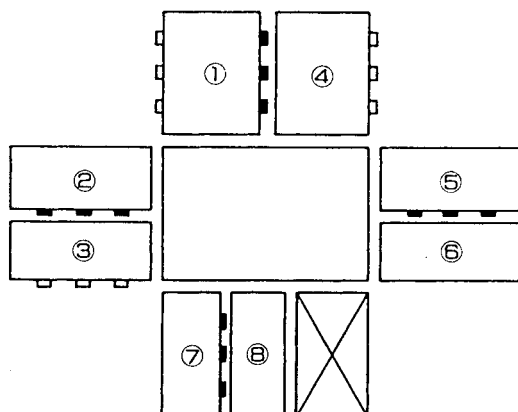
壁クランプバネ取付要領は、P.58参照。

壁パネルを運ぶ場合はタイル面を物にぶつけないように十分注意すること。
壁パネルを立て掛ける場合はタイルが欠けないように十分注意すること。

短辺ドア（R）1220以下（EQタイプ除く）

パネル組立順序は①～⑦の順で行う。

壁クランプバネは左図のように取付ける。

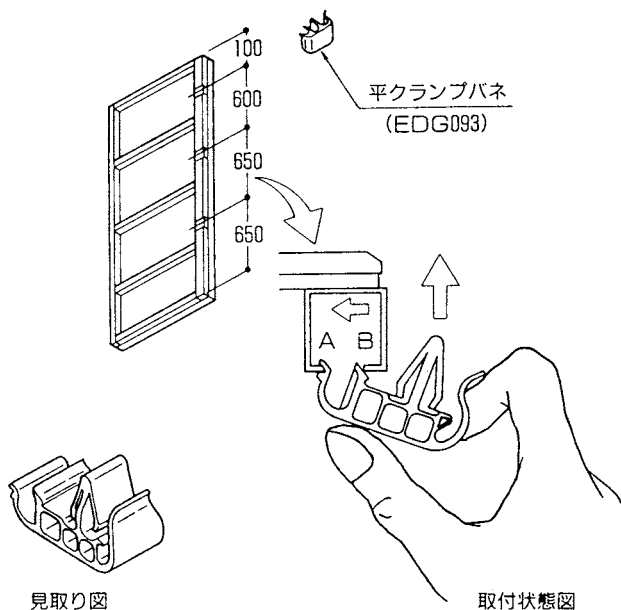
□コーナークランプバネ
■平クランプバネ

長辺ドア（R）1218、1418、1620（EQタイプ除く）

パネル組立順序は①～⑦の順で行う。

壁クランプバネは左図のように取付ける。

□コーナークランプバネ
■平クランプバネ

EQタイプは施工指導書（洋風タイプ）を参照のこと。

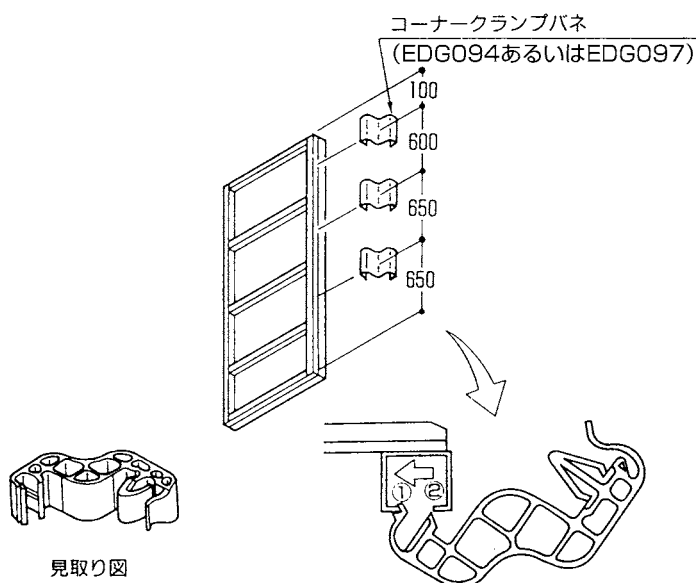
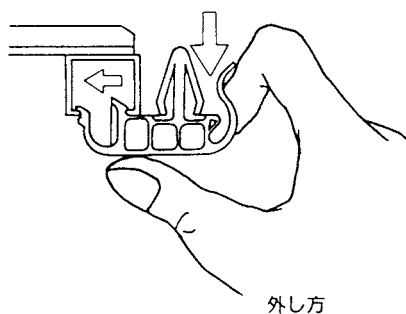
タイル・壁クランプバネ取付け②

壁パネル組立順序により、壁クランプバネの取付位置及び平コーナークランプバネの取付パネルを決定する。

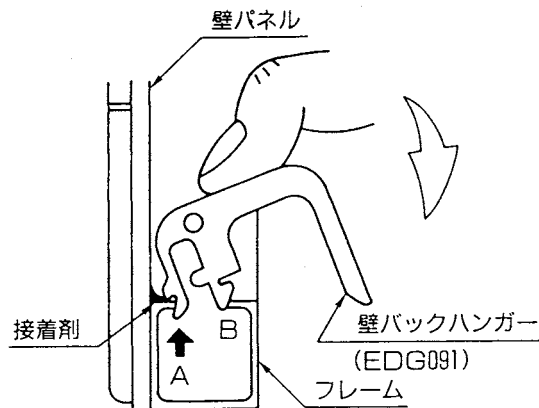
平クランプバネを3個取付ける。

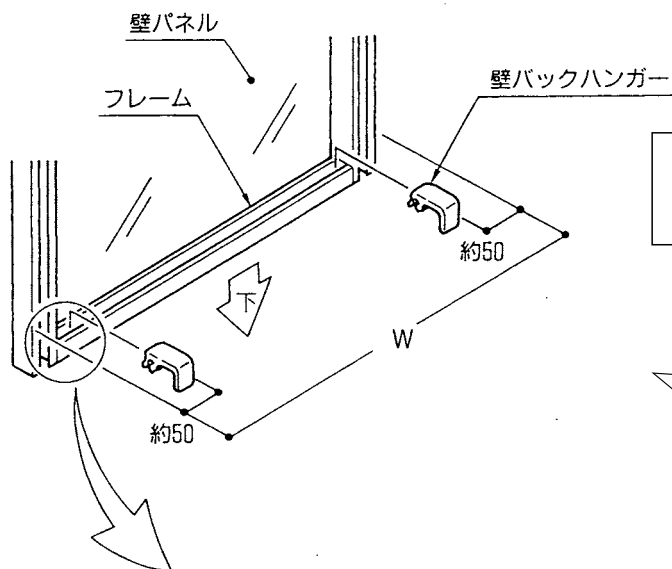
爪部Aを左図のようにフレームに突き立て矢印方向に押込んで爪部Bをフレームにかん合させる。

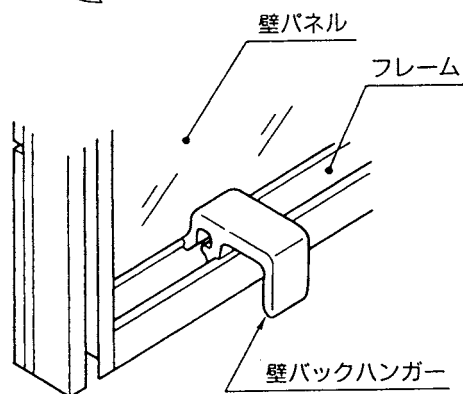
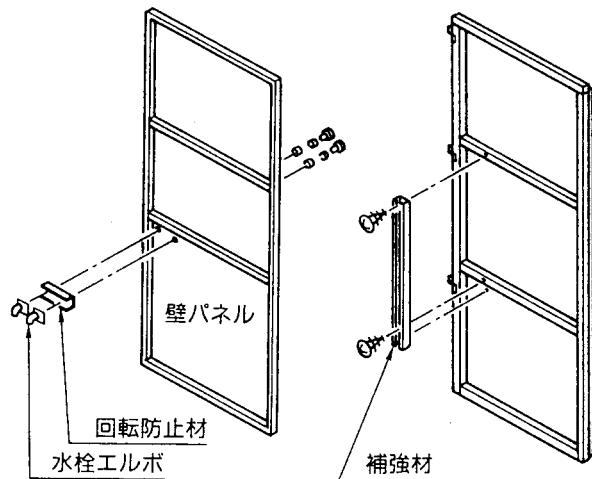
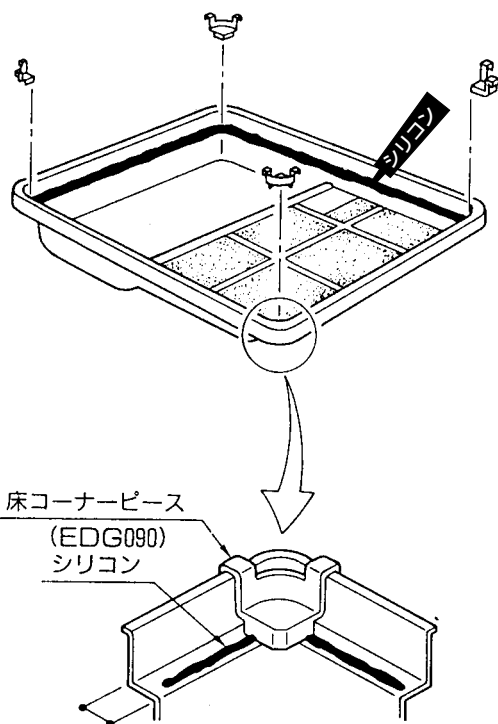
コーナークランプバネを3個取付ける。

コーナークランプバネ
（EDG094あるいはEDG097）
100
600
650
650
① ②
見取り図

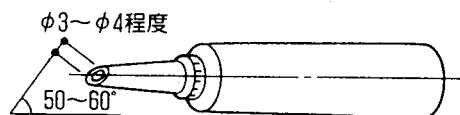
取付け要領は平クランプバネと同様。

万が一フレームが変形していた場合は隣り合う壁パネルフレーム（横桟）と干渉しない所に、クランプバネを取付ける。

⇦方向へ押しながら⇩方向へ引く。
平、コーナークランプバネ同一要領

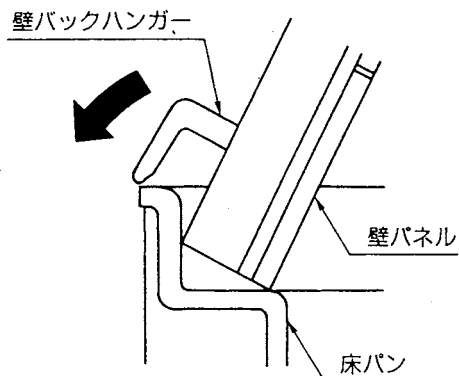
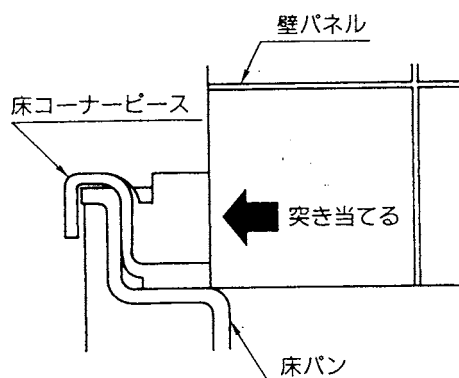
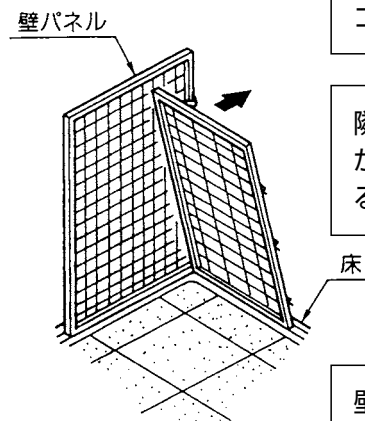
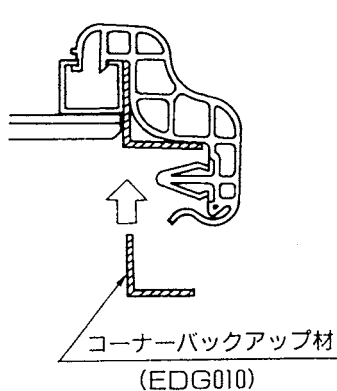
タイル壁・壁バックハンガー取付け

壁フレームに壁バックハンガーを取付ける。

爪部Aを左図のようにフレームに突き立て、親指でパチンと音がするまで下に押込んで爪部Bをフレームにかん合させる。
壁バックハンガーがフレームに入りにくい場合は、フレームと基盤の接着剤を取除く。

壁バックハンガーはタイル壁1枚につき2個取付ける。

配管支持材などと干渉する場合は取付位置をずらす。

タイル壁・壁パネル組立て①

水栓エルボ、補強材などあらかじめ取付けが必要なものは取付ける。

壁パネル組立前に、床パン壁のせ面全周にシリコンをけがき溝に沿って塗布し、床コーナーピースを取付ける。

シリコンは連続して途切れのないこと。

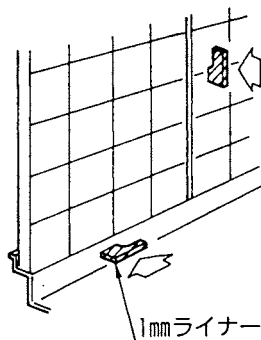
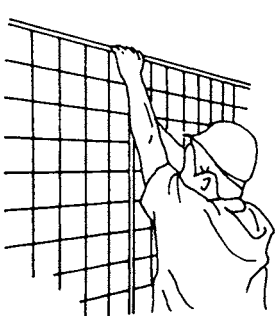
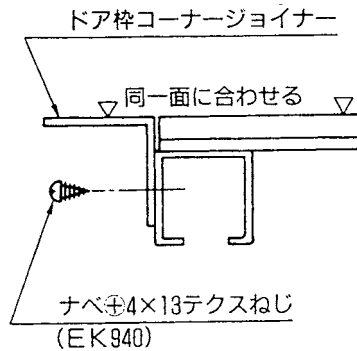
シリコン打ち忘れの無いこと。

シリコンのノズル先端は、シリコン塗布量が最適になるよう図の様にカットする。

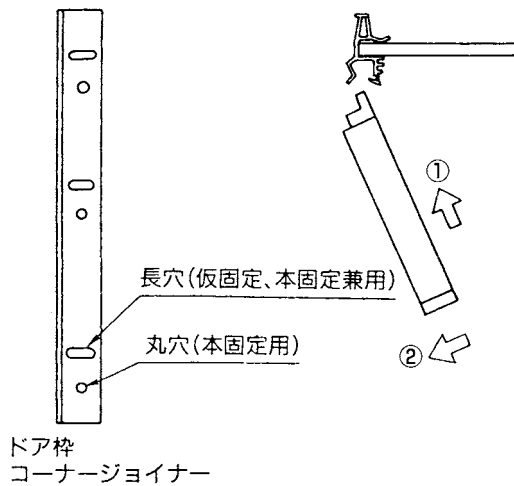
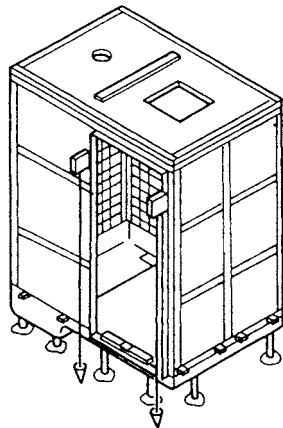
タイル壁・壁パネル組立て②

壁パネル上端をやや手前に傾けて下端を壁のせ面にのせ、そのまま立て起こす。

コーナー部の壁パネルは床コーナーピースに突き当てて、組立てを行う。

コーナーバックアップ材をセットする。

隣り合う壁パネルの目地（横目地高さ、縦目地巾）が合わない場合は塩ビライナーをはさんで調整する。この時各パネルの垂直調整も行う。

壁パネル組立ての際、強くたたかないで、あくまでも押込むようにする。

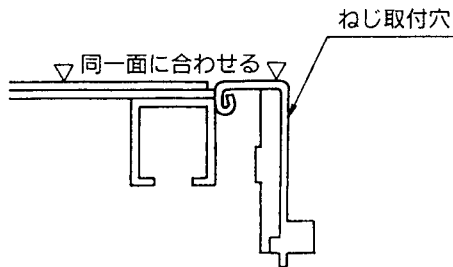
目地段差の無いこと。

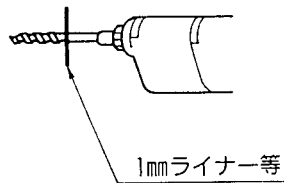
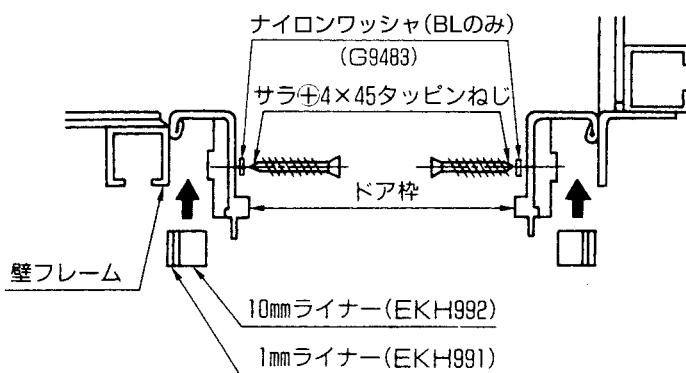
(EKH991)

タイル壁・ドア枠固定①

ドア枠コーナージョイナーの長穴（3ケ所）を使ってコーナー側パネルのフレームにドア枠コーナージョイナーを取付ける。

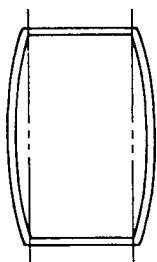
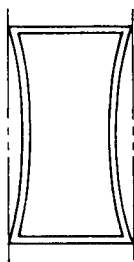
タイル面とドア枠コーナージョイナーが同一面になるように位置を合わせる。

ドア枠を天井まわし縁に差込み床パン壁のせ面に載せる。

ドア下枠の水平を確認し、ドア枠が真直ぐになるように下げふりなどで確認する。
（前後、左右2mm以内）

ドア枠が真直ぐにならない場合は壁パネルの調整をやり直す。

平面位置高さ	±2mm以内
倒れ・前後左右	±2mm以内
ひねり	2mm以内

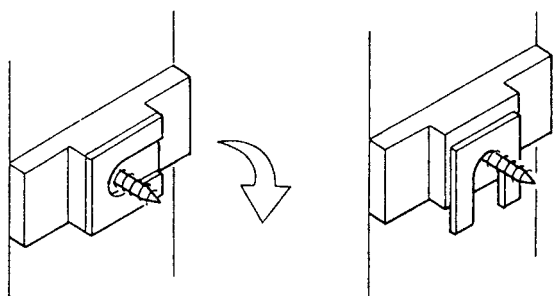
タイル壁・ドア枠固定②

ドア枠ねじ取付穴（8ケ所）に合わせて壁フレームに下穴（φ3.2）をあけ、皿タッピンねじで仮固定する。

タイル面とドア枠が同一面になるようにする。

下穴をあける場合ドリルに1mmライナーなどを取付けるとドア枠キズ防止になる。

ドア枠コーナージョイナー取付けねじをゆるめて、ドア枠側一杯まで寄せ、取付けねじを締めるとともにドア枠コーナージョイナーの丸穴（3ケ所）もテクスねじで止める。

ドア枠の倒れ凹凸を下げふりで確認し、ライナーをユニット外側よりドア枠と壁パネル（フレーム）との間に差込んで調整しながら、ねじを本締めする。

凸の場合ドア枠とジョイナーの間にライナーを増加する。

凹の場合ドア枠とジョイナーの間のライナーを減らす。

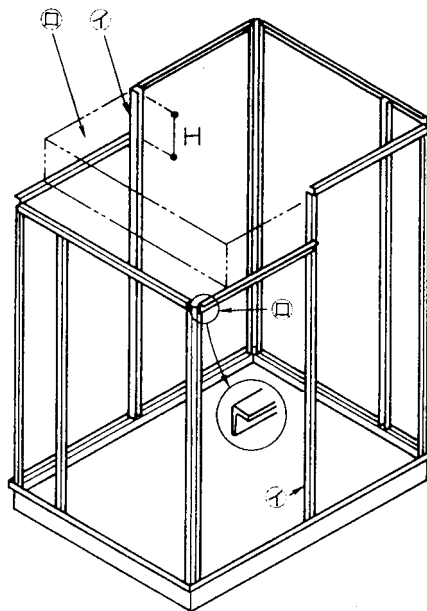
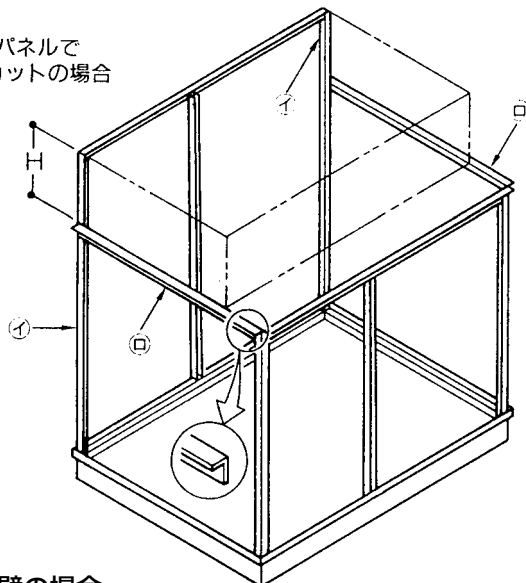
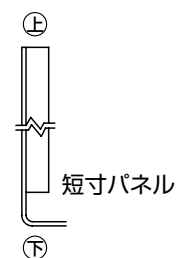
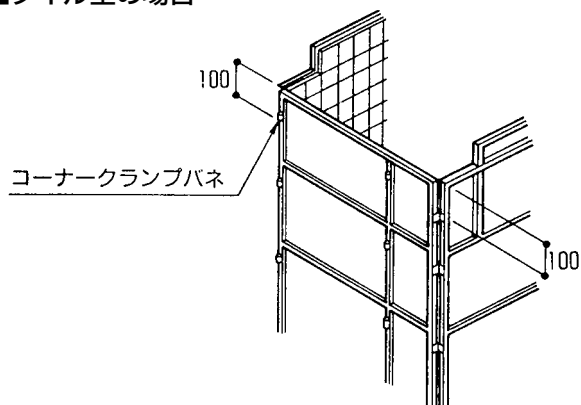
ドア枠が凹凸の場合ライナーの増減により調整する。

ドア下枠の水平を再確認する。

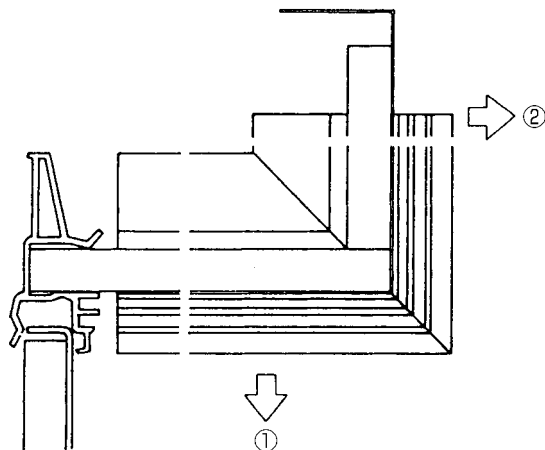
タイル壁・ドア枠固定③

ライナーは開口部を横向きにして差込み、回転させて開口部を下向きにすると手を離しても落ちない。

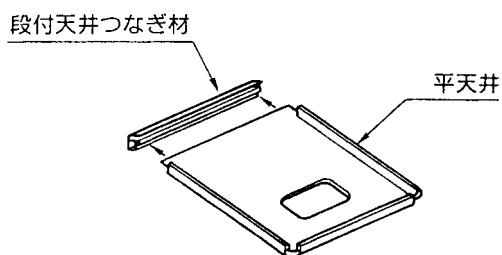
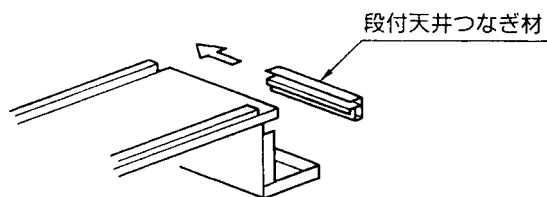
ドアを吊り込んでドアとドア枠が当たるおそれがないか、各辺のすき間が均一か、ドアロックが確実にかかるか確認する。

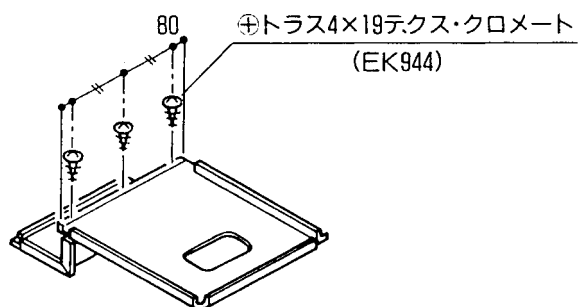
段付き天井組立て①

■HQP、塩ビ鋼板の場合

㋑ジョイナー（通常は平ジョイナー）の上部穴より梁カット高さHだけ下にφ5～6の穴をあける。
左図のように壁ジョイナー、天井つなぎ材を組立てる。

㋺の天井つなぎ材2本は他の天井つなぎ材と逆向き（アングルの刃が外向き）に取付ける。
短寸パネルは折り曲げ側が下

■タイル壁の場合

段付部コーナークランプバネの取付高さは、壁フレーム上端より100mm下がりで取付ける。

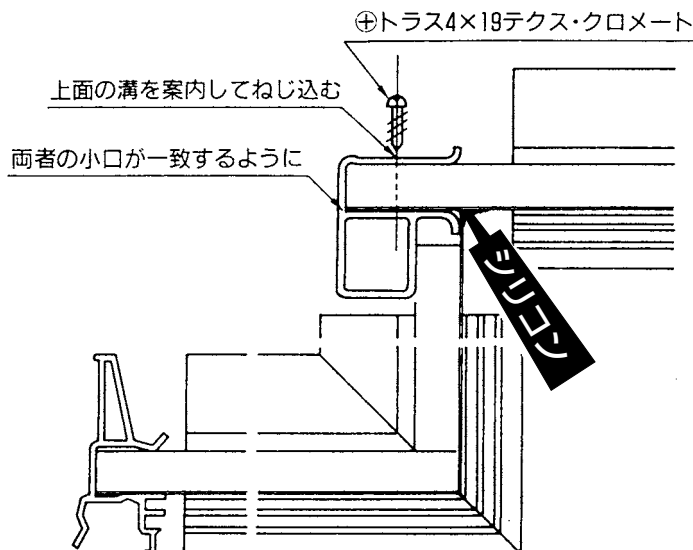
段付天井組立て②

■HQP、塩ビ鋼板、タイル壁同一要領

L型天井を取付ける。

壁パネルに①、②方向とも十分にかん合させる。

平天井端部にはめ込んである段付天井つなぎ材を外す。

平天井をL型天井同様にかん合させ、段付天井つなぎ材を横からスライドさせるようにはめ込む。

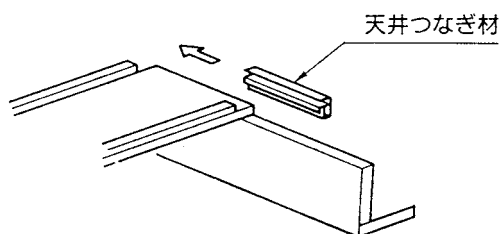
段付天井つなぎ材と天井の間にすき間がないようにはめ込む。

のせた平天井とL型天井をねじで固定する。
(左図参考)

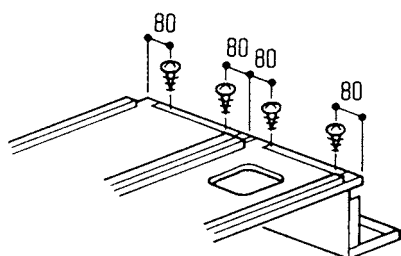
断面詳細図は次ページ（P.67）に記載。

段付天井組立て③

L型天井と平天井両者の小口が一致するようにする。

L型天井と平天井接合部に内側からシリコンを塗布する。

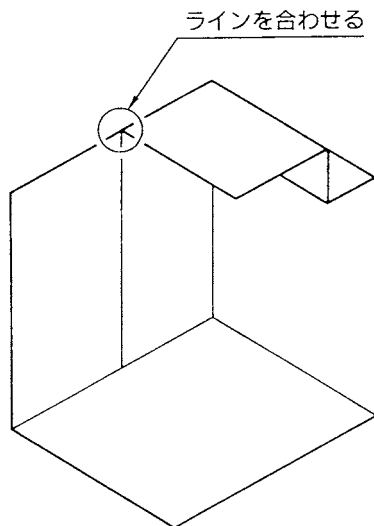
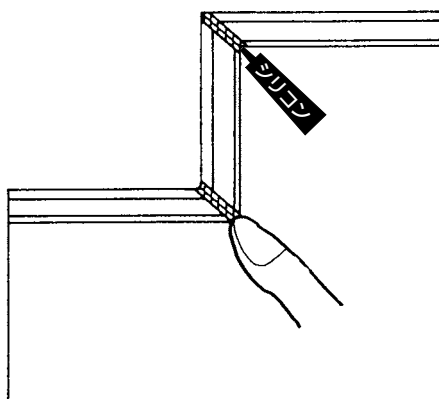
天井パネルと壁パネルをシリコン固定する。(P.49)

■分割天井の場合

一枚天井同様にまずL型天井を取付け、平側（換気扇）天井を取付ける。
段付天井つなぎ材を横からスライドさせるようにはめ込みねじ止めする。

点検口側天井を取付け、段付天井つなぎ材をはめ込みねじ止めする。

段付天井つなぎ材と天井の間にすき間がないようにはめ込む。

※分割天井取付方法はP.51を参照。

天井パネルと壁パネルをシリコン固定する。(P.53)

段付天井組立て④

分割天井の短辺梁カットで天井分割線と壁分割線やタイル目地が一致する場合は、天井分割線を壁分割線（タイル目地）に合わせることを優先する。

天井目地取付後、四隅及び斜線部にシリコンを充てんする。

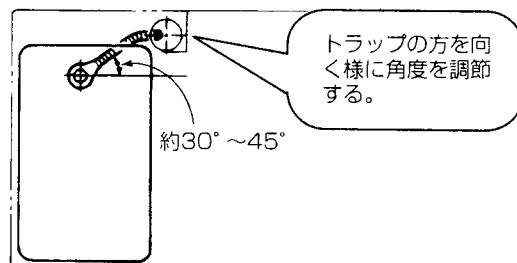
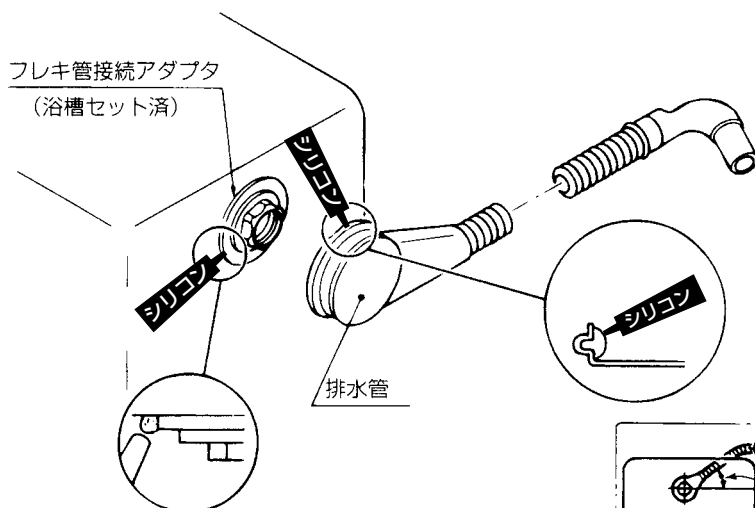
シリコンを指などで天井目地の形状に整える。

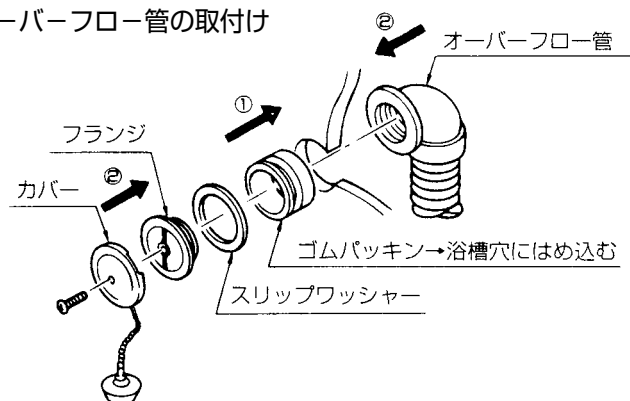
7　浴槽の据付け

排水管類取付け

■和風タイプの場合

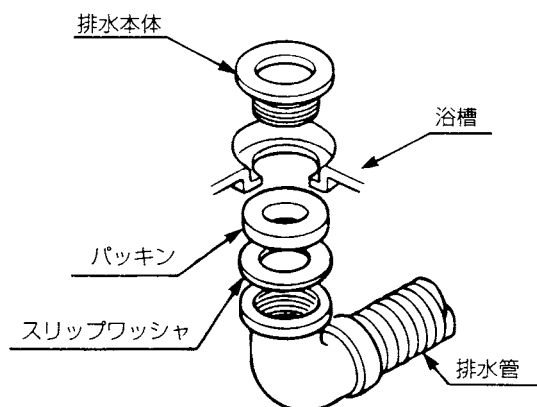
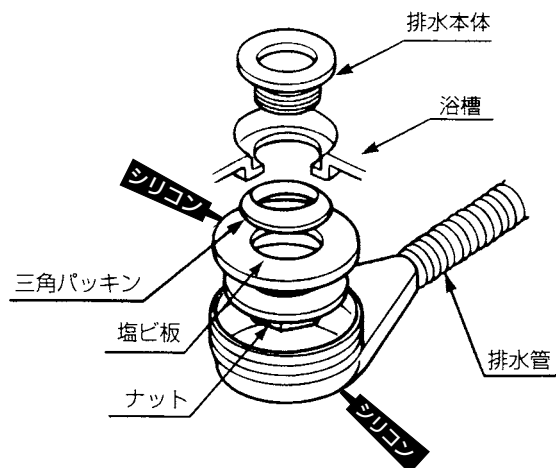
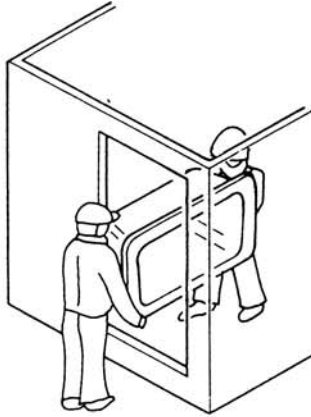
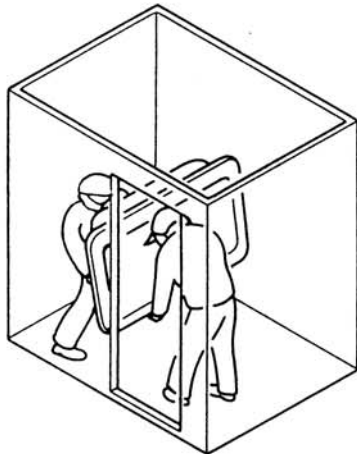
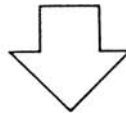
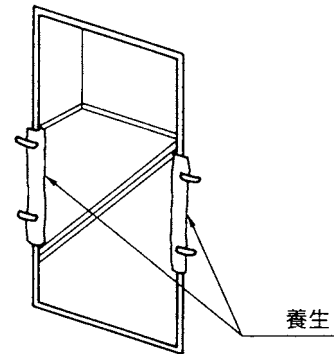
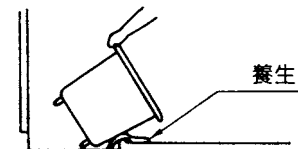
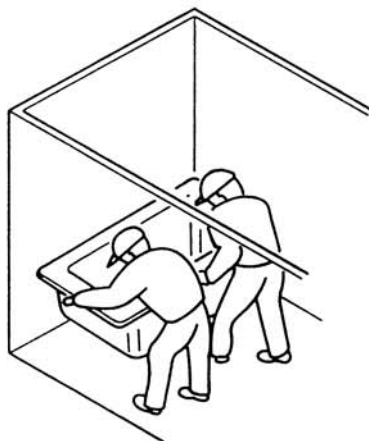
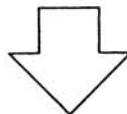
トラップの方を向く様に角度を調節する。

約30°～45°

■洋風タイプの場合

オーバーフロー管の取付け

※洋風ネオエクセレントバス
　ゴムパッキン形状について

『ウエ』と刻印がある側を上にして浴槽裏側にくるようにセットする

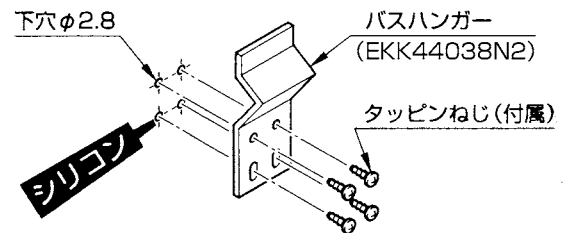
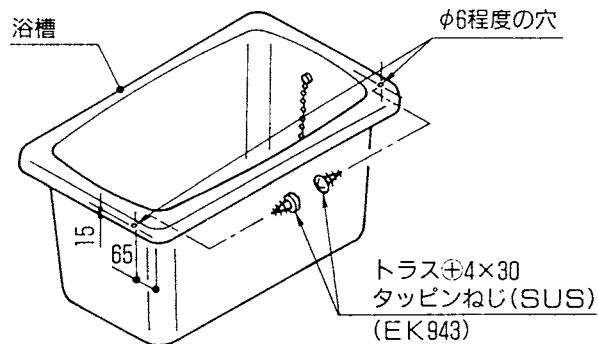
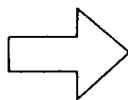
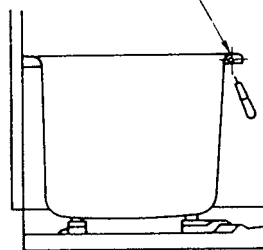
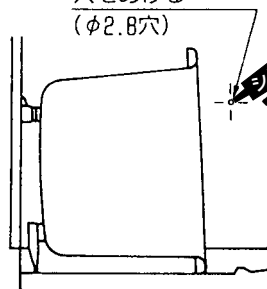
排水管の取付け

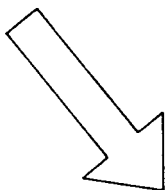
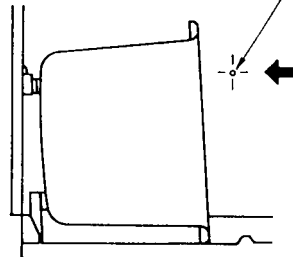
1600サイズ浴槽の場合（大流量）

1400サイズ以下浴槽の場合

浴槽搬入

浴槽でかくれる箇所にシリコンを充てんする。

浴槽搬入時に傷を付けないよう、ドア枠には十分養生を行う。（特にいものホーローバスの場合）

段ボールなどで土手を養生すること。

※段ボールなどで土手を養生すること。

浴槽据付け①

1	FRPバス

1.浴槽の固定（バスハンガー取付・浴槽固定用ねじ取付）

■バスハンガー取付位置は施工図面集参照のこと

HQパネルの場合

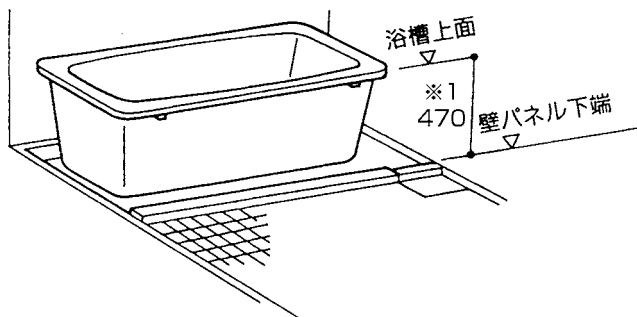
壁にφ2.8の下穴をあけ、シリコンを充てんする。

タイル壁の場合

壁にφ6穴をあけシリコンを充てんし、ヒルティーアンカーを打込み、更にシリコンを充てんする。

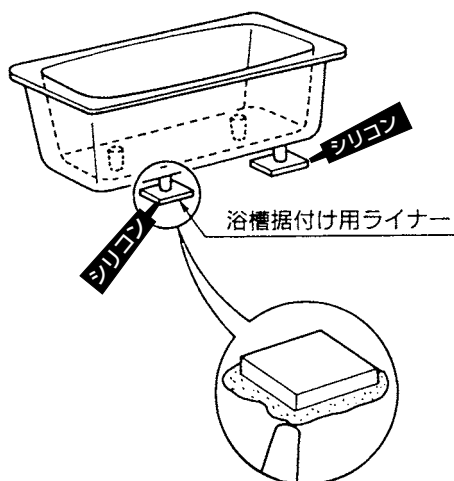
- リム面のレベルは水平であること
- 浴槽脚部と底面にすき間のないこと
- がたつきのないこと

浴槽据付②

2	ネオマーブバス・洋風ネオエクセレントバス

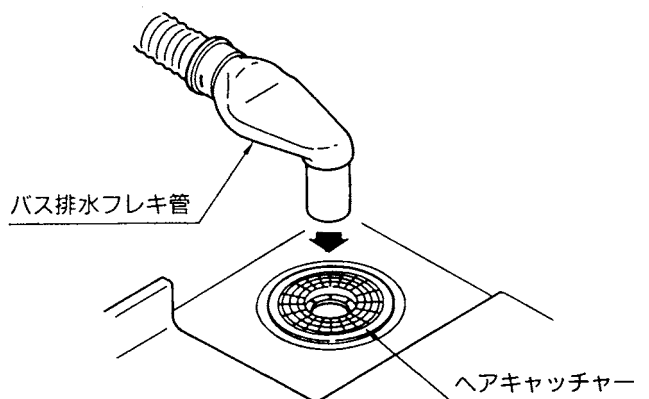
1.浴槽据付ライナーの取付け・据付高さ・ガタの調整

※1：洋風1620以上はH=455

浴槽の脚部に浴槽据付ライナーを数枚入れ、壁パネル下端と浴槽上面のレベルを調整し、がたつきのないようにする。

注）ネオマーブバスはFRPバス同様にバスハンガーを使用してください。
(P.71参照)

浴槽据付ライナーは奥の脚より決め手前で調整する。
ライナーはシリコンで固定する。

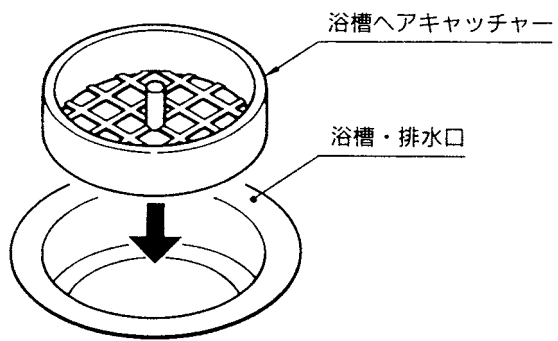
- リム面のレベルは水平であること
- 浴槽脚部と底面にすき間のないこと
- がたつきのないこと

3	各浴槽共通

1.バス排水フレキ管差込み［Aタイプ（洗面器無）は除く］

バス排水フレキ管先端部をヘアキャッチャーへしっかり差込む。

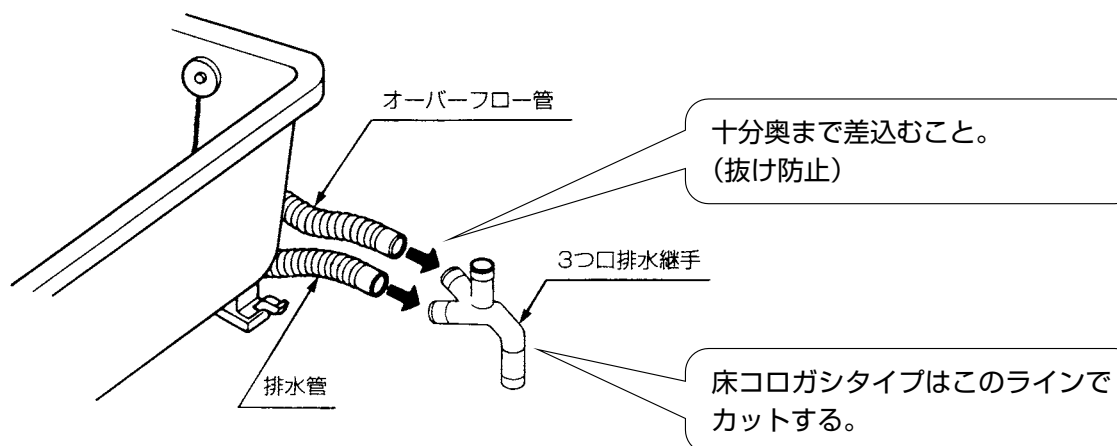
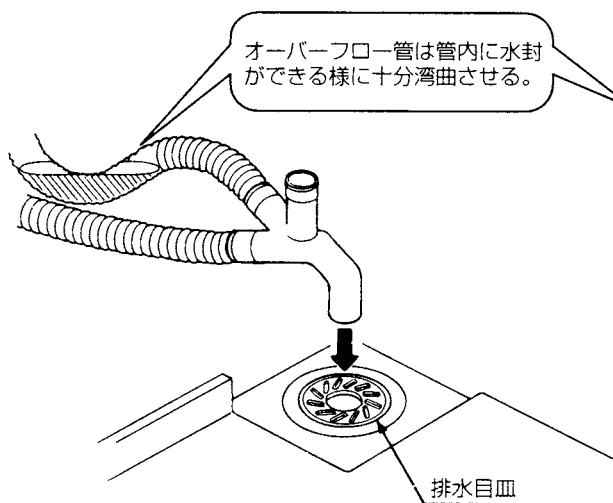
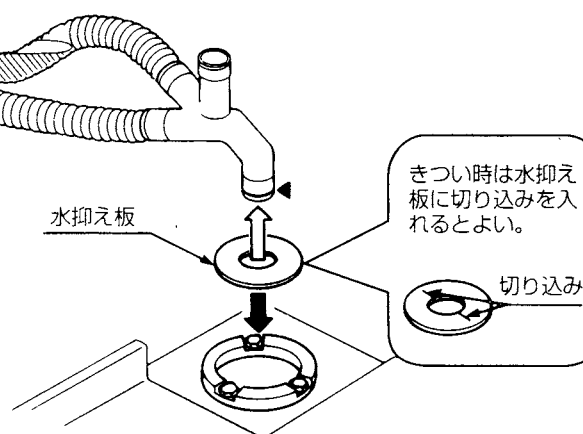
トラップカバーを取付けたときに浮きなどがないか確認すること。

浴槽据付③

4	浴槽排水目皿

ゴム栓とともに袋詰めされている浴槽ヘアキャッチャーを浴槽排水口にセットする。

浴槽ヘアキャッチャーはつまみがある方を上にしてセットすること。

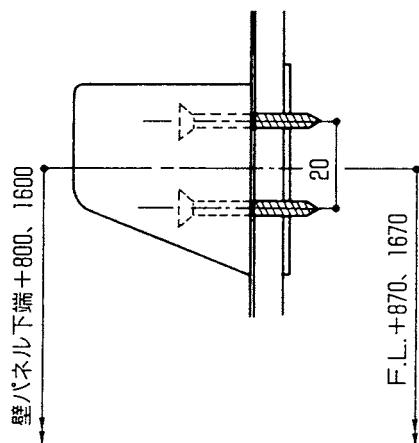
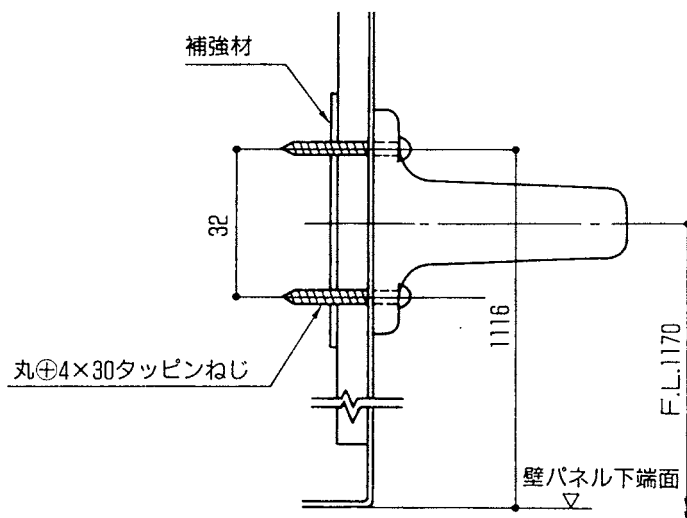
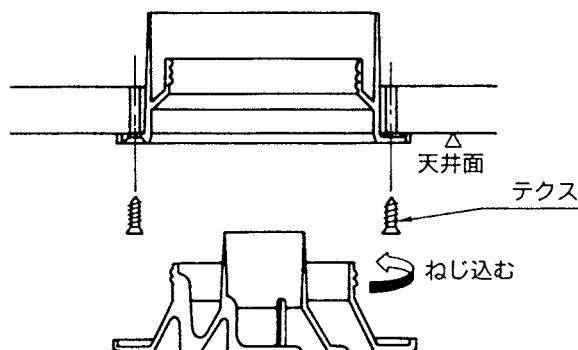
浴槽据付④

■洋風タイプの場合

8 各種器具取付け

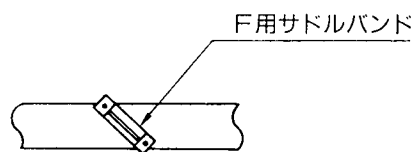
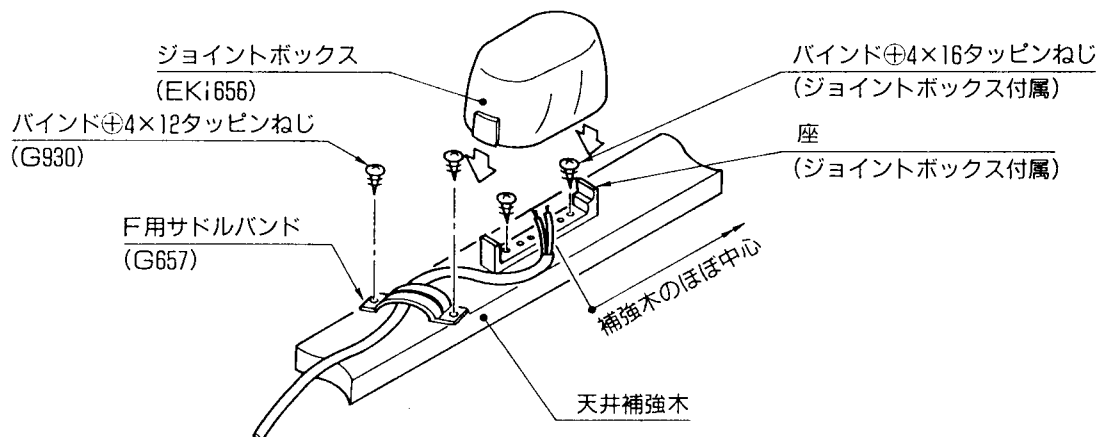
器具取付け①

①HQP塩ビ鋼板壁の場合の器具取付用下穴径はφ2.8。（テクスねじの場合は不要）
　タイル壁の場合は下穴φ6+ヒルティアンカー
②器具取付下穴にシリコンを充てんする。
③各種器具とも取付高さ、位置、水平の確認はねじ固定の前後に必ず行うこと。
④取付けがたがないようにねじは確実に最後まで締付けること。
⑤傾きがないように取付けること。
⑥取付部が樹脂の場合は、締付けすぎによる破損に注意すること。

主な器具の取付例　　㊟ ユニットバスのタイプや器具品番によっては、取付位置やピッチが異なります。
各器具取付位置は、施工図面集を参照のこと。

■シャワーハンガー

■タオル掛け

■換気グリル

取付位置	±2mm
水平	水平のこと
がた	がたつきのないこと

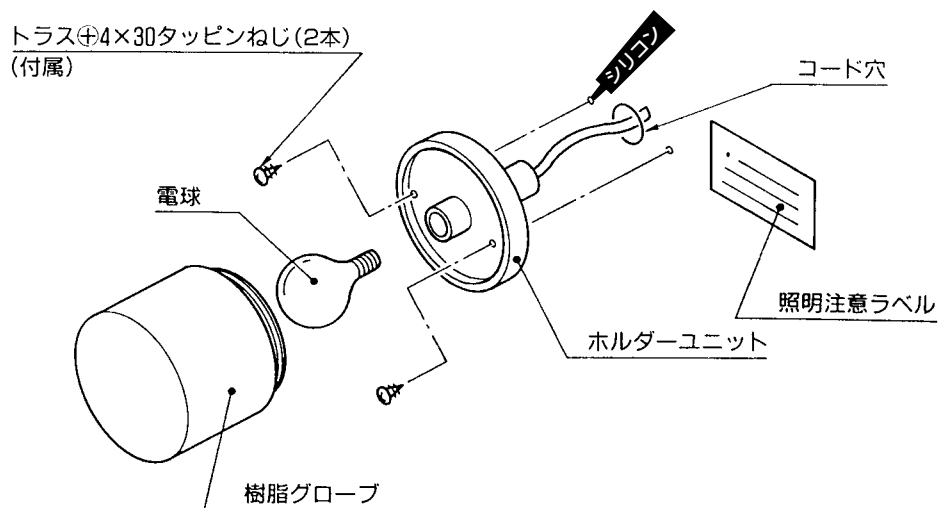
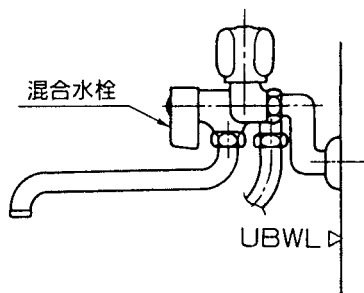
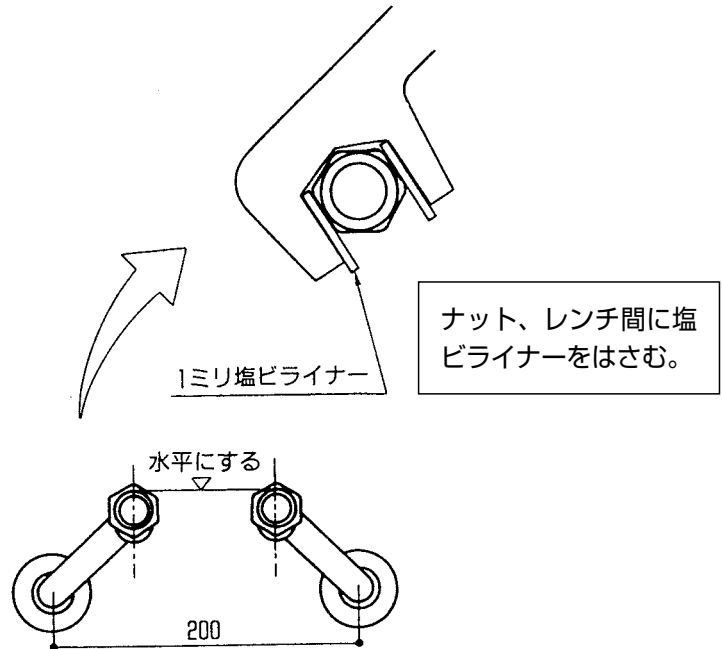
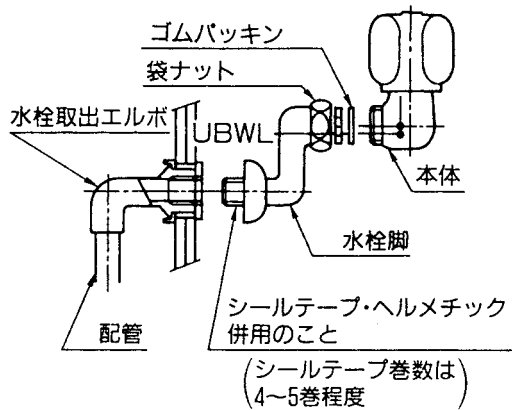
器具取付け②

■ジョイントボックス

F用サドルバンドの取付けは天井補強木に対し斜めにねじ止めのこと。

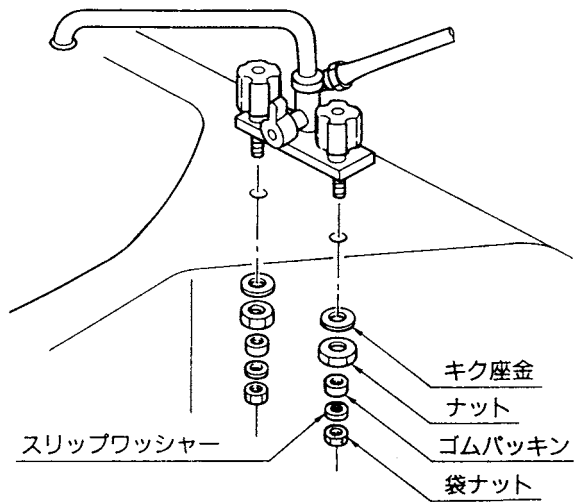
■照明

器具取付け③

■壁付水栓

ナット、レンチ間に塩ビライナーをはさむ。

①各水栓とも取付高さ、位置、水平の確認は固定前後必ず行うこと。
②取付けがたがないように水栓取出エルボ用フランジは確実に締付けのこと。
③傾きがないように取付けのこと。

器具取付け④

■デッキ水栓付

①水栓本体を床パンの取付穴に入れる。
②キグ座金を介し、ナットで水栓本体を固定する。
③ゴムパッキン、スリップワッシャー、袋ナット
　を本体脚部へセットする。

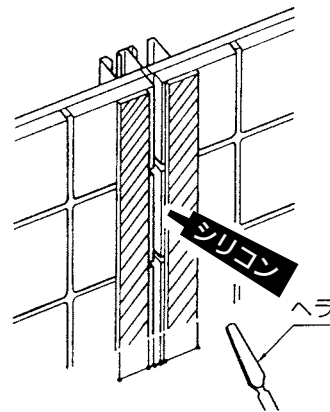
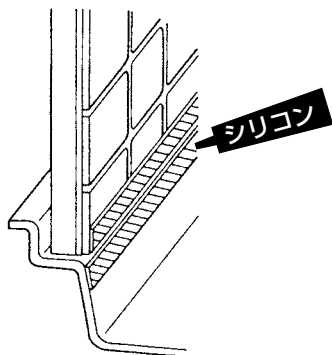
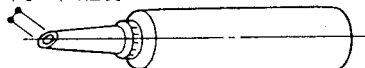
ガタが無いこと。

9 仕上げシリコンコーキング

シリコンコーキング

(1)仕上げコーキングは
①壁
②床廻り
③天井目地突合わせ部
④浴槽・カウンター廻り

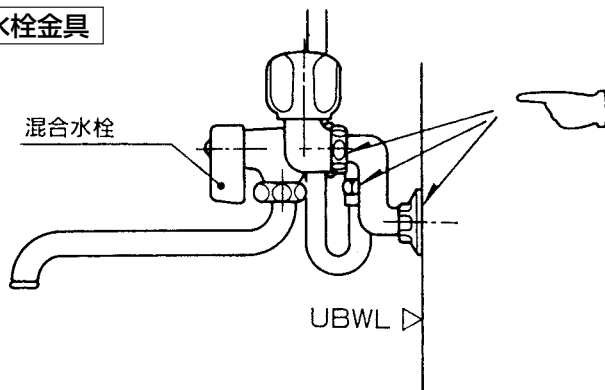
(2)施工手順
① コーキング箇所にマスキングテープを貼る
[床] 壁の角より貼り、床はR部より貼り付ける

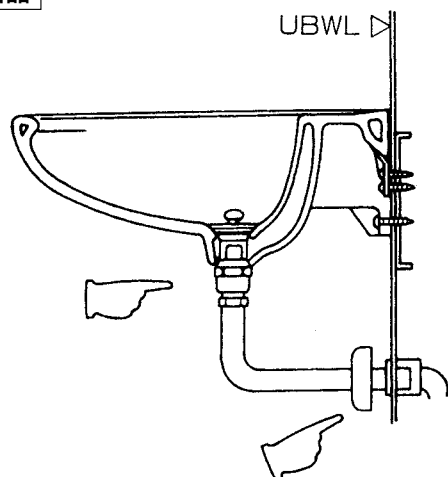
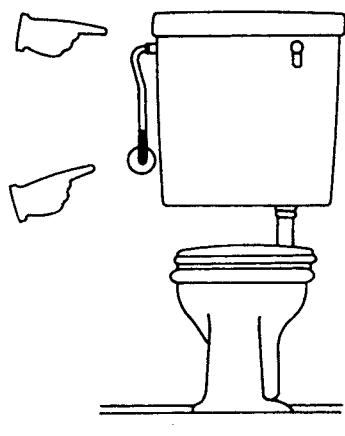
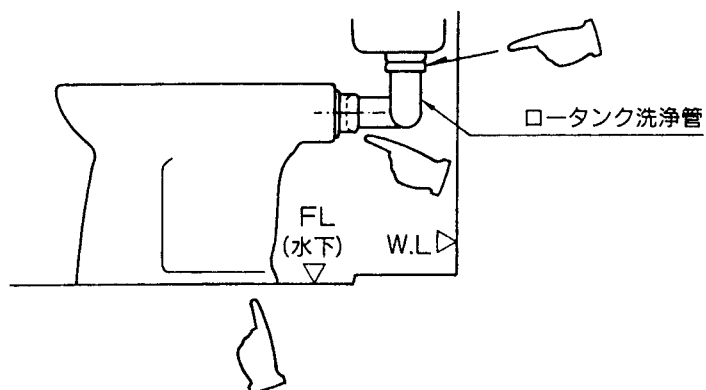
[壁] タイル壁の角より1mm程度離して貼る。

②コーキング箇所の目地に合わせてシリコンのノズルの先を斜めにカッターでカットする。

③シリコンが切れないよう充てんする。
④壁パネル目地の形となるようにヘラなどで十分押えながら仕上げる。
床廻りと天井目地突合わせ部は指で行う方がよい。
⑤マスキングテープを貼る。

シリコン切れのないこと
シリコンのはみ出しのないこと
凹凸のないこと

10 通水試験

漏水チェック

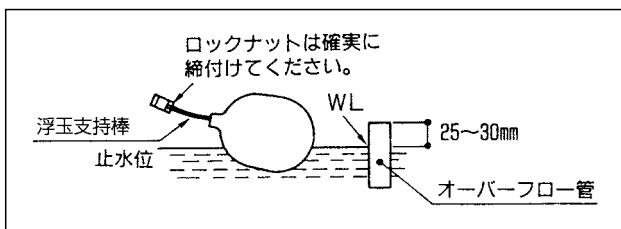
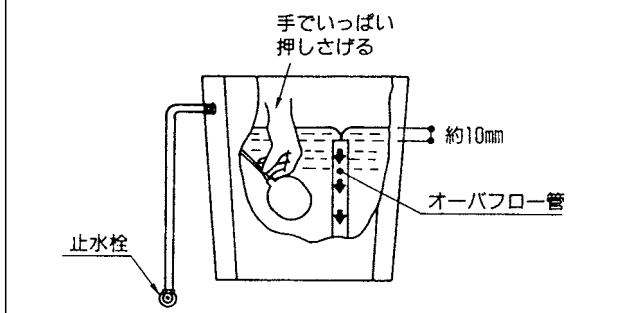
水栓金具

通水して器具接続部分の漏水の有無を確認する。

洗面器

腰掛便器とロータンク

水を流して給水管・洗浄管及び排水接続管を点検する。

調整①

1.水量調整
ロータンク金具の調整

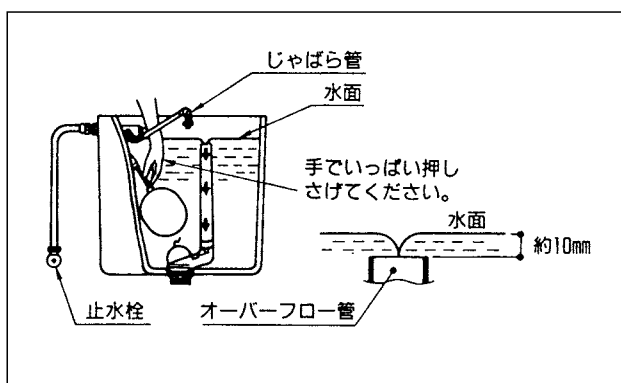
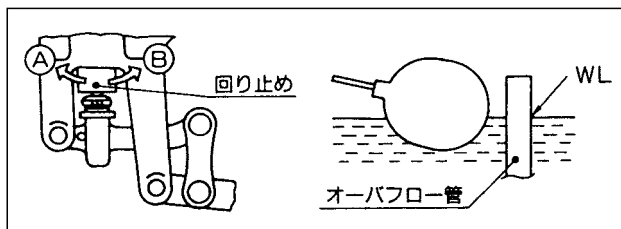
(1)一般

水位の調節

タンクの止水栓を図の寸法になるように浮玉支持棒の中央部を曲げて調節してください。オーバーフロー管にWL（標準水位）の表示があるちきはWLに合わせてください。

止水栓の調節

(2)消音型

水位の調節

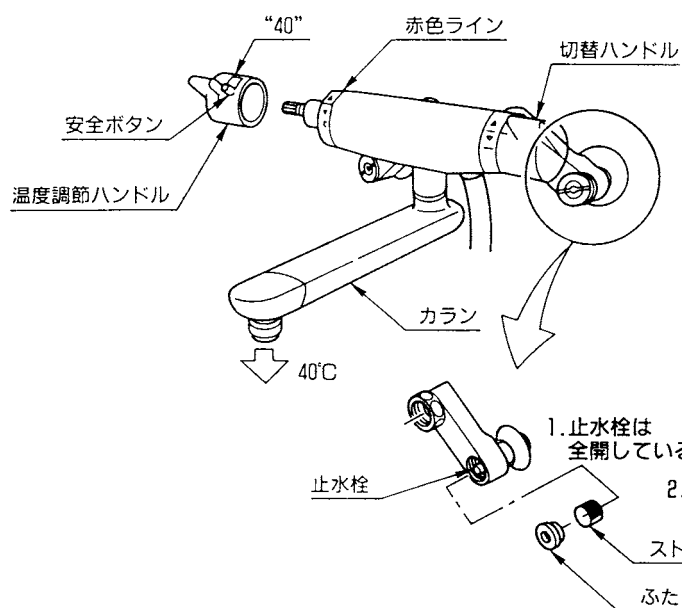
タンクの水位をオーバーフロー管のWL（標準位置）に合うように次の要領で調節してください。

1.回り止めを引き上げて回すと止水栓を上下させることができます。そのとき、浮玉を軽く手で押えておくとスムーズに回ります。90°回すと約8mm水位がかわります。
2.水位が低いときは Ⓐの方向に回してください。
3.水位が高いときは Ⓑの方向に回してください。
4.調節が終わったら回り止めを引き下げて確実にロックしてください。

取付け完了後の確認

取付完了後は、2〜3度操作して正常に作動するか確認してください。

調整②

2.温度調節
シャワー金具の調整

● サーモスタット式

①カランより吐水させて温度調節ハンドルの目盛に関係なく吐水温度が40℃になるよう温度調節ハンドルを回す。

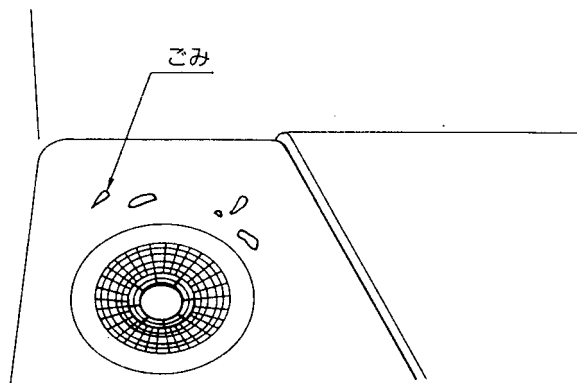
②その位置でハンドルが回らないように温度調節ハンドルを抜き取る。

③目盛の"40"の文字と赤色ラインを合わせ、温度調節ハンドルを"カチッ"と音がするまで押込む。

11 清掃・仕上げ

清掃・仕上げ①

清掃仕上げは通水、通電など現場の仕上げ状況を確認、打合せの上行うこと。
各部の清掃と合わせて床、壁、天井、建具などの損傷の有無も点検すること。

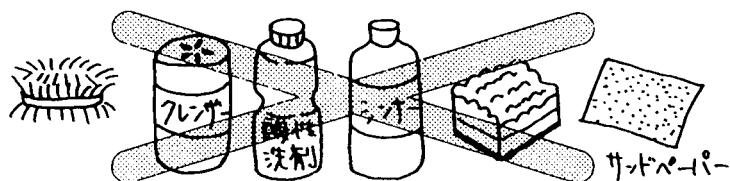
1.排水トラップや便器の内部はゴミがたまりやすいので入念に清掃を行う。
（金属粉が残留していると、もらいさびの発生などトラブルの原因となる。）

2.床パン、浴槽部は水洗いすること。（シリコン硬化後）

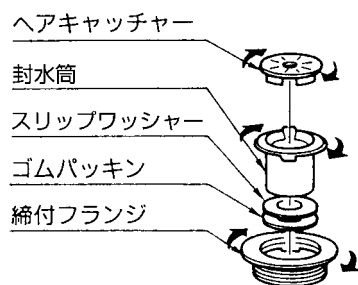
3.壁、天井部は隅々まで布ぶきすること。

4.水洗い時に器具類にかかった水滴はきれいに拭き取ること。

5.洗面器などの底面の水滴もきれいに拭き取ること。

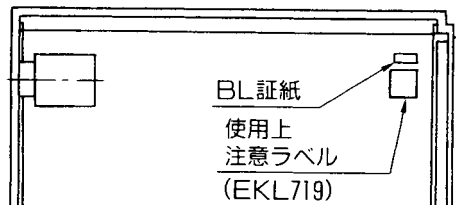
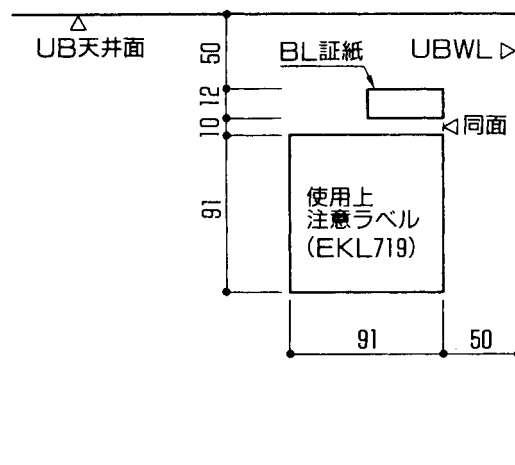
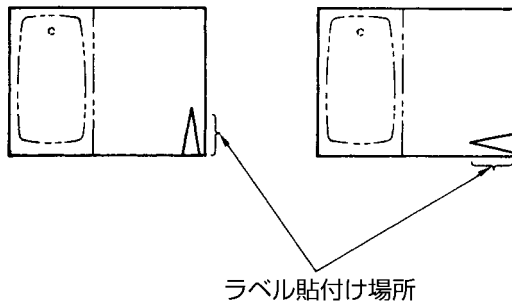
汚れはやわらかい布またはスポンジに市販の中性洗剤をつけて洗い落とし、がんこな汚れはアルコールで拭き取る。

（注意）
「強酸」「強アルカリ性」「酸性」「弱酸性」「アルカリ性」の表示の洗剤、薬品（塩酸）、シンナー、アセトンなどの溶液・クレンザー・みがき粉・ナイロンたわし、サンドペーパーなどは使用しないこと。

清掃・仕上げ②

清掃後、目皿の着脱可能を確認してください。

■各種ラベル貼付け

各種ラベルの裏に貼付位置が記載されております。
記載内容を確認の上、貼付けください。

BL品ラベル貼付け①

BL証紙・使用上注意ラベル

ドア枠と接するコーナー部の壁パネル（ドア側上部）に、斜めにならないように貼付ける。

BLタイプは貼付ける位置が決められているため、左図寸法通りの位置に貼付けること。

BL品ラベル貼付け②

浴槽注意ラベル・器具取付け注意ラベル

左図A･Bの2ケ所に器具取付け注意ラベル(EC992)を、C部に浴槽注意ラベル（EKL979またはEKL980）を貼付ける。

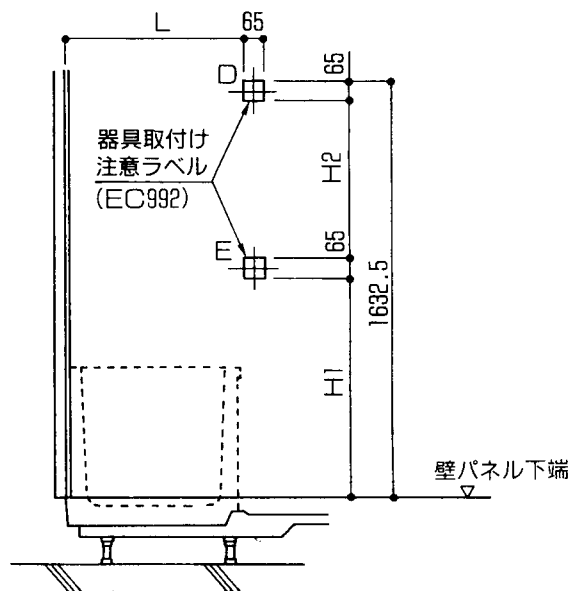
JXタイプで浴槽が別途工事の場合のみ貼付けること。
浴槽注意ラベルは1117サイズ以外はEKL979、1117サイズはEKL980を貼付けること。

器具取付けラベルは、下記理由のため必ず左図寸法通りの位置に貼付けること。

①他業者が器具取付け時に困る。
②取付けが補強からずれた場合、脱落の原因になる。

BLタイプは貼付け位置が決められているため、左図寸法通りの位置に貼付けること。

BL品ラベル貼付け③

シャワーハンガー取付用ラベル

左図D･Eの２ケ所に器具取付け注意ラベル（EC992）を貼付ける。

JXタイプでシャワー水栓取付けが別途工事の場合のみ貼付けること。
器具取付けラベルは、下記理由のため必ず左図寸法通りの位置に貼付けること。

①他業者が器具取付け時に困る。
②取付けが補強からずれた場合、脱落の原因になる。

〈JXタイプの場合〉

寸法 / ドア勝手	L	H_1	H_2
R1・R2	942.5	767.5	735
R3・R4	617.5	867.5	635

㊟ 表の寸法はRタイプを示す。
Lタイプは図の逆勝手。

タイプ、ドアバリエーションにより貼付け位置が異なるため注意すること。

12 自主検査

自主検査

①「施工完了報告書」に従い、自主検査を行う。
・現場貼付用については、自主検査後ドア養生シート上に貼付けてください。

建築業者様へ

TOTOユニットバスルーム施工完了報告書

施工完了日:　　年　　月　　日

施工店名:　　　　施工者名:

現場名	工事No	整理No

検査結果　合否判定

		検査項目	対象外	検査結果
品質検査	防水	水栓金具と内部配管接続部の袋ナットのゆるみ及び締め過ぎがないこと		合格・不合格
		床・壁パネル接合部のコーキングの切れがないこと		合格・不合格
	機能	ドアの開閉にこすれがないこと		合格・不合格
		ドアのラッチ調整の実施		合格・不合格
	固定	床支持ボルトの固定又は床パンと架台及び架台のねじ固定して床鳴りがないこと		合格・不合格
		浴槽の固定		合格・不合格
		鏡の固定		合格・不合格
		器具・アクセサリーの固定		合格・不合格
		給水・給湯・排水管の支持固定		合格・不合格
	外観	床・壁・天井・ドア・器具のキズ・へこみ・ひび割れがないこと		合格・不合格
	その他	取扱説明書が所定の位置にあること		合格・不合格

下記工事がまだ残っておりますので、ご報告致します。

	内部器具付		機能部取付
	造作工事		試運転
	バスエプロン取付		コーキング
	窓フリー枠取付		清掃
	換気扇取付		その他(　　　)

残りの工事は　　月　　日頃予定しております。

工事日に関しまして、下記連絡先まで事前にご連絡をお願い致します。

建築・設備業者様への連絡事項	連絡先
※浴室の壁、床に配管・配線を通す場合は、貫通部の防水処理を必ずお願いします。	会社名: 氏名: TEL:

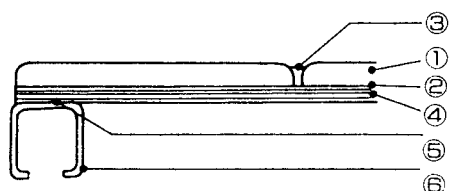
このユニットバスルームは、施工・検査・清掃を完了しております。
土足での立入りはご遠慮願います。
また、工具・材料等は置かないでください。
お気付きの点がございましたら、ご連絡願います。

現場貼付用

②「施工店ラベル」に必要事項記入の上、天井点検口裏に貼付ける。

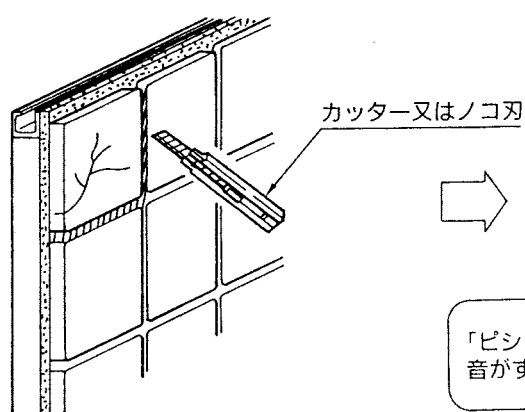
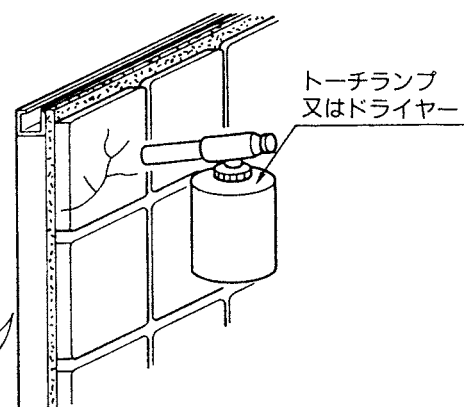
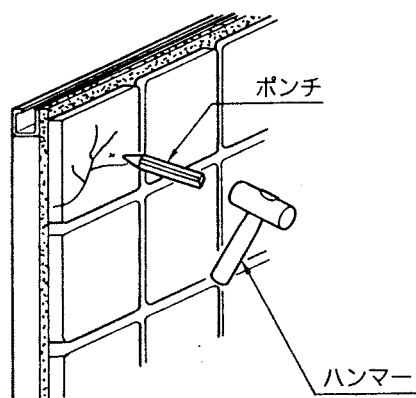
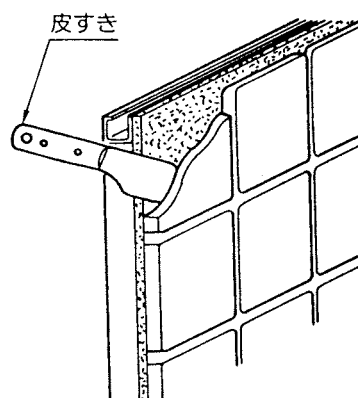
13 補修要領

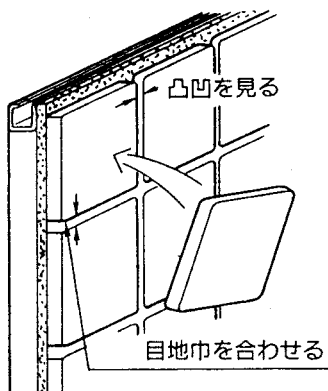
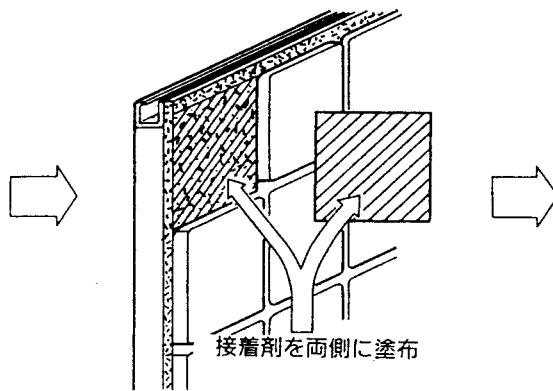
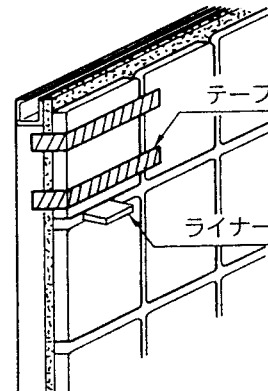
UB壁のタイル補修要領①

〈タイルパネルの構造〉

No.	名　　称	材質・仕様
①	タイル	陶器質施釉内装タイル せっ器質施釉内装タイル
②	接着剤（A）	エポキシ樹脂系
③	目地※1	ハイドロテクト目地クリアキープ
④	基板	特殊石綿セメント板…厚み3.0mm
⑤	接着剤（B）	ウレタン系、アクリル系
⑥	フレーム	亜鉛めっき鋼板…厚み1.0mm

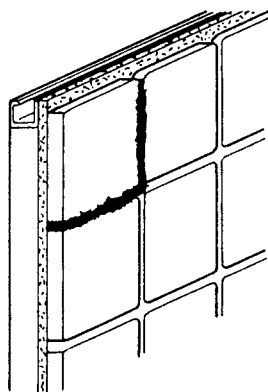
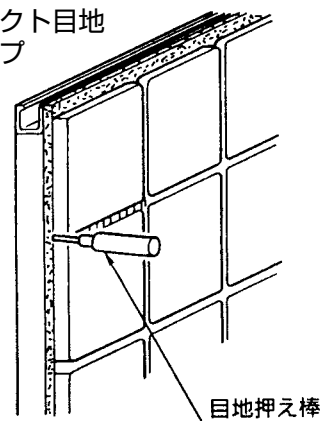
※1

品　番	重　量	使用目安
AFDE001	1kg	□100×20枚分
AFDE002	2kg	□100×50枚分

〈タイル補修手順とポイント〉

①破損タイル部の目地とり

②加熱

③タイルを割る

④タイル及び接着材をはがし取る。

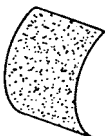
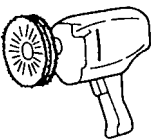
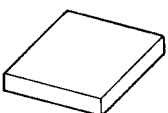
UB壁のタイル補修要領②

⑤タイルの仮合せ　⑥タイルの貼付け　⑦養生

（ポイント 1）

タイル接着には、クイックメンダーを使用する。
◎シリコンによる接着は、単独で1枚の場合とし、連続2枚以上は行わない。
◎養生時間がシリコン6時間に対して、クイックメンダーは15分。

⑧目地入れ　⑨仕上げ

（ポイント 2）

目地入れは、必ずハイドロテクト目地クリアキープで行う。
◎シリコンは使わない。

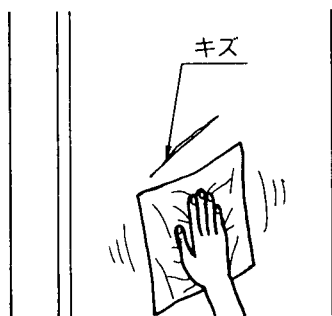
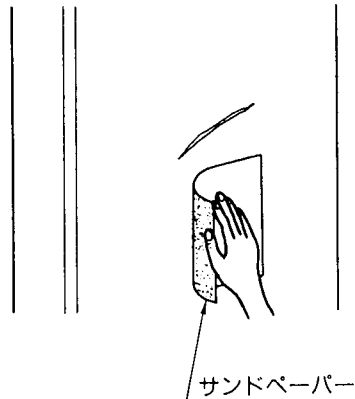
HQパネル平滑品補修要領①

鋼板のエッジやドライバーの刃先などのキズの補修について。

1.補修の目安
・浴槽裏、カウンター下などの目立ちにくい場所の傷は、従来の塩ビ鋼板補修液を塗る。
・目立ちやすい場所で、鋼板が露出している場合は、パネルを取替える。
・目立ちやすい場所で、鋼板が露出していない傷は、下記の要領で補修を行う。
・スリ傷のように表面にごく浅くついた傷のように、へこみ部分を埋める必要がないものは、2(2)④⑤の作業のみ

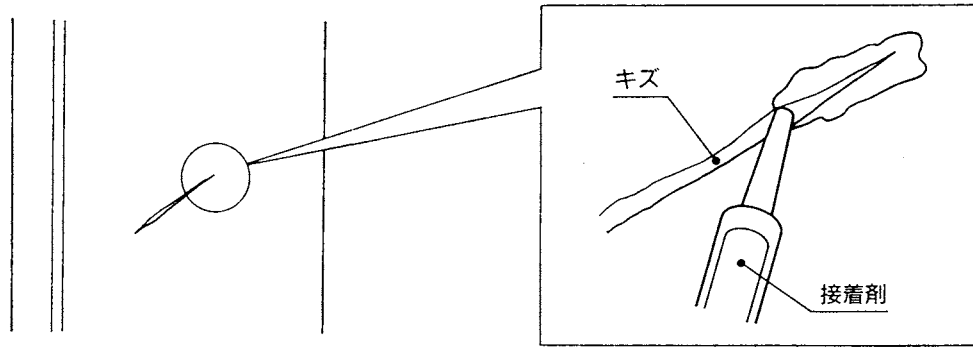
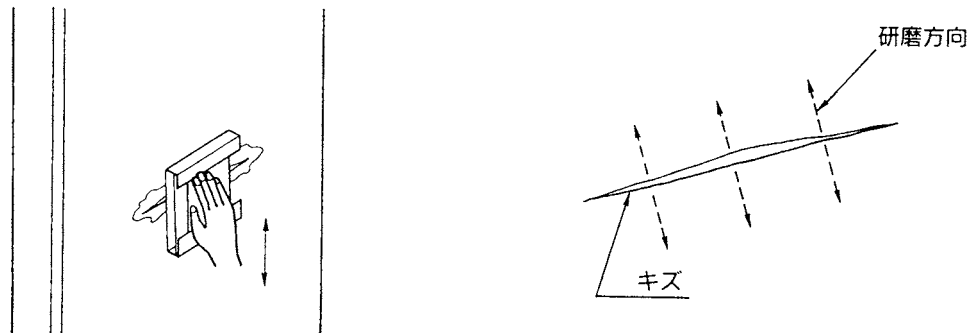
2.補修要領
(1)準備するもの

シアノアクリレート系接着剤 (例：アロンアルファー般用)	サンドペーパー （＃2000）	バフ掛け装置 （コットンバフ・電動工具）	コンパウンド	30角程度の平滑な板
アロンアルファ			コンパウンド	

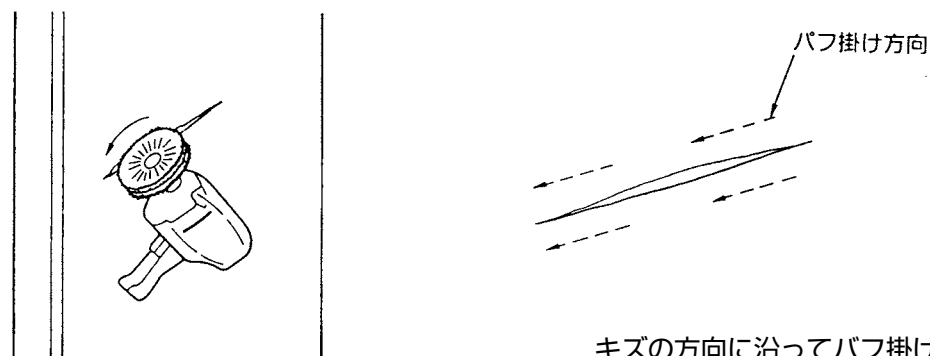
(2)補修要領

①キズ口のドロや油などの汚れと水分を拭き取る。　[図1]
②キズ周囲のバリなどをサンドペーパーで研磨する。[図2]

[図1]　[図2]

HQパネル平滑品補修要領②

③キズ口に沿って、接着材を少量ずつ注入する。
（注入しすぎると硬化に時間がかかる。また研磨作業も大変。）

④接着材は、5～10分程で固まるので、その後サンドペーパーを平滑な板に巻きつけ、接着材の突起がほとんどなくなるまで、研磨する。

※水をたらし、研磨すると滑らかな仕上がりとなる。

キズに対して垂直方向に研磨する。

⑤バフにコンパウンドをつけてバフ掛けを行う。完全にはまわりと同じ艶にはならないので、徐々にまわりをぼかすようにする。

キズの方向に沿ってバフ掛けする。

マーブライトカウンター補修要領①

〈補修材について〉

1.内容

名　　称	単　位	数　量
ゲルコート樹脂	30g／本	2本
基材樹脂	150g／本	2本
硬化剤	7g／本	1本
サンドペーパー ＃100 ＃500　＃1200		 2枚 各3枚
つや出しワックス		1本
当て木		1個
撹拌棒		4本
マスキングテープ	18m	1巻

※補修材に含まれるそれぞれの樹脂及び薬液の用途は次の通りです。

ゲルコート樹脂　……表面形成に使用する樹脂
基　材　樹　脂　……基材部の埋め及び接着のための樹脂
硬　　化　　剤　……樹脂を硬化させるための薬液
つや出しワックス　……表面の光沢を出すための薬液

2.補修材の調合

硬化剤をチューブより約3cm取出し、樹脂とよく混ぜてください。樹脂は事前に撹拌棒でよく混ぜてください。

3.補修材の硬化

気温により多少硬化時間に差がありますが、次の時間を目安としてください。

樹脂＼気温	10℃	20℃	30℃
ゲルコート樹脂	約240分	約120分	約60分
基材樹脂	約100分	約50分	約20分

硬化時間を短縮されたい場合はドライヤーで加熱（約60℃以下）すると約半分の時間で硬化します。
ただし、ドライヤーをあまり近づけて加温すると変色することがあるため30cm程度離して使用してください。

4.補修材取扱い上の注意

(1)補修材は、火気・直射日光・温度の高い場所をさけ、冷暗所に保管してください。
(2)樹脂は硬化剤を加えると発熱するため、使用後残った樹脂は熱が冷めるまで水につけておき、熱が冷めた後処分してください。
(3)硬化剤は皮膚に付着したままにしておくと炎症を起こすため、付着したときは速やかに水で洗うか、アルコール又はアセトンで拭き取ってください。
(4)補修材は有効期限（3ヶ月）内に使用してください。

マーブライトカウンター補修要領②

〈補修要領〉

補修前

(1)傷の周囲10mm程度をサンドペーパー（#500）で軽くサンディングした後、アルコール又はアセトンで汚れを拭き取ってください。

(2)調合した基材樹脂を撹拌棒でやや盛り上げる程度に埋めてください。

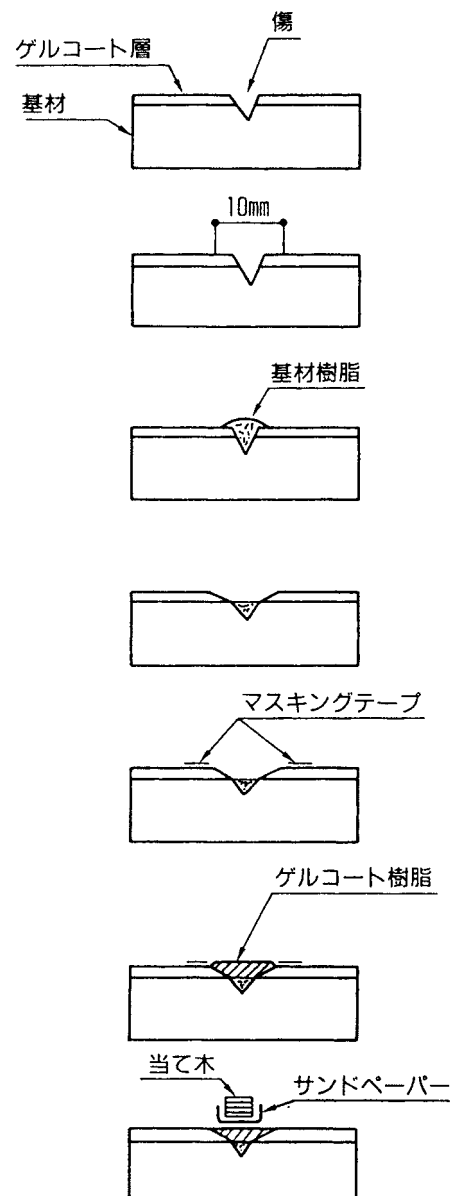
(3)硬化後、ディスクグラインダーで基層まで削りゲルコートにやや傾きをつけてください。

(4)アルコール又はアセトンで汚れを拭き取った後、マスキングテープを周囲に貼ってください。

(5)調合したゲルコート樹脂を撹拌棒でやや盛り上がる程度に埋めてください。

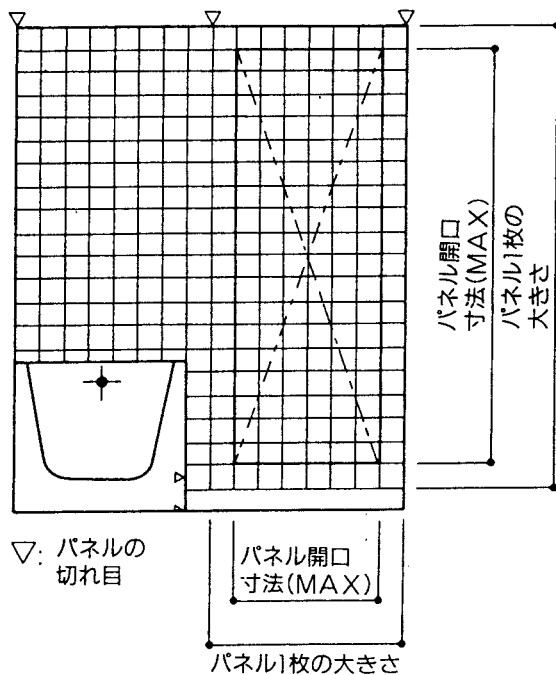
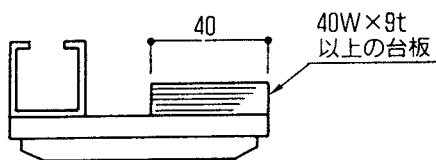
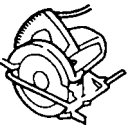
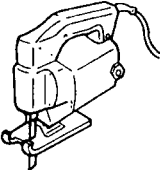
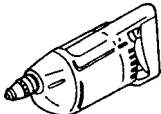
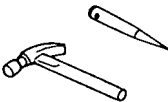
(6)硬化後、サンドペーパーを当て木に巻き水につけ平滑に研磨してください。サンドペーパーは＃500→＃1200の順序で使用してください。

(7)乾いた布につや出しワックスをつけ表面を磨いてください。

傷
ゲルコート層
基材
10mm
基材樹脂
マスキングテープ
ゲルコート樹脂
当て木
サンドペーパー

※深さ2mm程度の浅いキズは(4)からの作業からで補修が可能です。

14 現場開口加工要領

タイル壁窓開口要領①

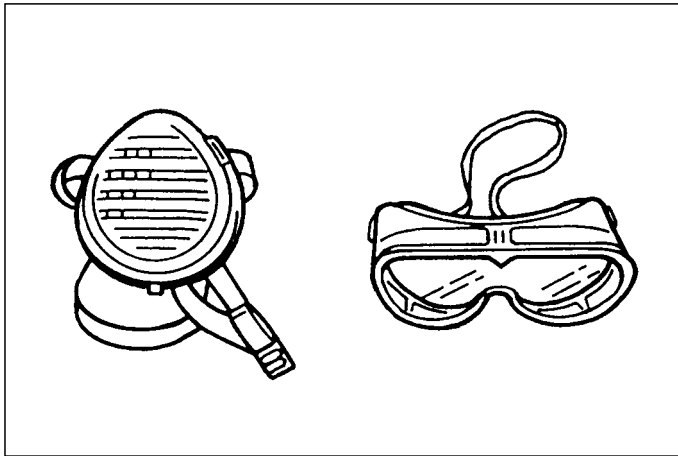
〈開口範囲・裏補強について〉

〈条件〉
1.最大開口範囲：壁パネルの上下左右の端より、各々タイル1枚離れた目地芯での開口を最大寸法とする。

(A－A′断面図)

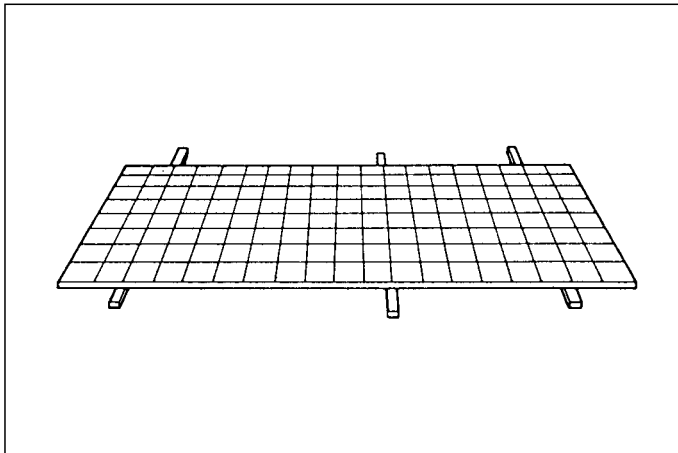
2.補強は、必ず設けること。
40^{W}×9^{t}以上の合板などにて全周補強すること。

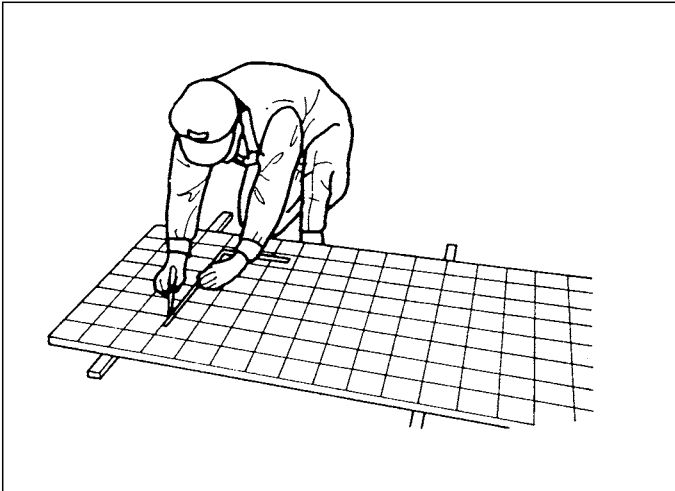
タイル壁窓開口要領②

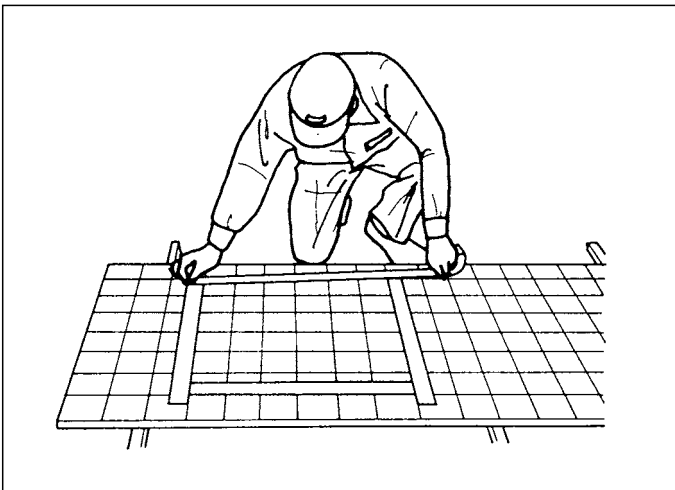
用　意　す　る　も　の

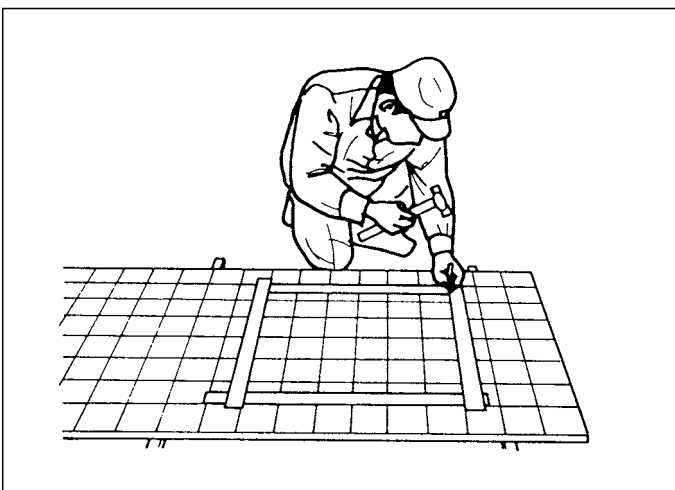
1.ダイヤモンドカッターの刃を使った丸鋸（水処理付）	2.ジグソー（金属用替刃も用意）	金鋸刃（柄付）	3.電動ドリル（超硬きりφ10程度）	4.油性サインペン（細字）
5.スケール	6.養生テープ	7.補修液（EKL967X）	8.はけ	9.ポンチ及び金鎚

■各種ラベル貼付け

※切断時には、必ず着用すること。

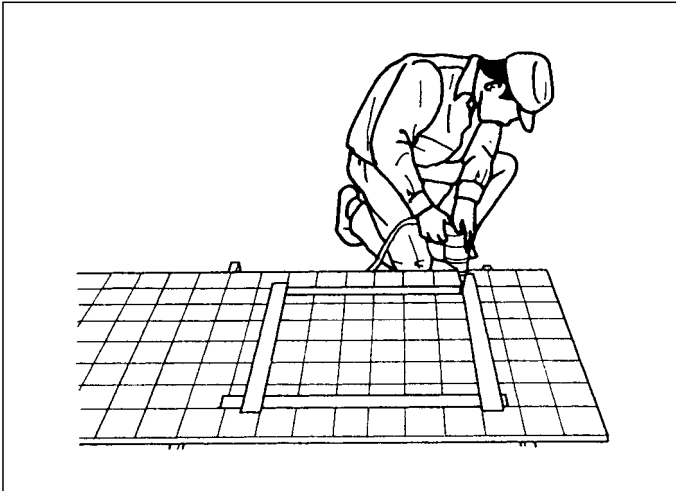
作　業　手　順

開口が1枚のパネルに納まる場合には、組立て前に水平に置いて切断する方が容易です。この時木片などの架台を下に敷くようにすること。

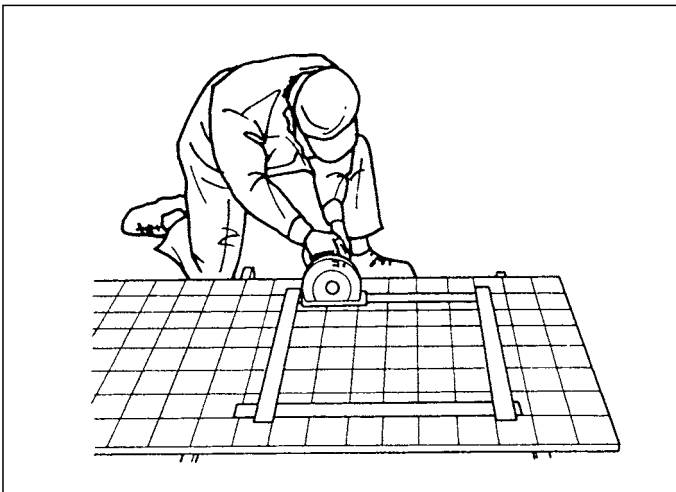
タイル壁窓開口要領③

1.けがき

窓開口寸法に従ってタイル面にけがき線を入れる。

2.養生テープ貼り

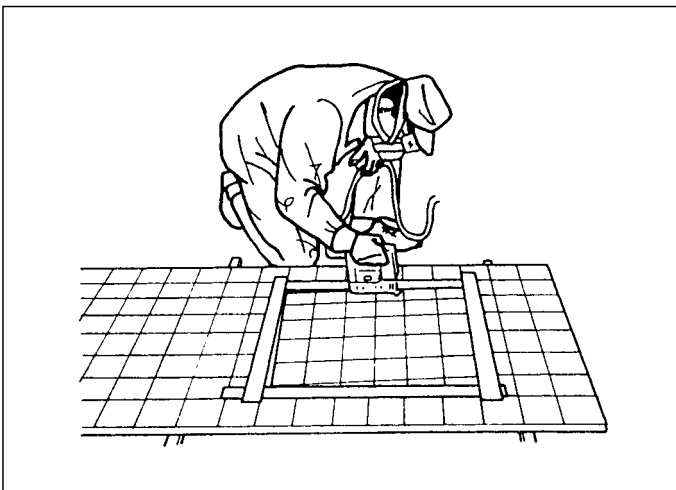
けがき線に合わせて周囲に必ず養生テープを貼る。

3.コーナー部穴あけ

各コーナー部（4ケ所）にポンチなどでキズ穴を付ける。

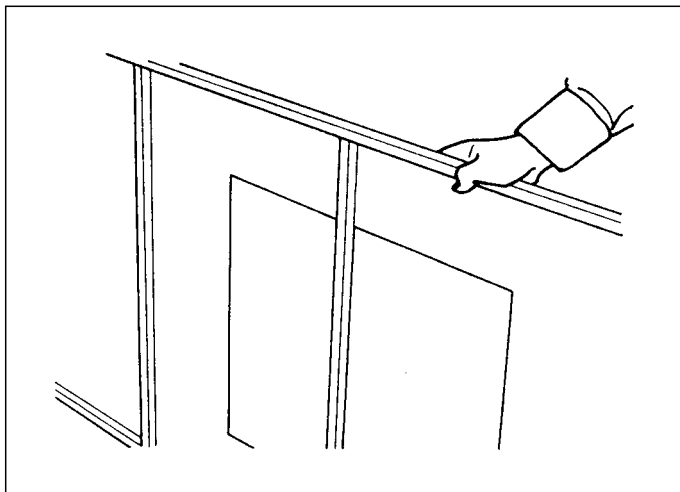
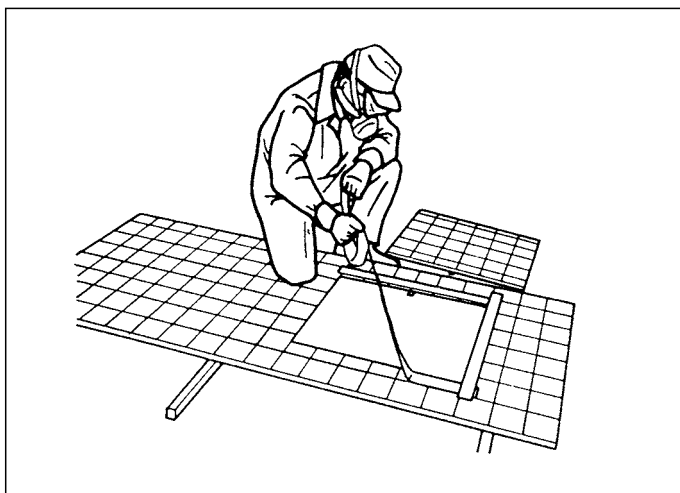
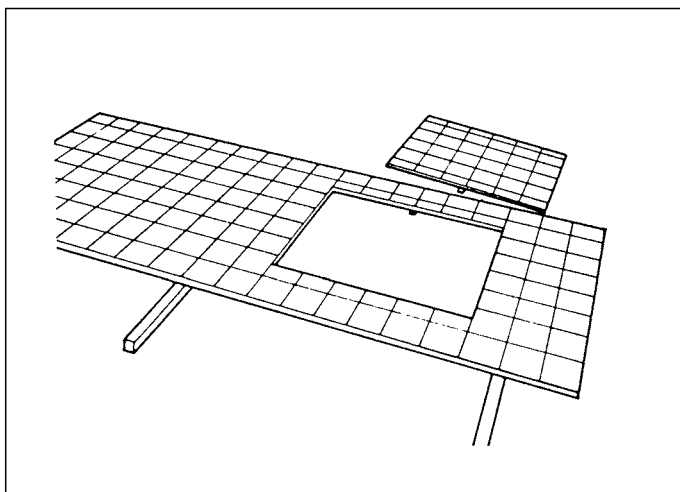
タイル壁窓開口要領④

電動ドリルにてあらかじめ穴をあける。
（φ10程度）

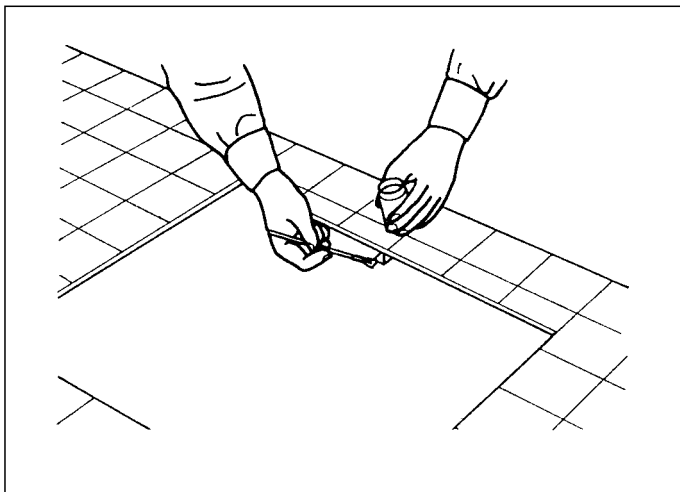
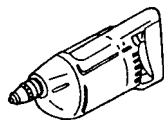
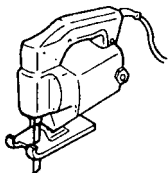
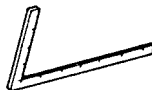
■タイル部分を切欠く場合

4.壁の切断

ダイヤモンドカッターの刃を使った丸鋸使用。

■タイル目地部分を切欠く場合

ジグソー使用。

タイル壁窓開口要領⑤

■窓開口が壁フレーム（鉄骨）にかかる場合

5.フレームの切断
窓開口が壁フレームにかかる場合には、金鋸刃又はジグソー（金属用替刃）使用。

6.養生テープはがし及び切断面の確認
切断が終わったら周囲の養生テープを取除く。

次に、切断面のタイルの欠け、破損などのチェックを行う。
万が一けがき線をオーバーして切断し、枠よりはみ出したり、タイルの破損が発生した場合には、そのタイルをはがし貼りかえること。

タイル壁窓開口要領⑥

7.防錆処理

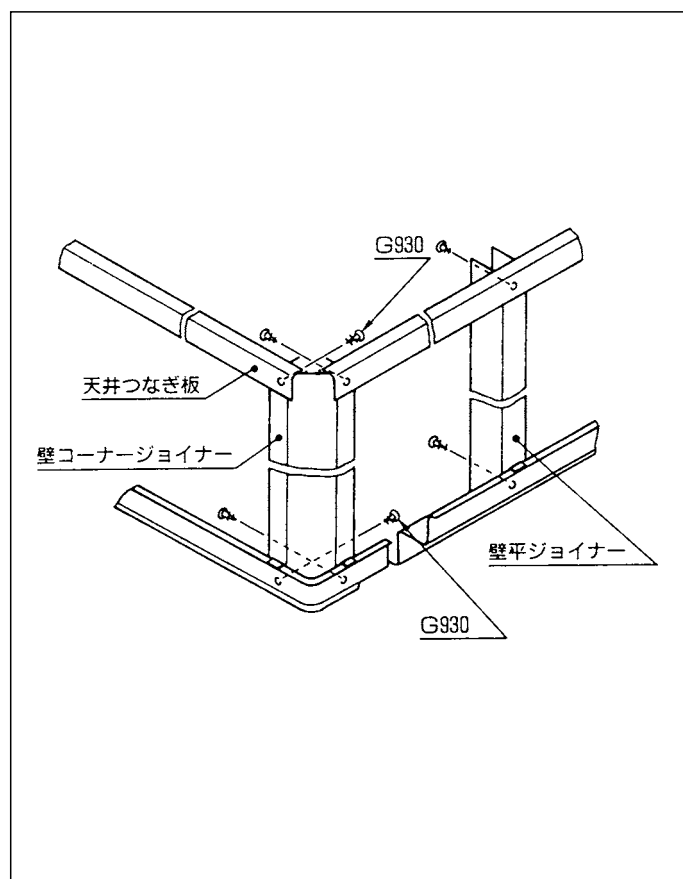
※フレーム接続部の小口には必ず補修液（EKL967X）を塗布すること。

塩ビ鋼板パネル・HQP窓開口要領①

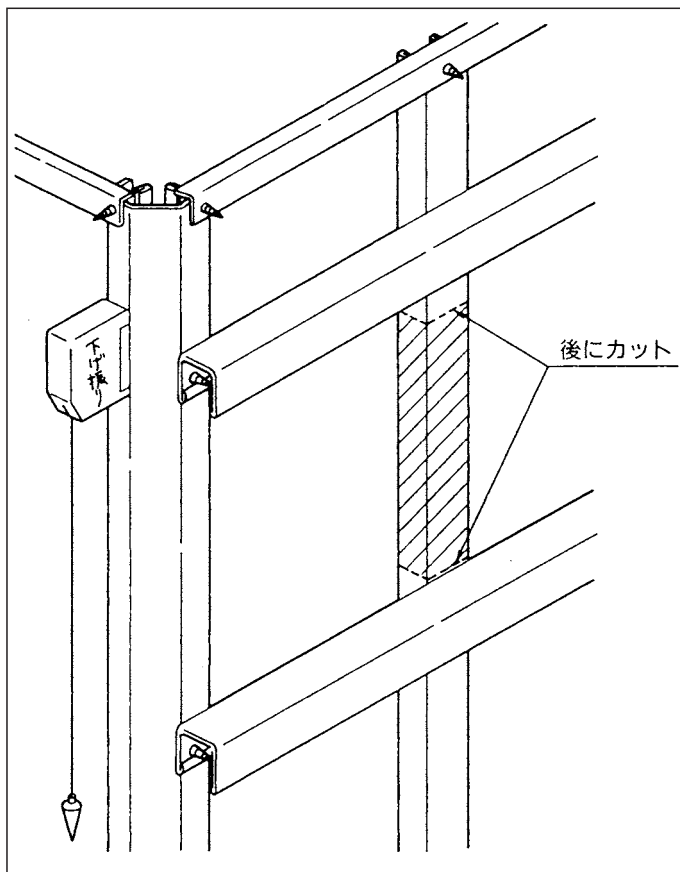
2枚のパネルにまたがる場合

用　意　す　る　も　の

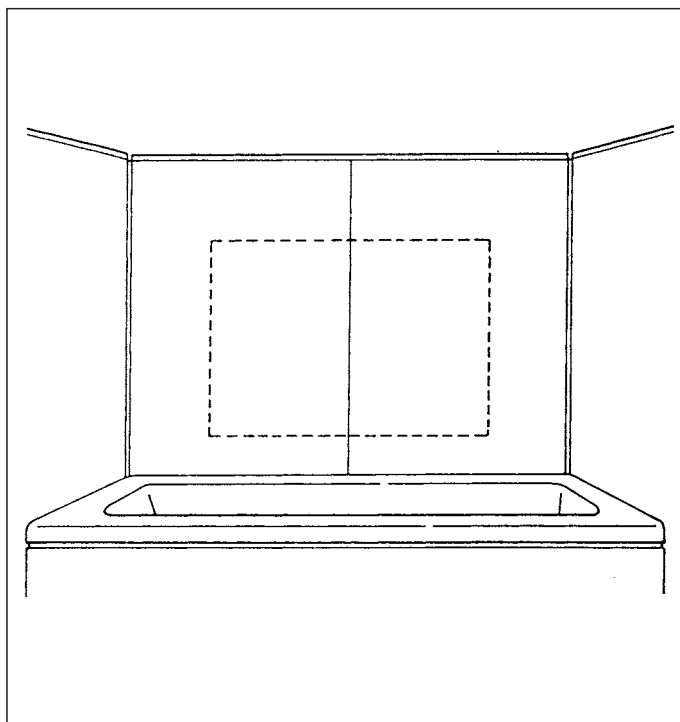
1.電動ドリル（金属きりφ10程度）	2.ジグソー（金属用替刃も用意）　金鋸刃（柄付）	3.曲尺	4.鉛筆・スケール
5.補修液（EKL967X）	6.はけ	7.防じんマスク　防じんメガネ	

作　業　手　順

1.ジョイナー組立

壁パネルサイズに合わせジョイナーを組立てる。

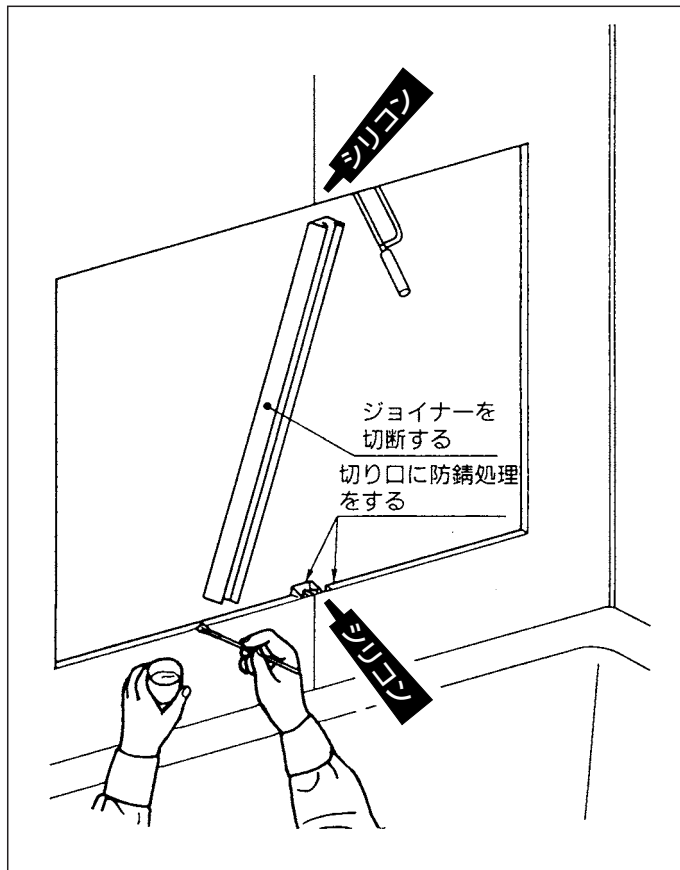
塩ビ鋼板パネル・HQP窓開口要領②

2.ジョイナー補強

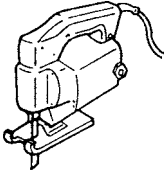
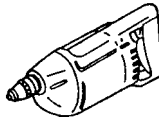
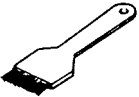
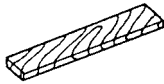
平ジョイナー又は桟木を使用しジョイナーの補強を行う。

- この時ジョイナーの取付ピッチや立ちを下げ振りなどで確認しながらねじ止めを行う。

3.壁パネル開口

- 開口寸法がわかれば壁パネルを組立てる前にカットした方が作業性が良い。

※壁パネルのカットは天井パネルの換気開口と同様の方法で行う。

塩ビ鋼板パネル・HQP窓開口要領③

4.ジョイナー切断

壁パネル・壁目地を完全に打込んだ後にジョイナーを金鋸などで切断する。

● この後ジョイナー及び壁パネルの切り口に防錆処理を行う。

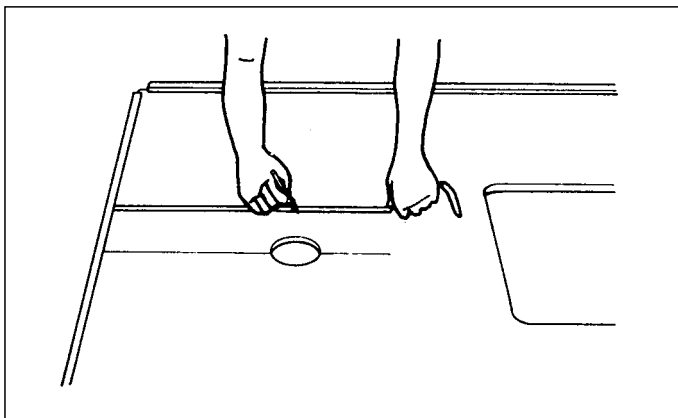
5.防錆処理

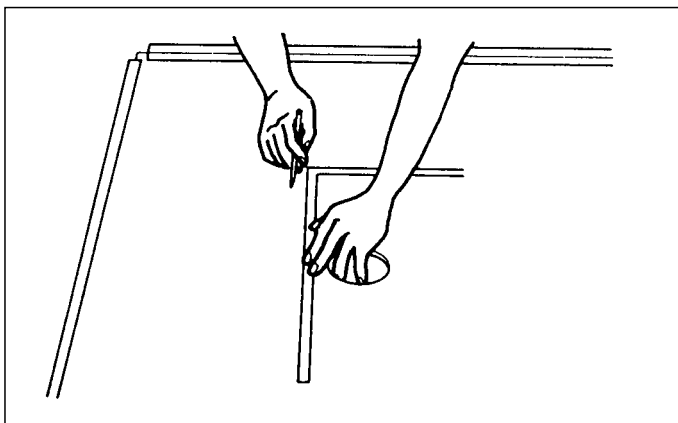
ジョイナーの切断面にシリコンを、壁パネルの切り口には補修液（EKL967X）を塗布すること。

天井換気開口加工要領①

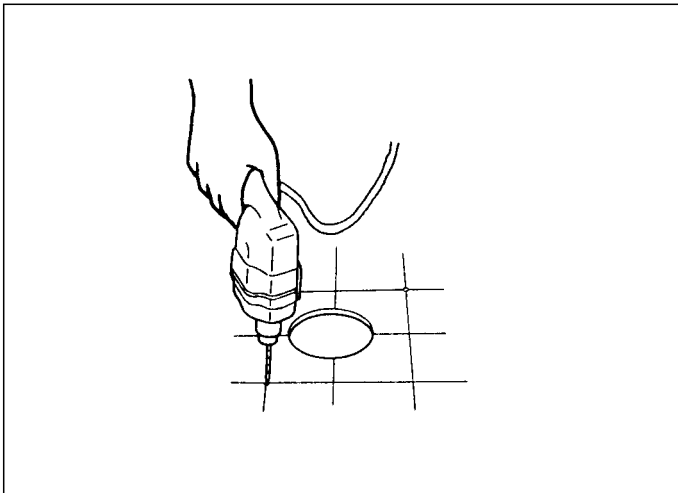
用　意　す　る　も　の

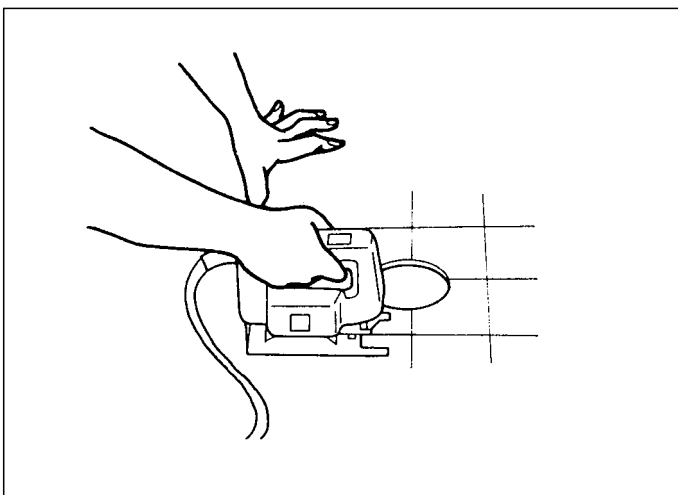
1.ジグソー （金属用替刃も用意）	2.曲尺	3.電動ドリル （金属きりφ10程度）	4.鉛筆・スケール	5.接着剤
6.補修液（EKL967X）	6.はけ	7.補強木 耐水合板1類 厚さ：9mm		

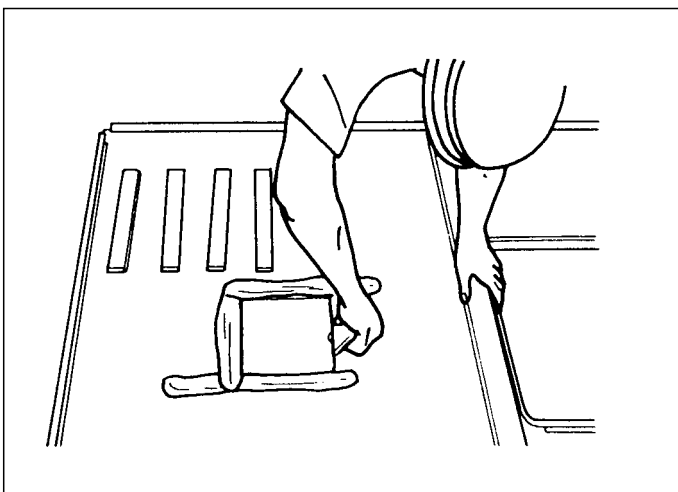
作　業　手　順

1.けがき（表面側からけがく）

(1)まず、中心線をけがく。

(2)次に開口寸法をけがく。

※換気扇の機種により開口寸法が異なるので、機種及び開口寸法を良く確認すること。

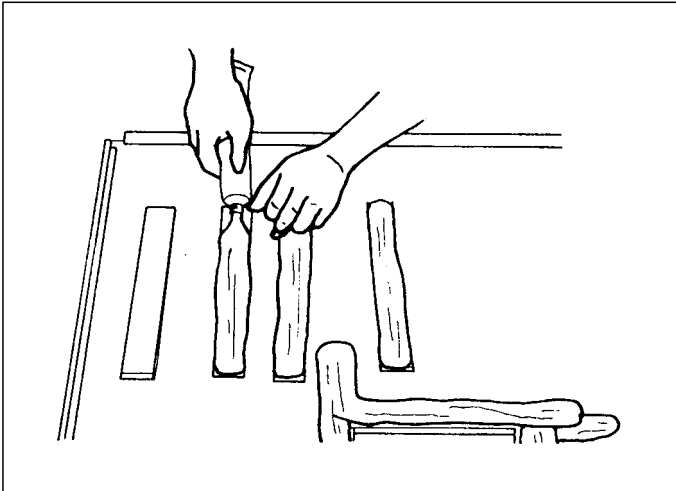
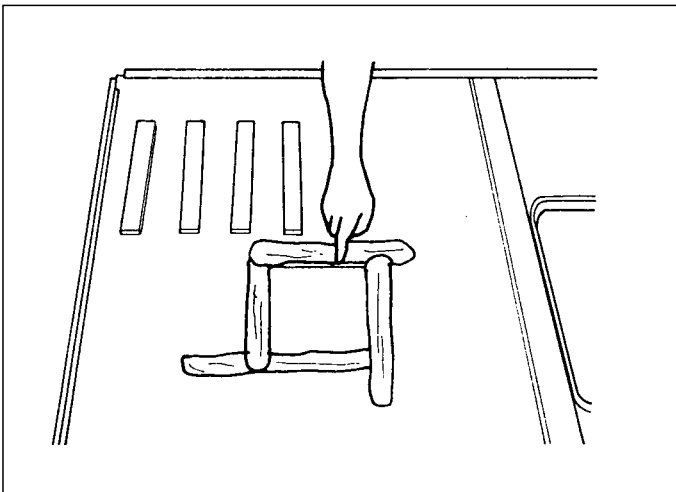
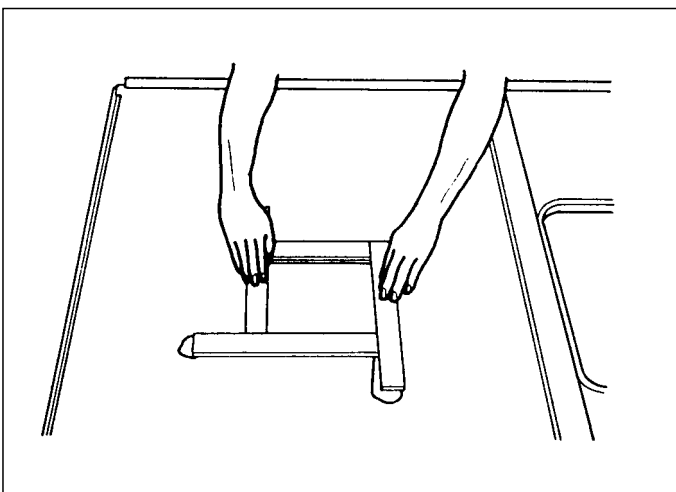
天井換気開口加工要領②

2.コーナー部穴あけ

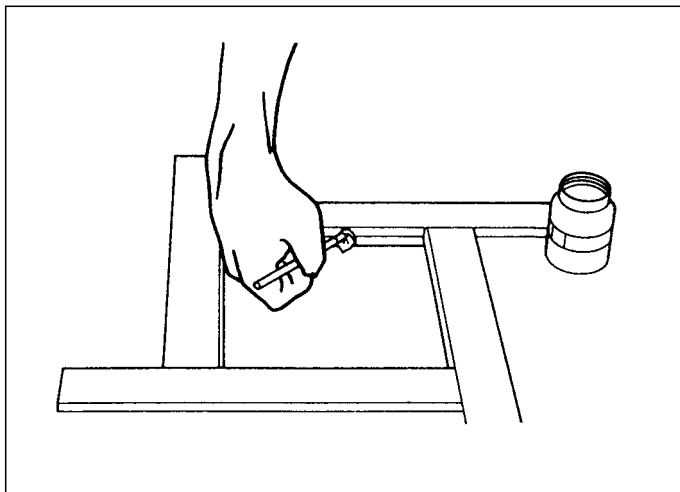
コーナー部（2ケ所）に電動ドリルであらかじめ穴を開ける。（φ10程度）

3.切断

ドリル穴をガイドにしジグソーでけがき線に沿って切断する。

4.補強木接着

(1)まず、天井裏石膏ボード部に接着剤（コニシG17）を均一に塗布する。

※この時、接着剤が開口部にたれないように注意すること。

天井換気開口加工要領③

(2)次に補強木にも同様に接着剤を塗布する。
※防腐剤の塗ってある面には接着剤を塗布しないこと。

(3) 接着剤を塗り終わりましたら約5分間表面を乾燥させる。
接着剤が指にくっつかないことを確認する。

天井開口に沿って貼付ける。
※しっかり圧着すること。

天井換気開口加工要領④

5.防錆剤塗布

最後に防錆用の補修液（EKL967X）を切断面小口に塗布して完了です。